



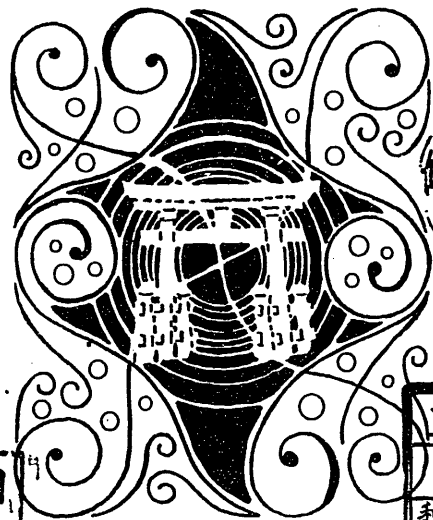
K220.28

72b

K

地理教學同業會編纂

# 帝國新地理



文部省  
圖書  
1901  
共 1 冊

國立教育研究所  
附屬教育圖書館

東京帝國書院藏

副本

641

## 修訂に就きて

- (1) 本書は、高等普通教育程度の地理科の教材たらしめる爲に、編纂したものである。
- (2) 本書は、去る大正十二年末に發行した原本を修訂したものである。
- (3) 苟くも修訂といふ以上は、根本的の改修削訂を實行したのである。
- (4) 今左に、修訂に關する重要な點を掲げて、大方諸賢の批判を仰ぐこととする。
  - 【甲】 挿繪圖の選擇を嚴密にし、且つ著しく其の版數を増加した。
  - 【乙】 都市に關する現代的產物と歴史的名物とを全然區別した。
  - 【丙】 原本以上に口語體を圓熟せしめ、言文一致の地理教科書の率先者たる實を示した。
  - 【丁】 上欄に適切な問題を掲げた。
  - 【戊】 各地方誌は、概ね三節に區分し、地文誌、處誌、人文誌の順序によりて記述した。
- (5) 終りに臨み、江湖の諸君子に對して、本書を完璧たらしむるやう、指教を垂れ給はんことを懇請致します。

# 帝國新地理

## 目次

|            |    |
|------------|----|
| 緒論         | 一  |
| 第一編 地方誌    | 四  |
| 第一章 關東地方   | 四  |
| 第一節 地文誌    | 四  |
| 第二節 處誌     | 七  |
| 第三節 人文誌    | 二〇 |
| 第二章 奥羽地方   | 三  |
| 第一節 地文誌    | 三  |
| 第二節 處誌     | 六  |
| 第三節 人文誌    | 五  |
| 第三章 本州中部地方 | 七  |
| 第一節 地文誌    | 七  |



|              |     |
|--------------|-----|
| 第二節 處誌       | 四〇  |
| 第三節 人文誌      | 五一  |
| 第四章 近畿地方     | 五九  |
| 第一節 地文誌      | 五九  |
| 第二節 處誌       | 六二  |
| 第三節 人文誌      | 六六  |
| 第五章 中國地方四國地方 | 八〇  |
| 第一節 地文誌      | 八一  |
| 第二節 處誌       | 八四  |
| 第三節 人文誌      | 九七  |
| 第六章 九州地方     | 九八  |
| 第一節 地文誌      | 九八  |
| 第二節 處誌       | 一〇二 |
| 第三節 人文誌      | 一〇七 |
| 第七章 臺灣地方     | 一一〇 |

|           |     |
|-----------|-----|
| 第一節 地文誌   | 一一〇 |
| 第二節 處誌    | 一一三 |
| 第三節 人文誌   | 一二六 |
| 第八章 北海道地方 | 一二九 |
| 第一節 地文誌   | 一二九 |
| 第二節 處誌    | 一三三 |
| 第三節 人文誌   | 一三五 |
| 第九章 南樺太地方 | 一三八 |
| 第一節 地文誌   | 一三八 |
| 第二節 處誌    | 一四〇 |
| 第三節 人文誌   | 一四二 |
| 第十章 朝鮮地方  | 一四三 |
| 第一節 地文誌   | 一四三 |
| 第二節 處誌    | 一四五 |
| 第三節 人文誌   | 一四九 |

|               |    |
|---------------|----|
| 第十章 關東州       | 一五 |
| 第一節 地文誌       | 一五 |
| 第二節 處誌        | 一五 |
| 第三節 人文誌       | 一五 |
| 第十一章 委任統治南洋諸島 | 一五 |
| 第一節 地文誌       | 一五 |
| 第二節 人文誌       | 一五 |
| 第二編 總括        | 一五 |
| 第一章 地文誌       | 一五 |
| 第二章 人文誌       | 一五 |

目次終



五 關金嶺 勢



六 河口湖・湖西でじう幸 湖運船

七 富士宮の神雲白

八 湖橋本

# 帝國新地理

## 緒論

圖解 各地方の面積比較

×100里

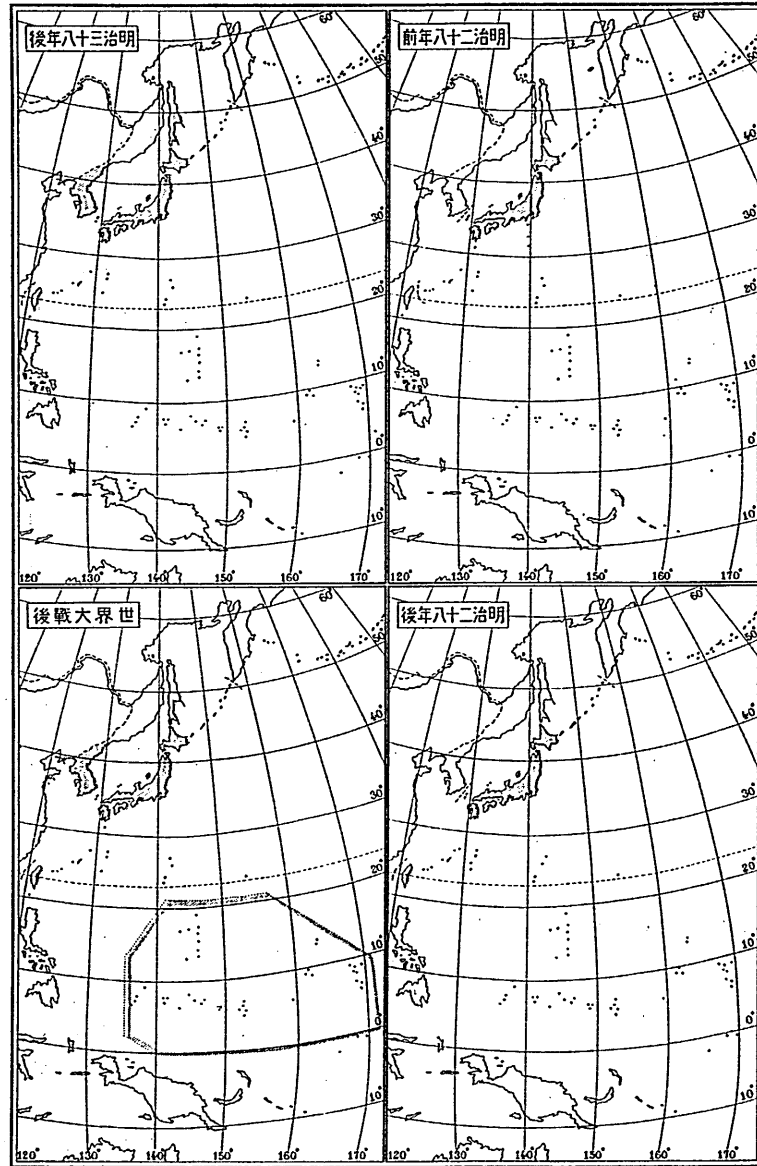
日本地理學習の必要 われ等は幸にも美はしき國土に生れて文化の隆昌なる御代に逢うてゐる。かゝる自然と文化との状態を知るは、日本地理の學習によらねばならぬ。

地境 我が國は、亞細亞洲の極東部に位し、東北(千島)より西南(南洋羣島)に向へる長き(糸島)列島と、南樺太朝鮮半島とより成

|       |       |       |       |    |       |
|-------|-------|-------|-------|----|-------|
| 内地    |       | 朝鮮    |       | 樺太 | 臺灣    |
| 57.0% |       | 32.4% |       | 53 | 53    |
| 内地    |       |       |       |    |       |
| 本州    | 60.0% | 北海道   | 24.0% | 九州 | 11.5% |
| 奥羽    | 17.5% | 中部    | 17.0% | 近畿 | 8.5%  |
|       |       | 關東    | 8.5%  | 中國 | 8.0%  |
|       |       |       |       | 四國 | 5.0%  |

緒論

# 張 膨 の 土 國



我が國の面積三  
平方里之に關東州・  
南洋等を加ふれば  
四萬方里(約萬方  
里)となる  
租借委任統治・利  
權等の語を解きな  
さい

我が帝國の位置を  
述べなさい

圖解 朝鮮國境  
の發備

帝國の四極  
極東(東經一五度  
三分(占守島東端))  
極西(東經二九度二  
八分(花嶺西端))  
極南(北緯二度四五  
分(七星岩南端))  
極北(北緯五十五度  
分(阿賴皮島北端))

緒  
論



り、其の面積は、約六十九萬方  
里で、且つ關東州を租借し、南洋に  
委任統治地を有し、尙ほ滿洲、東  
蒙古、北樺太などに利權を有し  
てゐる。

東方は遙に米國を控へ、北より  
西にかけては、オホーツク海、日  
本海、黄海、東支那海等があつて、  
亞細亞露西亞(シベリヤ)と境し、  
千島は千島海峡を隔て、勘察  
加半島(樺太)は、臺灣は、バシ  
海峽を隔て、比律賓群島(フィリ  
ピン)と相對してゐる。また樺太は、北緯五十度

我が帝國の領土は  
如何なる地方に分  
類せられるか

によつて露領と、朝鮮は鴨綠豆滿の二江と長白山脈とによつて支那と、陸つづきをして居る。

### 區劃

内地

(臺灣・朝鮮以外  
の地)

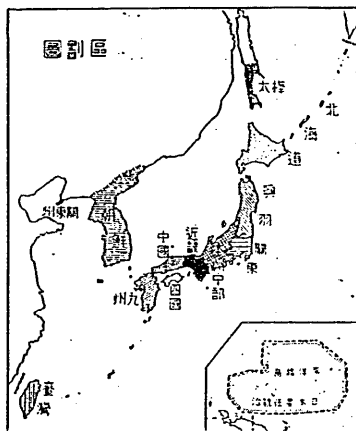
は、畿内・八道(東海・東山・北海・陸山・陰山)又は八十五

ヶ國より成り、更に行政上、北海道廳・三府・四十三縣に分れてゐる。

其の他、南樺太は樺太廳、朝鮮・臺灣は各總督府、關東州委任統治地、南洋は各廳によつて治められてゐる。

本書は、本州を關東・奥羽・本州中部・

近畿・中國の五地方に、其の他を四國・九州・臺灣・北海道・南樺太・朝鮮・關東州・南洋の八地方に分ち、即ち全國を十三地方として記述する。



# 第一編 地方誌

## 第一章 關東地方 關東地方(關東地方)

### 第一節 地文誌

地域 關東地方は、本州島の東南部を占め、一府六縣を含め

| 全 國  |           | 内 地       | 關 東 地 方   | 東 京 府     | 神 奈 川     | 千 葉       | 埼 玉       | 群 馬       | 栃 木       | 茨 城       |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 人口比較 | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         |
| 面積比較 | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         | ●         |
| 人口   | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 |
| 面積   | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 | 一〇〇〇〇〇〇〇〇 |

下表は大正十四年十月一日國勢調査以前のものと、以下に準ずる

\*人口二萬以上の都市が三十有餘ある

る關八州の地で、各府縣とも、面積狭小、人口稠密で、現在、我が國文化の中心をなしてゐる。

地勢 山地は北より西にかけて連り、阿武隈(筑波)・帝釋・三國關東(阿武隈・三國關東)の四山脈と、那須(那須・高尾・日光・白根)・富士(箱根)の二火山脈とがあつて、高山・名嶽・温泉に富み、湖沼・瀑布・溪流の奇勝も、亦なかくに多い。

關東の主要なる山脈火山脈は何々か

關東の主要なる山脈火山脈は何々か

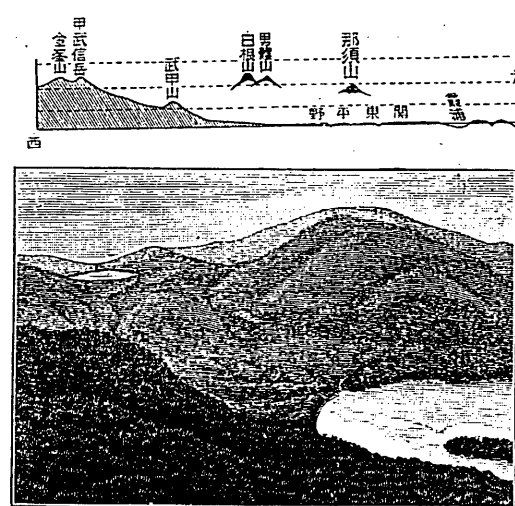
の二火山脈とがあつて、高山・名嶽・温泉に富み、湖沼・瀑布・溪流の奇勝も、亦なかくに多い。



利根川につきて述べなさい

關東地方の主要な山脈火山脈は何々か

關東地方の主要な山脈火山脈は何々か



東南部は、日本の一、關東平野で、其の大動脈をなせる利根川(太坂)は、古來、河道の變遷が多く、數多の支流と霞浦などの湖水とを容れて、關東地方の大半を潤しつゝ、久慈・那珂・荒多摩馬入(模相)の諸川と共に、太平洋に

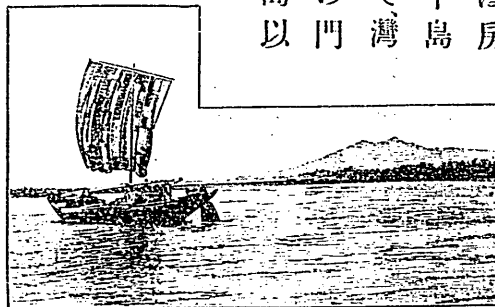
關東の主なる港灣  
を擧げなさい

圖解 霞浦（筑波山が見える、四頁参照）  
圖解 關東海水浴場（三崎）

×筑波風・赤城風・  
棒名風がある



注いてゐる。海岸は房  
 總（天東郡時）三浦（親香時）兩半島  
 間に東京灣があつて、灣  
 口の浦賀水道は其の門  
 戸である。三浦半島以  
 外は、屈曲少なく、鹿  
 島浦九十九里濱相  
 模灣岸は、何れも弧  
 狀の砂濱で、漁場や  
 保養地が多い。



氣候　山地によりて、北西の寒風を防ぎ、近海には、暖流の黒潮がある故、雨量が多く、到る處、農耕に適し、海岸には避暑避寒

管轄  
武蔵中郡  
伊豆七島  
小笠原

東京市の人口は約  
八〇〇萬に達して、  
そのうち市街地の  
人口は六〇〇萬を  
超えている。この  
人口の急増は、主  
として、戦後の大  
規模な都市再開発  
と、郊外への大規  
模な住宅建設によ  
り、人口が集中し  
た結果である。

東京市の人口は、  
戦前（昭和十一年）  
の二五〇萬から、  
戦後（昭和三十九  
年）の八〇〇萬に  
増加した。これは、  
戦後の大規模な都  
市再開発と、郊外  
への大規模な住宅  
建設により、人口  
が集中した結果で  
ある。

東京市の人口は、  
戦前（昭和十一年）  
の二五〇萬から、  
戦後（昭和三十九  
年）の八〇〇萬に  
増加した。これは、  
戦後の大規模な都  
市再開発と、郊外  
への大規模な住宅  
建設により、人口  
が集中した結果で  
ある。

○翅町・本郷・小石川・牛込・四谷・赤坂・麻布・芝・神田・下谷・浅草・日本橋・京橋・本所・深川

院等 × 內閣・各省・大審

の場所が多い。

## 第二節 處 誌

東京府 西北の山地以外は平野が開けて荒川・多摩川（東京市供料水）等が流れてゐる。

東京市は、隅田川（荒川下流）に跨り、東京灣に臨

|        | 二十万石 | 十五万石 | 十万石 | 五万石 |
|--------|------|------|-----|-----|
| 横濱 32% | 24   |      |     |     |
| 大坂 20% | 16   |      |     |     |
| 福岡 14% | 12   |      |     |     |
| 兵庫 13% | 11   |      |     |     |
| 神奈川 9% | 7    |      |     |     |
| 北海道 7% | 5    |      |     |     |

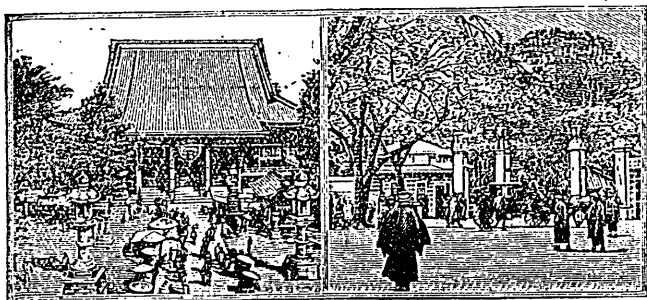
内増八万石

米麦主産地

|                                                                                   |       |        |        |         |             |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-------|--------|--------|---------|-------------|
|                                                                                   | 六萬五千元 | 十二萬五千元 | 十八萬五千元 | 二十四萬五千元 | 三十萬元        |
|  | 1700元 | 1500元  | 1300元  | 1300元   | 1300元       |
|                                                                                   | 原系12% | 日本11%  | 大阪16%  | 北洋堡9%   |             |
|                                                                                   |       |        |        |         |             |
|                                                                                   |       |        |        |         |             |
|                                                                                   |       |        |        |         | <b>肥料</b>   |
|                                                                                   |       |        |        |         | 內地 14,600萬元 |

|          | 四百万円 | 八百万円 | 千二百万円  | 千六百万円 |
|----------|------|------|--------|-------|
| 内期九〇〇〇万円 | 1500 |      | 東京 16% |       |
|          | 1500 |      | 大阪 16% |       |
|          | 1300 |      | 愛知 15% |       |
|          | 1300 |      | 兵庫 14% |       |

みて、面積約八  
十方料を占め、  
世界屈指の大  
都で、十五區よ  
り成り、山、手、下  
町に分れてゐ  
る。略宮城を



して、諸<sup>x</sup>官衙<sup>ガ</sup>

\*一高師帝大、  
商大、陸大、海  
大を始め私立諸大  
學等

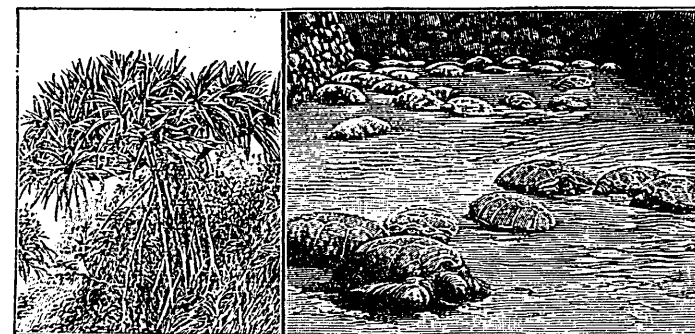
△汽車發着點は東  
京上野、飯田町、雨  
國橋等

圖解 小笠原島  
の蠶繭と林投樹  
(次頁参照)

東京が種々の點で  
大中心なることを  
述べなさい

×陸軍飛行聯隊所  
在地

△大島、新島、三宅  
島は推油を産する  
又大島はバタを産  
する

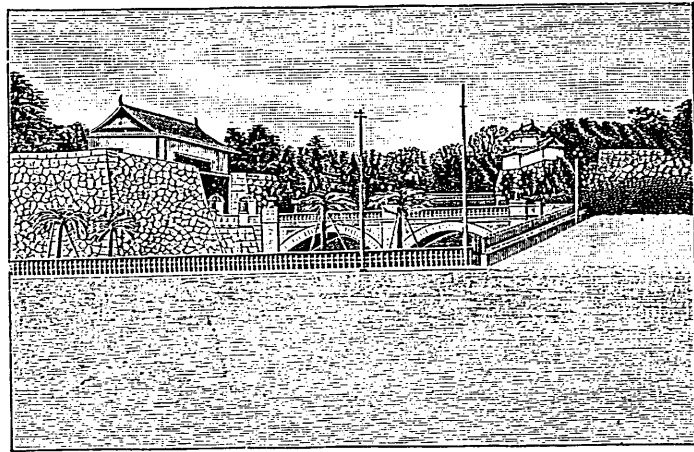


國會議事堂、近衛第一の師團司令部、帝  
國大學を始め諸學校、帝室博物館があ  
る。その他、圖書館、書林、新聞社、銀行、會社  
工場等が多く、社寺公園、處々に散在し  
て、遊覽の設備もあり、實に政治、教育、軍  
事、經濟、交通の大中心である。

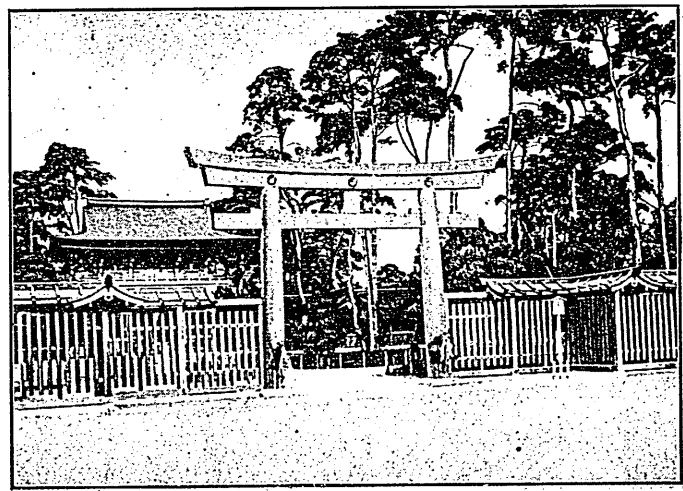
武蔵野は月の入るべきまなし草よりいでて草にこそ入れ  
讀人不知

わがいは松原つぎ海近く富士の高嶺を軒端にぞ見る  
太田道灌

市より西する中央線は立川や多摩川  
を過ぎ、絹織(特に)の盛なる八王子市を  
經、神奈川縣に赴いて居る。  
伊豆七嶋の中、最大なる大島には、三原



城 宮

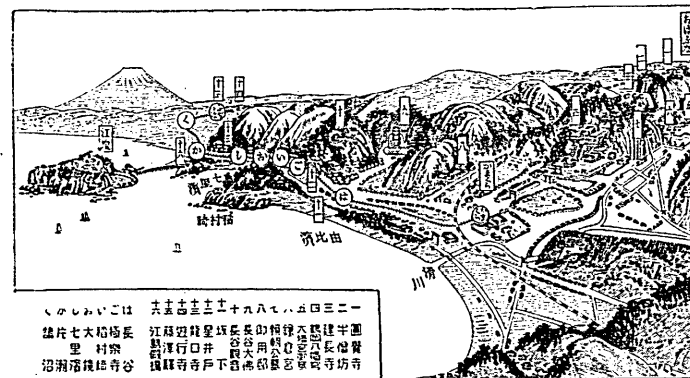


宮 神 治 明





横濱港



鎌倉近所地図

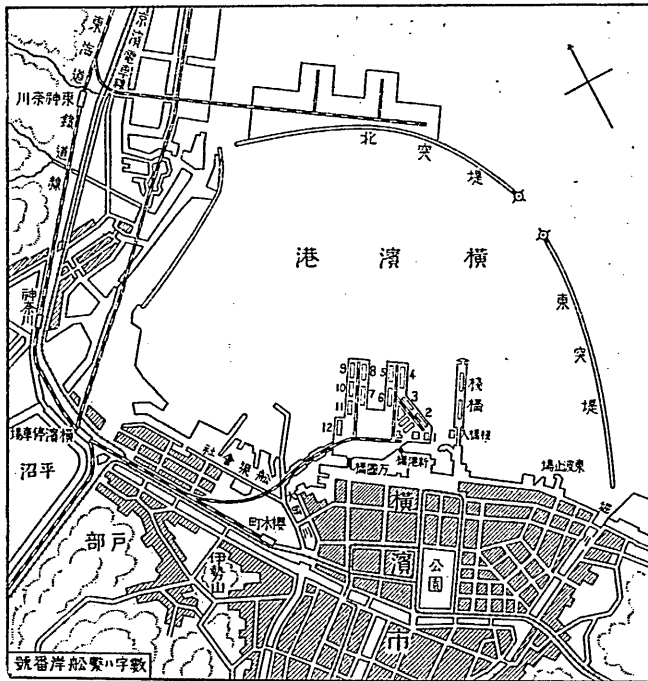
くさしめいこは 共主古主主十九八七ハ五四三二一  
 雄片七太船橋長 江藤近雄皇城長助特許大橋建半園  
 里村察 船津行口井 谷谷用村の谷元長徳賢  
 沼淵瀧橋結寺谷 橋林寺戸下島高部島志島寺坊寺

▲甘蕉鳳梨梨  
 甘蔗蠟蠟林投樹  
 小笠原島の氣候産  
 業を述べなさい

圖解 横濱港  
 (次頁参照)

管轄 相模武蔵南部

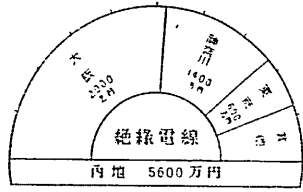
\*南麓の泰野は菜  
 類草の名産地  
 \*観音岬と對岸の  
 富津洲とに堅固な  
 砲臺がある



火山崎つ。八丈島は、八丈絹木炭を以て名高い。南方の小

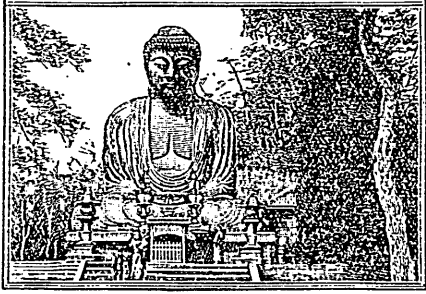
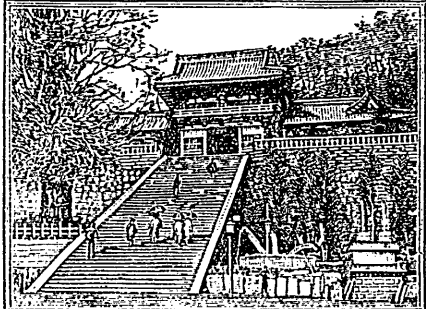
笠原諸島には、熱帯性の生物が多く、父島の二見灣は、唯一の良港で、漁業交通の要地である。尚ほ本諸島の南方に硫黄列島、東南に南鳥島(馬)がある。神奈川県馬入(機組)川以西は、大山、箱根山などの山地で、東南には要塞地帯に

○尖箱の三崎に帝  
大の臨海貨物場が  
ある  
\*高商・高工があ  
る  
\*大阪・東京・名古屋  
京都神戸横濱  
横濱港の特色を述  
べなさい



圖解 鶴岡八幡  
宮・長谷大佛(次  
頁参照)

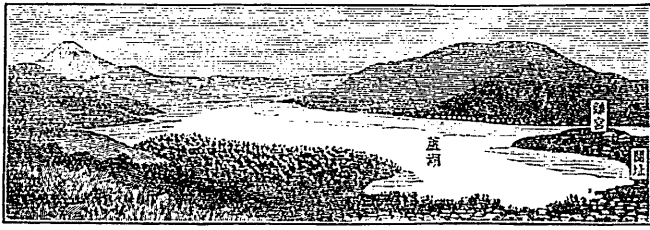
にして、穀粉絶縁電線  
などの産が多い。市  
を通過する東海道線  
は、大船で横須賀線を  
分ち、茅崎・大磯・國府津  
などの保養地を経て、  
静岡縣に入る。川崎



屬する丘陵性の三浦半島が突出してゐる。  
東京灣西岸の横濱市(縣在)は、帝國第二の開港  
帝國六大都市の一で、内外船の出入、居住外人  
が多く、生絲羽二重を輸出して、鐵材・鐵器・綿小  
麥を輸入し、實に北日本の門戸である。近時、

京濱工業地帯とは  
どんなことか

△▲鶴岡八幡宮・鎌倉  
倉庫・建長寺・圓覺  
寺・長谷大佛・箱根  
七里濱等  
鎌倉金澤浦賀小  
田原・箱根の略史  
を述べなさい  
▲南方の久里濱に  
ペリー上陸記念碑  
がある  
\*南方に頼朝墓兵  
地の石橋山がある  
圖解 箱根山中  
の蘆湖等  
\*大地獄に行けば  
火山活動の面影を  
認められる



市は、京濱工業地帯の一部で、名高い大師(平間寺)がある。

鎌倉は、頼朝開府の地で、史蹟名刹に富み、江島  
逗子・葉山の勝地を控へて、大船より汽車、藤澤  
より電車の便を有し、常に遊覧客が多い。軍  
港横須賀市は、第一海軍鎮守府のある處で、追  
濱の飛行場と金澤の勝地とに近く、浦賀と共  
に、造船が盛である。小田原は、熱海方面(互伊)に  
汽車、箱根に電車の便がある。箱根山は、標式  
的の複式火山で、其の火口原には所謂箱根七  
湯をはじめとして温泉が多く、火口原湖の蘆  
湖を湛へて風光明媚、其の畔には、離宮關址が  
ある。近時、ケーブルカーも出來、常に清遊の客  
が多い。

管轄 安房・上総・下総大部

△野島岬燈臺は米國航路船客の目標を爲す併し遊の誕生地  
勝山は牛乳・煉乳の産地

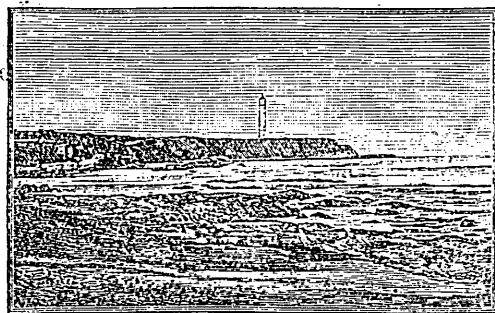
千葉縣の漁港を擧げなさい

圖解 鋸山

わたしや房州千倉の生れさんまひもの出る處 俚語

圖解 大吠岬  
(次頁參照)

下志津に陸軍飛行學校がある



千葉縣 南部なる丘陵性の房總半島には鋸山が屹立して石材を産し、海岸に、九十九里濱・一宮勝浦・小湊・館山・木更津などの漁場や保養地が多く、鐵道の延長につれて、遊覽の客が、年々増加する。北西部は利根・江戸二川が縣境を流れて、手賀沼・印旛沼などの湖沼を湛へ、平野には米麥の産が多く、又牧場・練兵場(兵隊鐵道)に利用せられて、其の間に、小都

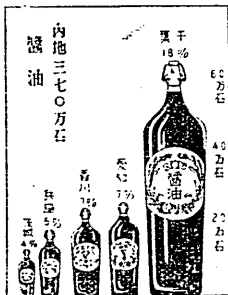
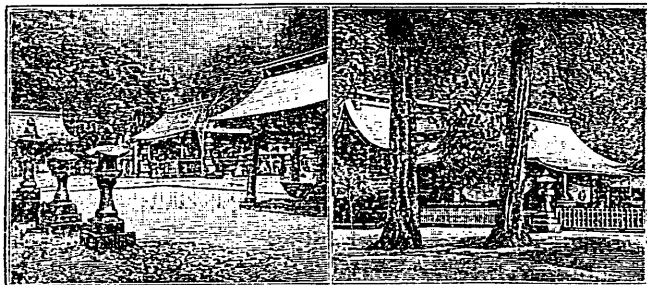


\*利根川口の流港でその大吠岬に燈臺や水難救護所がある

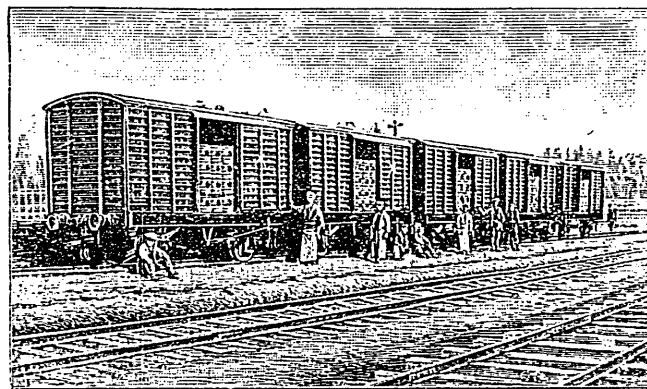
圖解 右香取神宮左鹿島神宮  
圖解 野田の醬油抽出し

△地學者伊能忠敬の出身地

會が多く散在し、流山(球)・野田・銚子・佐原(以上)等の醸造地が少



なくない。  
佐原附近の香取神宮は鹿島神宮(茨城)と共に、實に古社(大宮社)である。總武線は、國府臺(多)を北



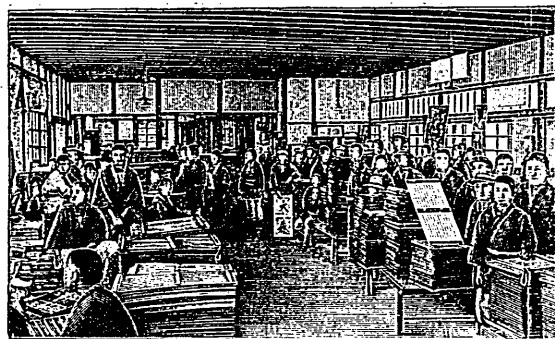
何故千葉市は交通の要地なるか

圖解 成田の不動堂

津田沼・幕張・稲毛などは東京市に近い保養地

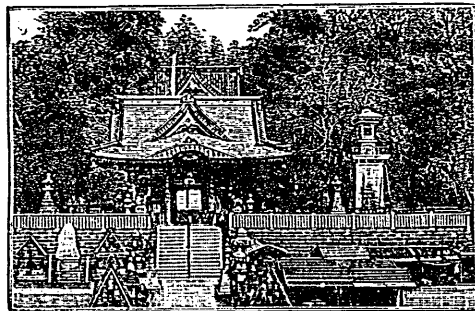
圖解 秩父の絹織物の取引

管轄 武蔵北半  
\*上流に長瀬の奇景がある  
荒川流域の略図を描きなさい



にし、行徳を右にして、千葉・佐倉(新炭)を経て銚子に至る。千葉市(縣廳)は交通の要地で、澱粉(蘇州)を産出する。佐倉に起る成田線は、不動堂のある成田を経て佐原に終る。房總北條二線は、千葉の南方(我蘇)で分れ、各、半島海岸の要地を連ねてゐる。

埼玉縣 荒川は、絹産多き秩父盆地を出て、米麥(國產全)・繭の産多き東半の平野

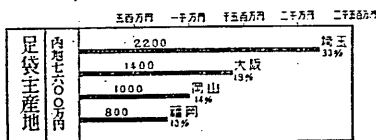
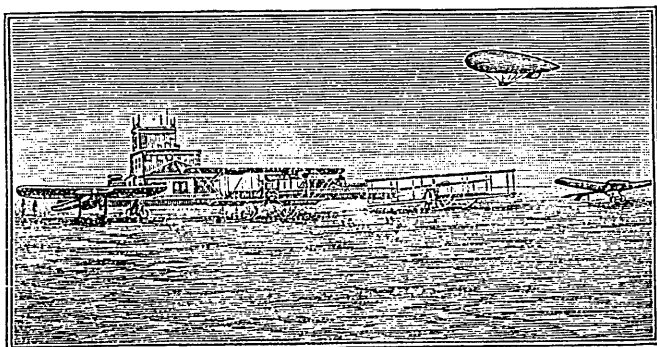


\*絹織物が絹織物より其の産額が多い

飯能は絹織物の産地

圖解 所澤陸軍飛行學校飛行場  
圖解 榛名山と榛名湖(次頁参照)

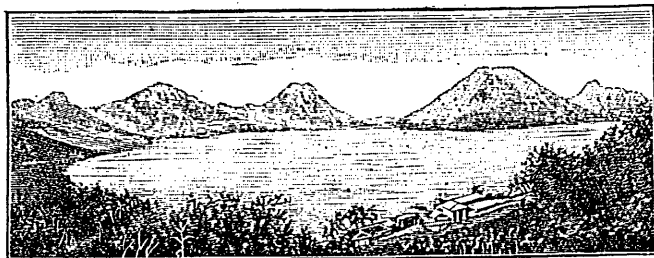
\*鐵道省工場・永川神社所在地



にして又麥酒を産する。北方の忍は足

を流れてゐる。川越市は、絹綿織物と甘藷とで名高く、其の南方の所澤には、陸軍飛行學校がある。

東北線は、浦和(高等學)を過ぎ、大宮で高崎線をつ。南境の川口は、鑄物業盛



△吉見の百穴に近く又秩父に行く要地 深谷は製絲地

管轄 上野

▲渡良瀬川・吾妻川等

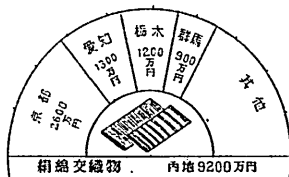
○集塊岩より成る

×四萬・磯部

何故高崎市は交通の中心なるか

△生絲・玉絲の產地

太田は新田氏の出身地で義貞を祀れる新田神社がある  
△横川驛附近より峠の絶頂(三〇米)



袋の大産地である。高崎線上の熊谷は交通の要地で、繭生絲・織物の市場である。

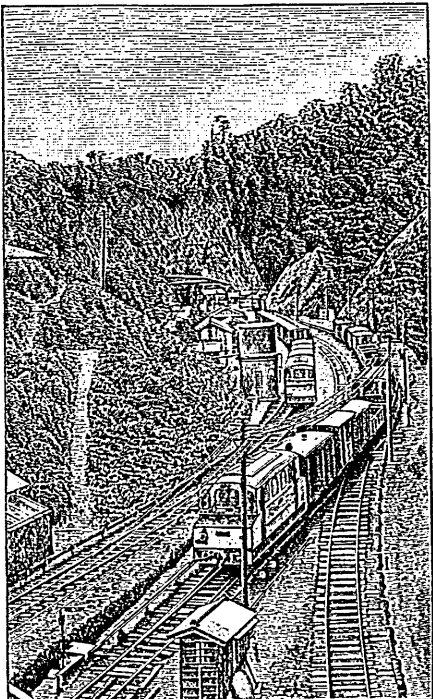
群馬縣 東南隅の館林は、製粉・モスリン工場の所在地である。此の地方以外は、利根の本支流の流れ出づる山地で、風光に富める赤城・榛名・妙義の諸山が峙つて、伊香保(榛名・草津)

(山麓)等の温泉が多い。縣内は、一般に養蠶製絲(座敷に)機業が盛である。

交通上の大中心なる高崎市は、縣廳のある前橋市と共に、繭生絲の取引多く、伊勢崎(絲織)・桐生市(所産)附近は、栃木縣の足利市(絹織物)地方と共に、關東の西陣とも稱すべき大絹織地である。高崎に起る信越線は、アプト式による碓氷峠の隧道を経て、長野縣に

に至る約七哩間て二十六の隧道あり電氣機關車を用ひて居る

圖解 碓氷峠の電氣鐵道



入つて居る。

管轄 下野  
\*那須・鹽原等  
\*那珂湖城の島山  
\*茂木が多産地市場  
\*鬼怒川上流の發電所  
\*所産電力は東京に供給せらる

栃木縣 群馬縣と共に、兩毛と呼ばれる地方で、那須・男體などの山深く、温泉・勝地が多い。唯、東南部の那珂・鬼怒の流域のみに平野があつて、麥・葉煙草・大麻などを産する。小山は、交通の中心で、栃木は、農産物の取引地、佐野は綿織地

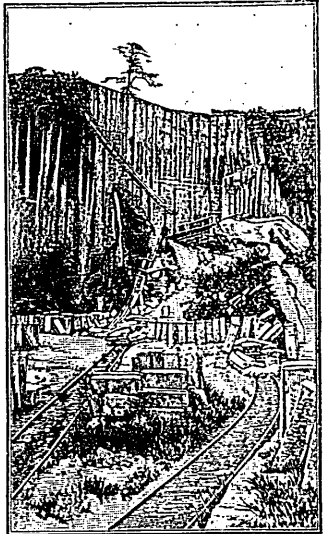
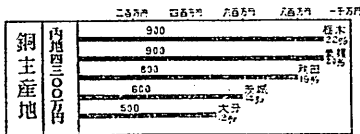
△眞岡木綿の原産地

圖解 大谷石切出しと東照宮の唐門

▲附近は千旗の産地東北日光二線の分岐點

×田母澤にある

て眞岡の米取引の地である。



宇都宮（縣廳第十四師團）市は縣の中心市場で、製粉行はれ、附近に大谷石を産する。

日光は華嚴瀧・中禪寺湖・紅葉等の自然美と、東照宮等の人工美と相俟つて、内外人の歎賞する所で、遊覽の客が多く、また避暑にも適して、帝室御用邸もある。

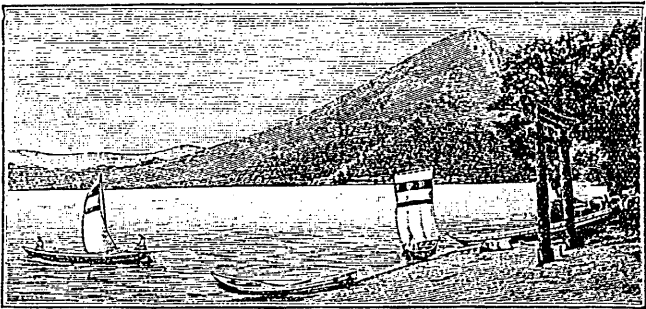
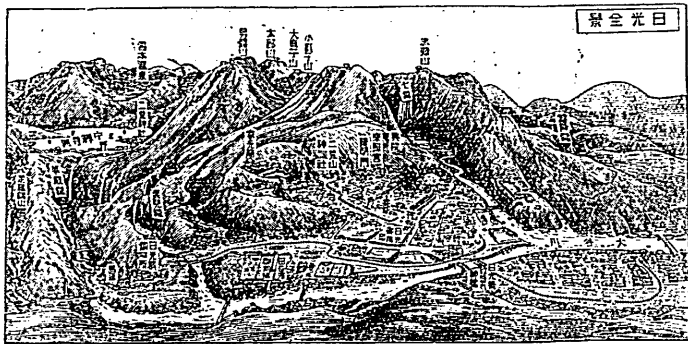


る。其の西南に本邦中屈指の銅產地足尾がある。

日光遊記 名にし負ふ神橋

も東照宮の表門も、共に總朱塗にして、人目を奪ふばかりなり。尙ほ有名な陽明門（日菴御門）は彫刻眞に精妙を極め、又八方睨み、四方睨みの龍、天井に畫かれたり。社殿は金箔燦爛として輝き、其の背後なる奥院には、家康の靈魂（レイト）長へに眠れり。更に大谷川を越れば、急流は、珠玉と砕け、又兩岸の紅葉、錦を織れり。中禪寺湖は男體山の麓に湛へ、其の末なる華嚴瀧は、高さ四十丈、壯絶（タテマツ）絶頂（タテマツ）絶頂（タテマツ）はん方なく、雲見霧降などと、其の名世に高し。

圖解 中禪寺湖





管轄 下總西北  
部・常陸

關東の重要な保養  
地を舉げなさい

※男體・女體の双  
葉に分れ男體山上  
に故山階宮殿下創  
設の洞候所がある

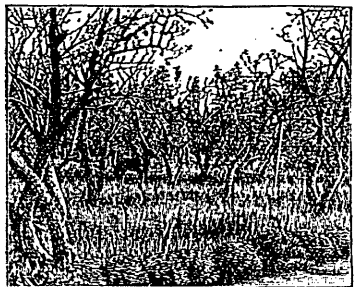
圖解 常磐公園

何故水戸市は交通  
の要地なるか

△附近の阿見に敷  
地八十五萬坪を有  
する壯大な海軍航  
空隊がある

關東の礦産地を舉  
げなさい  
關東礦産業の隆盛  
は米・麥・豆の多産

茨城縣 鰯・鯉の多い鹿島灘の沿岸には、湊大洗・助川などの  
漁港や、保養地が多い。北部の山地には、金銀、石炭、葉煙



草・寒水石(以上太  
地)を出し、霞浦・北浦の海跡湖  
と、筑波の名峰とを控ふる南部平野は、麥  
豆類を多く産する。

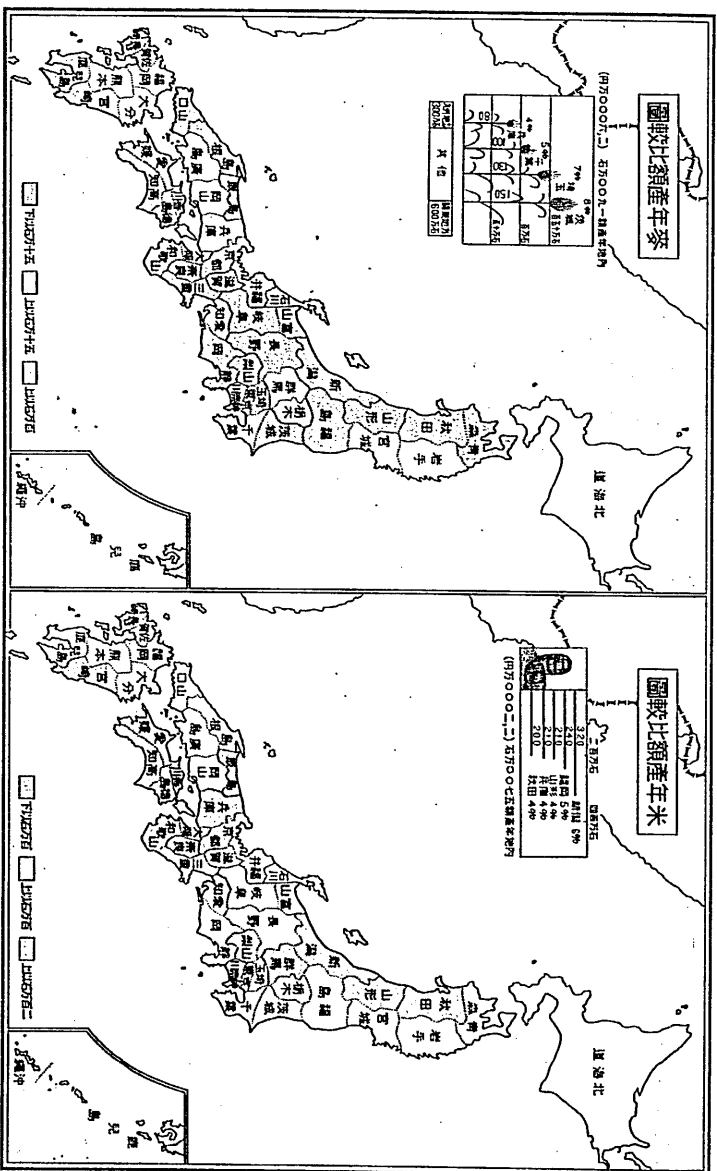
那珂川下流の水戸市(縣廳・常磐校所公園)は、交通  
の要地で商業榮え、又麥粉を産する。水  
戸線上の結城・下館地方は、紬・木綿の名産  
地である。常磐線は、土浦・石岡・水戸・

勿來(關所)を過ぎり、福島縣(城)に通じてゐる。

吹く風をなこそその關と思へども道もせに散る山櫻かな

源 義家

### 第三節 人文誌



△東京灣では海苔を採取する

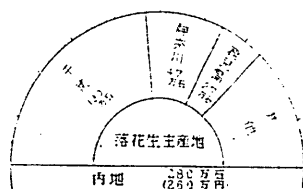
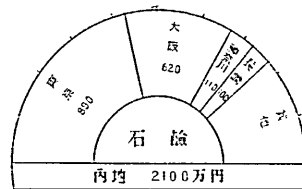
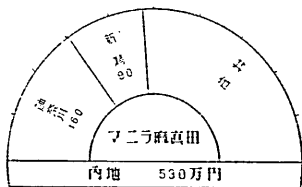
(圖解 日立鐵山)  
(次頁参照)

と水質との關係であつたが現今は交通の發達と大消費地が近いのとて一層盛大となつた  
\*千葉・神奈川二縣  
\*東京附近に多く松戸に高等園藝學校がある  
何故關東の北西部は養蠶が盛なるか關東の織物の大産地を挙げなさい

# 産業

關東平野は、耕地が開けて農産が多く、

米(千)・麥・豆類(城以上玉茨)・甘藷落花生大麻(木)・葉煙草(神奈川・茨城)・蔬菜を産し、北より西にかけては、地質氣候の關係上、養蠶業が盛で従つて多く繭・生絲・絹織物を産する。  
海岸一帯は、暖流(潮黒)の誘ふ鰹・鰯・鮪・鯖等の水産が多く、干鰹・搾粕・鰹節の製造も亦盛である。

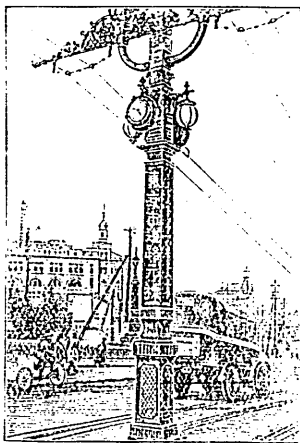
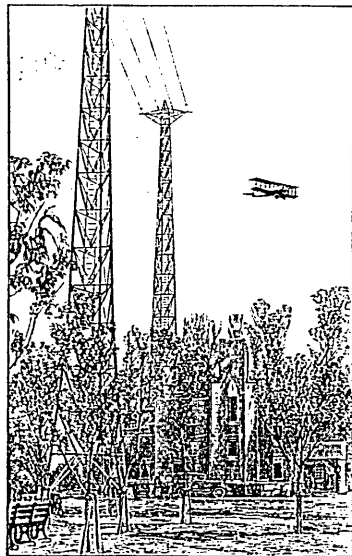




○買鑛・泉鑛共に行はれる  
△紡績・機械製造・製本・製薬・製糖・鑛山製造・鐵道・造兵等  
何故關東の交通は發達したか  
×街道と其の門  
東海道・箱根峠・甲州街道・小佛峠・中山道・碓氷峠・越後街道・清水越・奥羽街道・白河關・濱街道・勿來關  
△東海中央・東北・常磐・總武・高崎・信越・山毛・成田・房總・北條・横須賀等の諸鐵道線  
那珂川は水戸・湊・國府・東京・芝・愛宕山無線電話放送局と日本橋の道路元標  
間に汽船を通ずる

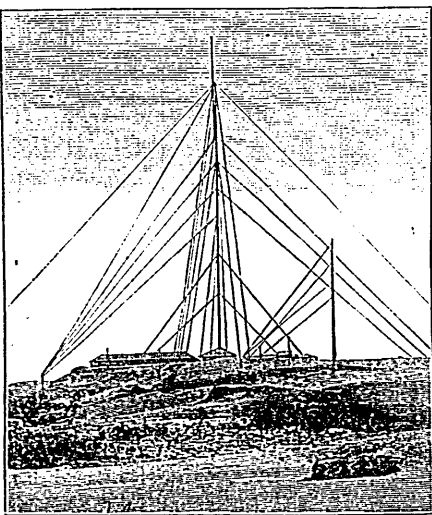
常磐炭田・日立足尾は鑛產地として名高く、特に京濱地方(生産地)の商工業と、北西部の機業とは、頗る目醒しい。

交通 地勢産業政治其の他諸種の事情は、交通の發達を促し、概ね東京を起點として、街道も、鐵道も、能く開け、電車、自動車の利用が著しく増加しつゝある。水運も至便で、殊に利根川は、分流の江戸川と霞浦とに船舶を通じて居る。横濱は、内外航路の中心である。



農業市？ 鑛業市？ 工業市？ 商業市？ 交通市？ 政治市？ 軍事市？ 名勝地？ 市制施行地？ 以下各地方とも右に倣ひ都會を分類列舉しなさい  
圖解 銚子の無線電信

東京・銚子・船橋・岩槻・父島等に、無線電信局がある。  
都邑 文化が開け、住民が稠密で、人口一萬以上の都邑が九十有餘もある。しかも住民は、益都市に集中してゐる。東京附近は、特にさうである。



第二章 奥羽地方 濠洲・太平洋・中部地方・關東地方

第一節 地文誌

| 一里の人口比較 | 全國    | 内地    | 奥羽地方  | 福島    | 宮城    | 岩手    | 青森    | 秋田    | 山形    |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 人口      | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● |
| 面積      | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● |

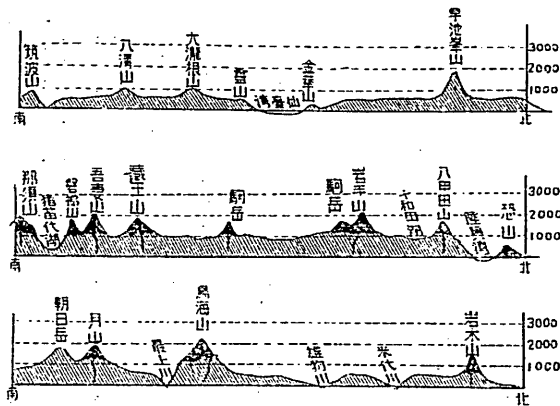
地域 奥羽地方は古の陸奥及び出

奥羽の六縣及び縣  
廳所在地を挙げな  
さい。

何故奥羽の文化が  
他地方より後れた  
か。

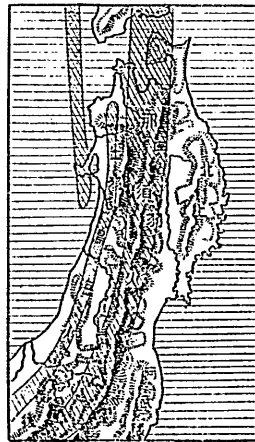
上圖解 奥羽地  
方東部中部西部  
山地南北斷面圖  
下圖解 奥羽地  
方地圖

\*北畠氏勤王の遺  
蹟で山麓に北畠氏  
を祀る別格宮幣社  
磐山神社がある



羽の地で、七ヶ國(三陸、岩手、秋田、山形、宮城、福島、茨城)より成り、本州の東北部にある故、二に東北地方ともいはれる。土地、一方に偏し、且つ氣候が稍、寒冷であるため、文化の發達が、本州、四國、九州の各地方中で、最も後れた。面積は、關東地方の二倍もあれど、人口は、漸く其の半に過ぎない。行政、上六縣に分れてゐる。

地勢 東部山地(北上山脈、阿武隈山脈)、中部(奥羽山脈)、西部山地(出羽山脈、越後山脈)



磐梯山、會津富士、岩手山、南部富士、鳥海山、出羽富士、岩木山、津輕富士、吾妻山、吾妻富士、山脈と火山脈とはどこが違ふか

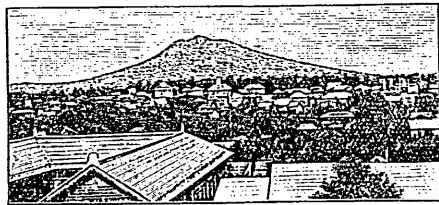
圖解 岩手山

\*東山、飯坂、上山、鬼首、淺蟲等

奥羽の主要な平野(盆地)は何々か、奥羽の自然と人文との關係を述べなさい。

圖解 岩木山

△會津、米澤山形、新庄、横手等、\*外に田澤湖、十三湯、小河原沼等、\*河口の平館海峽は幅僅に三軒



山脈(磐梯、吾妻、王、岩手山、八甲田山等)、西部山地、出羽山脈(山形、越後山脈)、鳥海火山脈(岩手、海、湯、島)は縦走して本地方の骨骼をなし、就中、中央山地は、最も雄大で、諸川の分水界をなし、西部山地と共に温泉が多い。



北上阿武隈二川の縦谷と、岩木、代、雄物、最上、阿賀、五川の横谷とには、盆地や平野が開けて、主要路を通じ、且つそれ、一、地方文化の中心をなして居る。湖沼は、猪苗代湖、八郎潟、十和田湖などが名高く、何れも風光が勝れて居る。海岸は、陸奥、仙臺の二灣と、岩手縣東岸の屈曲と、男鹿半島の突出

津輕海峡と東海上  
とは濃霧が屢起る

\* 樺を交通に用う

國府 十和田湖  
(前頁参照)

奥羽の東西海岸の  
氣候を比較しなさい

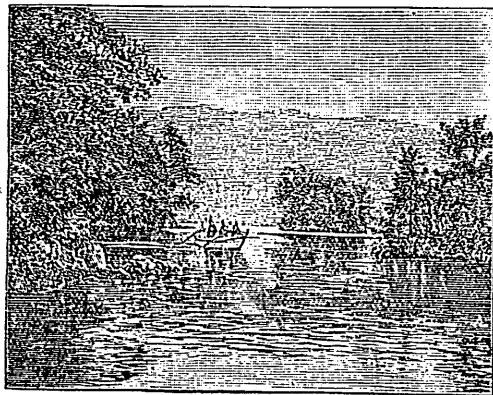
管轄 磐城大部・  
岩代  
\* 沃度・硫酸を産  
する、四倉はセメ  
ント、湯本は煉瓦  
の産地  
阿武隈川流域の産  
業及び都邑につ  
き  
て記しなさい

とが、目立つのみで、屬島も乏しく、一  
般に單調である。

氣候 東岸は、寒流(千島)に洗はれて  
氣溫が低く、西岸は、暖流(海馬)と大陸  
との影響を受けて、冬季に積雪が多  
い。殊に春寒、秋冷の遲速は、往々凶作  
の原因となることがある。

第二節 處 誌

福島縣 縣内は、東部中央の二山地によつて、東(中)西(中)の三部に分れる。東部には、常磐線が通じて、平附近に石炭、中村に相馬焼を出し、富岡原町に磐城無線電信局がある。中部には東北線、阿武隈川が並走して、製絲機業が盛である。



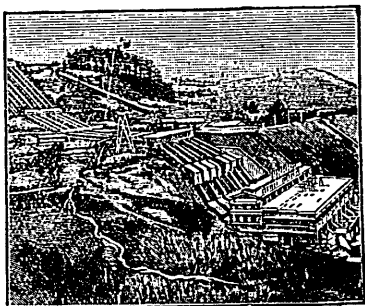
○ 白河、勿来、金珠  
三關は昔時奥羽出  
入の關門  
\* 生絲、絹絲を産  
し、鐵道工場あり  
△ 羽二重産地、川俣  
温泉地、飯坂に近い  
絲綢検査所 福島市の生  
絲検査所

二本松は製絲業地  
▲ 東北方面、磐城山に  
白虎隊の墓、東南方  
に東山温泉、西北方  
に細路山とある  
\* 澁沢川の疏水と  
發電とに利用せら  
れ、電力は東京市に  
送らる

國府 猪苗代湖  
の發電所

管轄 磐城大部・  
陸前大部  
△ 磐前屋附近  
\* 鐵道開通以來其  
の量を増じた

白河・須賀川・三春は馬の市場、商工業地の郡  
山市は又交通の要地である。福島市(縣所、商在)は、東北・奥羽二線の會點で、繭・生絲・羽二重の市場である。梁川は、蠶種製造地として知られて居る。



西部(盆地)の若松市は、猪苗代湖を水源とする阿賀川の支流に跨り、近く磐梯山を望み、形勝の地で、會津塗・會津焼(本郷)を産する。宮城縣西部の中央山地は、牧馬が榮え、東北線の辿れる仙臺平野には、陸前米を産する。北上川口の石巻は、古來、米の船積もて、諺はれた處である。牡鹿半島西

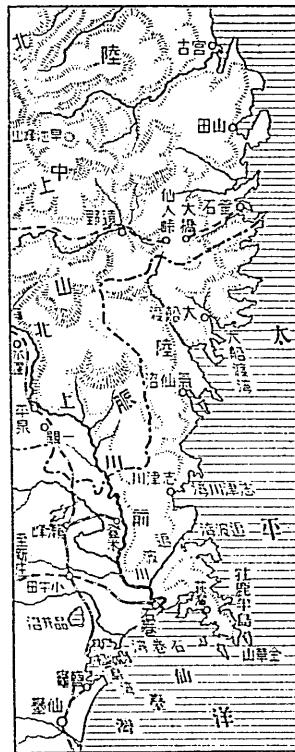


岩沼は東北常磐  
二線小牛田は東  
北・陸羽二線の會  
點  
×東京を距る三五〇  
軒仙臺平・埋木細  
工を産する  
野蒜運河・貞山堀  
と北上川とは小舟  
を相通ずる  
\*高校高工  
仙臺市は奥羽にお  
ける何々の中心か

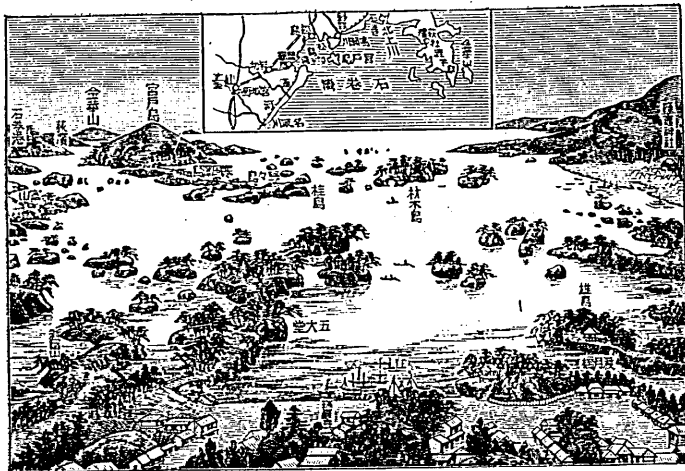
管轄 陸前小部・  
陸中大部・  
陸奥小部・

面積廣大の府縣順  
位 〓岩手・福島・長  
野・新潟・秋田  
圖解 仙臺海以  
北の海岸の風曲  
人口稀薄の府縣順  
位 〓岩手・宮崎・秋  
田・青森・福島

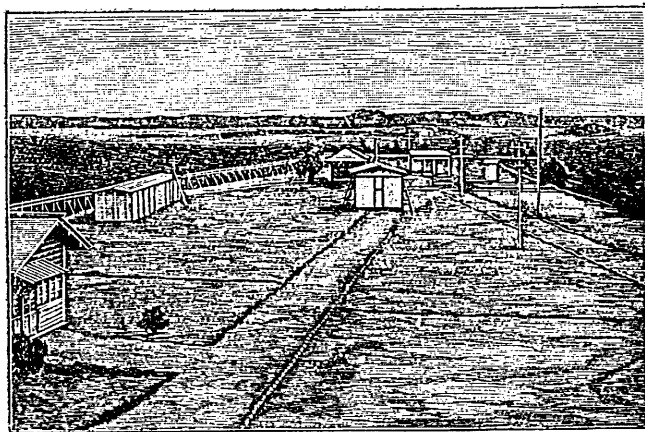
岸の萩濱は横濱・函館間の要津で、金華山の沖合は、鯨・仙臺鮪の漁場である。  
仙臺市は、廣瀬川に臨み、仙臺平野の中心を占め、伊達侯の舊城下で、奥羽中の最大都である。縣廳第二師團司令部・控訴院の所在地で、又東北帝國大學を始め學校が多く、製絲業・機業が行はれる。仙臺の外港鹽釜の前面には、日本三景の一なる松島灣の絶景がある。



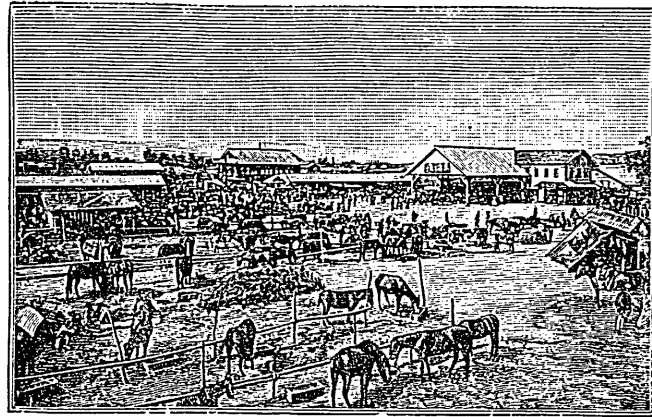
岩手縣 府  
縣中、面積が  
最も大で、人  
口が最も疎  
である。海岸  
は鋸齒状を



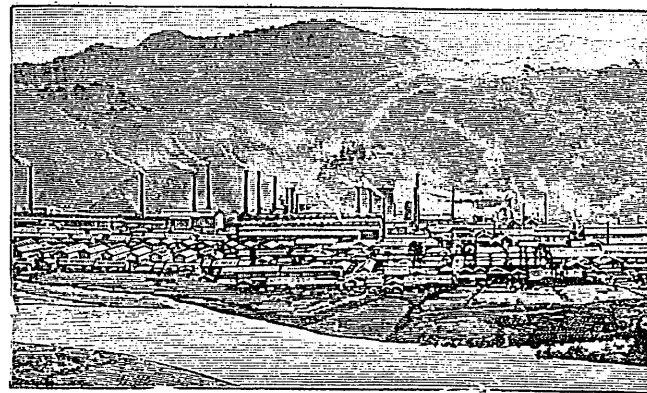
松島



松島



市馬の國整



所鐵製山鑛石釜

＊木材の集散地

何故岩手縣の東部は發達しないか

仙人嶺山にも鐵を産する

▲中尊寺の金色堂は奥州藤原氏全盛時の建築物 衣川は豪族安倍氏の根據地

△紙荷村・タオル・生絲の産がある

圖解 平泉の金色堂と其の内部

平泉・厨川は歴史上どんな地か

| 内陸地方<br>樽主産地 | 3.3             | 岩手              |
|--------------|-----------------|-----------------|
|              | 11<br>高砂<br>11% | 11<br>高砂<br>11% |
|              | 6<br>文選<br>9%   | 6<br>文選<br>9%   |

呈して屈曲に富み、宮古・大船渡等の良泊地があれど、北上山脈に限られて、交通の便が少ないため、唯、内地第一の鐵山を控ふる釜石が、稍、著しいのみで、其の他は、一の漁港に過ぎない。東北線の通ずる北上馬淵の二河谷は、大豆・稗・粟・馬鈴薯・馬等を産し、平泉附近は、甚だ史蹟が多い。

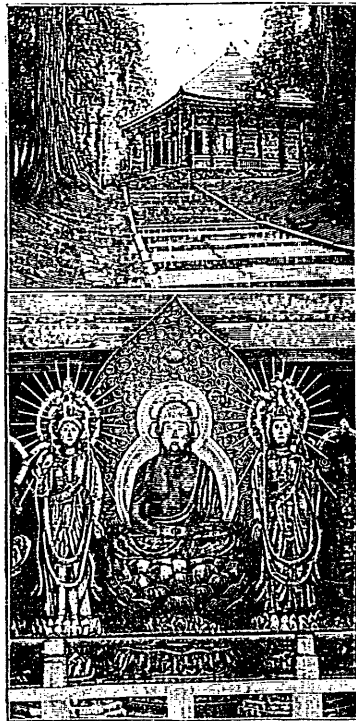
上流なる盛岡

市（縣廳・鐵道工場・農林所在場）

は、南部鐵瓶南

部馬の市場で

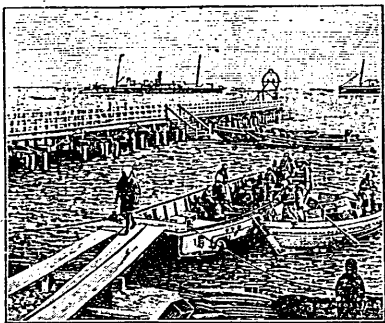
厨川の柵に



管轄 陸奥  
大河・青森間東北  
本線上の重なる都  
邑を挙げなさい

\* 養魚行はる  
\* 附近の石灰岩は  
秋田縣内諸鉄山の  
間解 青森の埠  
頭(次頁参照)  
能培剤となる

\* 夏泊崎により野  
邊地帯と青森灣と  
に分れる



近。一關は、縣の南方入口で、水澤は、緯度觀測所  
(北緯三九)の所在地である。

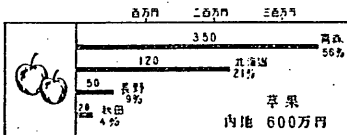
青森縣 津輕海峽を隔て、北海道に對する本州最  
北の半島である。東海岸に漁業(鮭、海、其、原野に牧  
畜業が榮え、西部の津輕平野(岩木川流域)には、米、馬鈴薯、苹

果などを産する。

中央山地に、八甲田山と風光  
明媚の十和田湖とがある。

東北線は、八戸(東部の)附近と三本木・七戸  
の牧場附近とを過ぎ、青森で奥羽線に  
接續する。

斧形の下北半島は、羅漢柏の美林で名  
高い津輕半島と、相似形の陸奥灣を抱



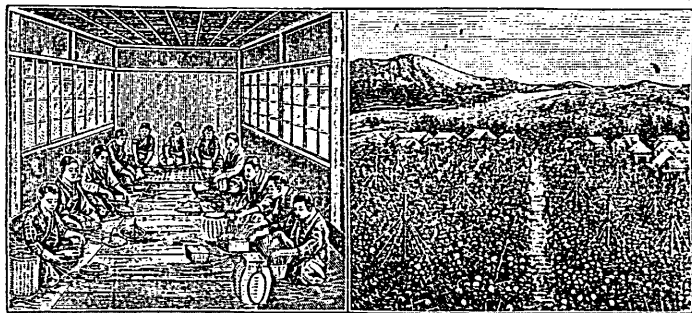
▲ 蠟燭の産が多い  
函館に二軒約四  
時間半を要する

△ 津輕産、木通細  
工の特産がある  
圖解 苹果園と  
木通細工

管轄 陸奥  
羽後大部  
△ 寒風山麓、奇勝  
萬葉宮がある

く。灣の東北隅に、大湊の海軍要港が  
あつて、野邊地より鐵道が通じてゐる。  
縣廳所在の青森市は、本州の北門、本地  
方唯一の開港で、水(青森港)・陸交通の衝  
に當り、製材業が盛である。津輕平野  
の弘前市(高等學府)は、西北に岩木山(津輕)を  
望み、第八師團司令部のある處で、苹果  
木材の取引が多い。

秋田縣 岩手縣と背中合せをしてゐ  
る。奇勝に富める男鹿半島は、長方形  
の單調を破つて、日本海に斗出し、内に  
八郎潟を抱いてゐる。中央山地には、  
小坂・尾去澤等の鑛山が多く、銀、銅の産



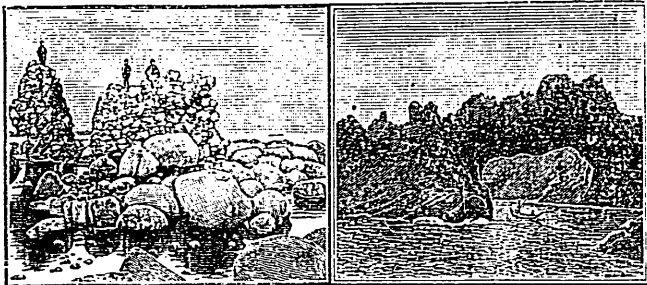


男鹿半島・土崎港・船川港は宮城縣の牡鹿半島・石巻・萩瀬と類似した點が多い。

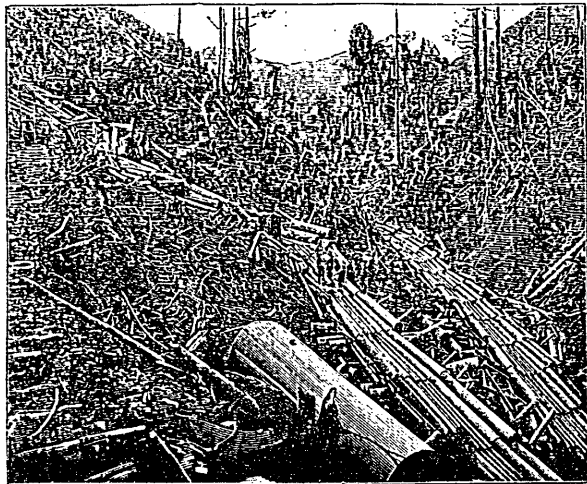
圖解 男鹿半島の奇勝(前頁参照) 圖解 米代川上流の伐木(次頁参照)

○岩手縣黒澤尻に鐵道を通じ附近に金澤樹址がある

△製煉榮え春慶堂をも産する



に入る。米代川口の能代港



額が多い。青森に起る奥羽線は弘前矢立峠を経て、

大館より、米能代川

に沿うて下り、秋田

平野より雄御物河

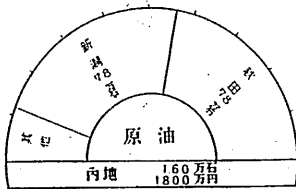
谷の横手を過ぎ、杉

峠を越えて山形縣

奥羽の美林地を擧げなさい

圖解 秋田名産の大略

は、上流に杉の美林を控へ、大館と共に、木材を集散し、挽材が盛である。



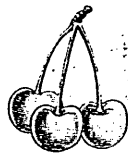
何故秋田市に鐵山専門學校が設けられたか、奥羽の主要なる鑛山を記しなさい

管轄 羽後小部・羽前

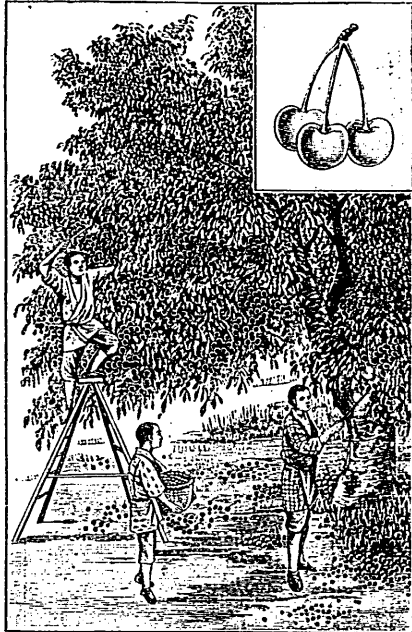


雄物河畔の秋田市(縣廳鐵山専門學校所在)は絹織物(絨織入)・金銀細工を産し、其の外港土崎港(鐵道工場製煉所)附近には、石油坑(豐川、黒川)が多く、又土瀝青をも産する。山形縣 宮城縣と背中合せをなし、北境には鳥海山(當主)が聳えてゐる。最上川は、羽黒山・月山・湯殿山(以上三山)の山嶺と、中央山地との間を流れ、米産地の庄内平野を潤して、日本海に注いで

圖解 櫻桃

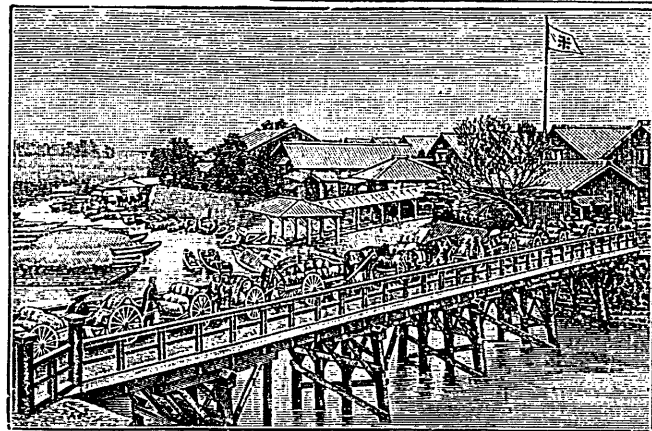


圖解 酒田の米庫入れ



△龜綾織を産する  
 \* 高校所在附近は櫻桃・薄荷の産地  
 \* 上杉燐山の遺跡地、高工所在地  
 △米坑(長井軸)の本場  
 \* 庄内平野(庄内・新庄盆地(最上)・山形盆地(村山)・米澤盆地(置賜)・山形縣の各平野(盆地)の中心都會を答へなさい  
 ○今は多く鐵道で送米する

居る。其の流域は、地形上四區に分れ、上流地方は養蠶機業が盛で、櫻桃をも産する。  
 庄内平野の酒田は、古來米の取引多く、鶴岡市は、機業(羽三)地である。



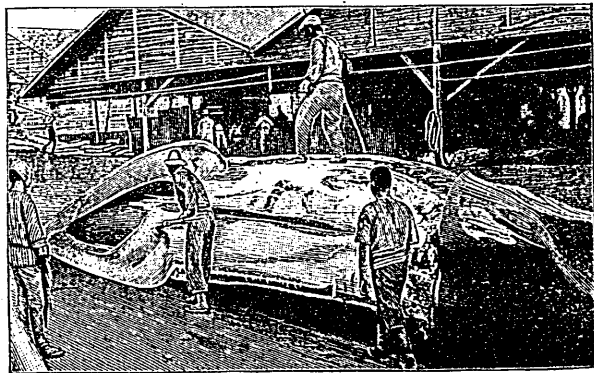
圖解 青森縣鮫の捕鯨

奥羽地方の産物分布圖を作りなさい  
 \* 水産も少なくない  
 い 金華山・鮫(八戸の東方)の沖合では捕鯨が行はれる

奥羽・陸羽二線の相會する新庄は、最上地方の中心である。  
 山形市(縣在廳)は、村山地方(盆地)の中心で、銅器・鐵器の産がある。  
 米澤市は、置賜地方(盆地)の中心で、北方の長井と共に、養蠶機業(特産)が盛大である。  
 奥羽線は、深雪で名高い板谷峠を過ぎて福島に行く。

第三節 人文誌

産業 平野には、米・大豆・馬鈴薯・果實を産し、津輕半島には羅漢柏、米代川上流には杉の美林がある。  
 東部四縣の牧馬と、秋田(雄物川)・岩手

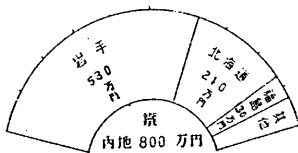




(註)福島(石)三縣の鑛産とは、特に名高く、南部諸縣の絹織物の産も著しい。但し本地方は、文化の開けしこと遅く、面積の割合に住民が少ないので、山林・原野が、土地の大部(地面積の三を占めて、産業の發達が、一般に遅れてゐる。これ即ち東北振興の聲が高い所以である。

交通 東北・奥羽常磐・羽越の四幹線は、南北の交通を便にした。東西の連絡は、海運と同じく不便であつたが、今や磐越・陸羽・横黒の三線が開通した。郡山・福島・平岩沼・小牛田・青森・秋田・新庄は、主要鐵道の會點である。

都邑 仙臺市の外大なるものはないが、鐵道沿線には、地方的の市邑が散在してゐる。但し人口一萬以上の都邑は、僅に三十有餘で、關東地方の三分の一に過ぎない。



奥羽における交通の要地を擧げなさい。

横黒線(横手・黒澤  
尻間)  
東北・奥羽二線の  
北部連絡も一の横  
断線である  
開港は青森のみ

都をば假と共に立ちしかど秋風ぞ吹く白河のせき

松島やあ松島や松島や

富士見ずば富士とやいはん陸奥の岩木の嶽をそれと眺めん

五月雨をあつめて早し最上川

能因法師

松尾芭蕉

藤原定家

松尾芭蕉

### 第三章 本州中部地方

(關東地方・奥羽地方・太平洋)

#### 第一節 地文誌

地域 中部地方は、本州中、幅最も廣く、關東・奥羽二地方と近畿地方との間に挟つて、古來、南北日本文化の接觸點である。行政上九縣に分れ、人口の密度は中庸である。

| 全國       | 内地  | 本州中部地方 | 山梨  | 静岡  | 愛知  | 岐阜  | 長野  | 新潟  | 富山  | 石川  | 福井  |
|----------|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 方里の人口比較  | ●   | ●      | ●   | ●   | ●   | ●   | ●   | ●   | ●   | ●   | ●   |
| 面積(四六八〇) | 三九六 | 四三〇    | 二八九 | 五〇五 | 三二七 | 六七九 | 八七九 | 八一七 | 二七六 | 二七二 | 二六一 |

圖解 本州中部  
地方地勢圖  
日本アルプスの名  
山を擧げなさい

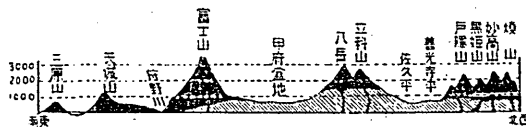
\*白根・赤石等の  
高峯があつて南ア  
ルプスの別名さへ  
附せられ近來登山  
者が多い

圖解 親不知の  
險崖 富士火山  
脈南北斷面圖

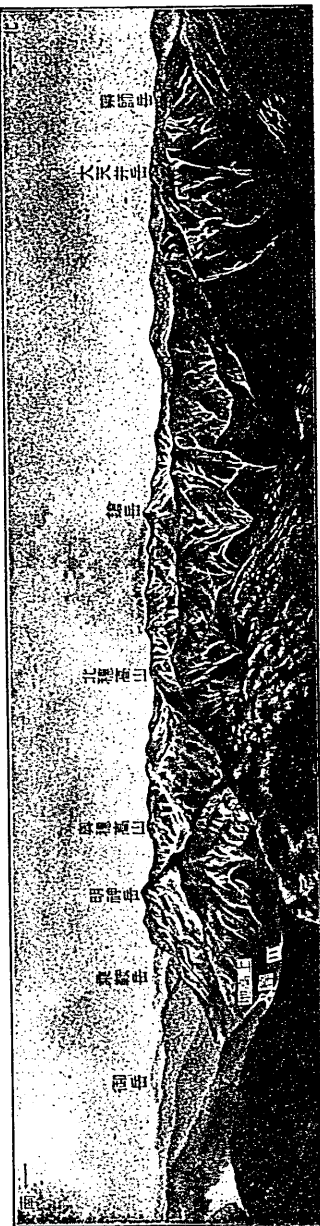


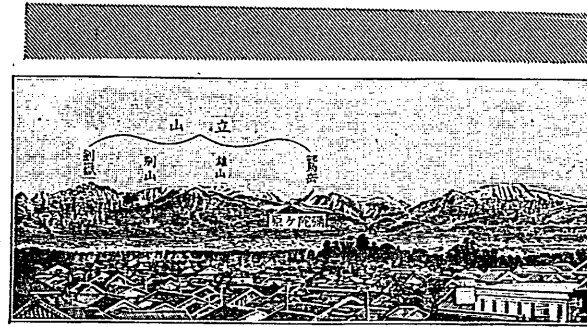
に走つて、本邦屈指の高峰・峻嶺がある。東南には、木曾・赤石の兩山脈が竝走して、東境の關東・越後兩山脈に對峙し、富士火山脈は、遠く南洋より來つて、中部を縦貫してゐる。此の外、西北に、白山を主峯とする白山火山

地勢 東北派・西南派兩山系の會する所で、地相が極めて錯雜してゐる。北方、親不知の險崖に起る日本アルプス(飛騨山脈)は、兩越・飛信の國境を南北

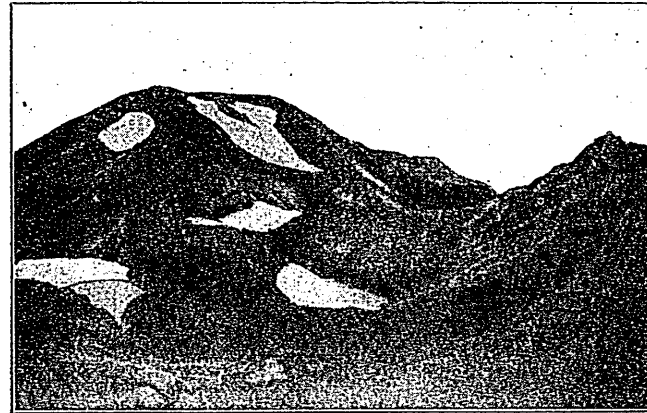


新谷山脈として記される日本アルプス山脈





山 立

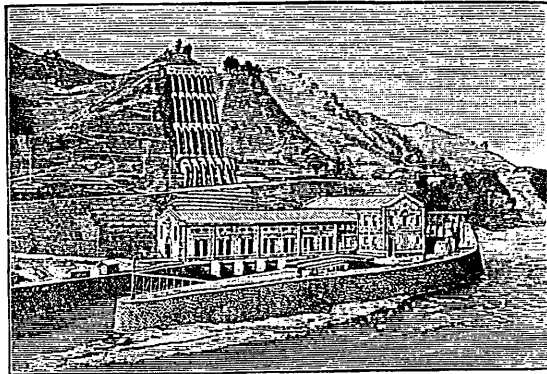


山 白

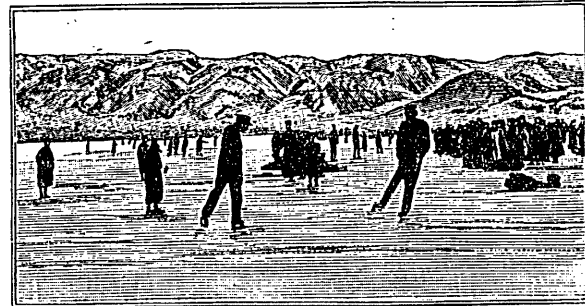
圖解 桂川筋の  
發電所

圖解 諏訪湖と  
スケート(五頁  
参照)

太平洋斜面「桂川」  
富士安倍大井天  
龍聖矢作木曾諸  
日本海斜面「九頭  
龍」野手坂岸  
黒部姫光信濃寺  
阿賀三河諸川



脈と、東境に浅間山を起せる那須火  
山脈と、西境に伊吹鈴鹿の二小山脈  
とがある。かく  
て中央部には、信  
濃高原・濃飛高原  
・甲府盆地を形成  
し、土地は、これよ  
り四方に傾斜し  
て、縁邊に、平野が  
開けてゐる。



長野縣に發する三  
大河と其の流域の  
都邑とを擧げなさ  
い。

△温泉 知多兩半  
島間に三河灣・渥  
美灣四入

伊豆半島は陸海軍  
の實彈演習地

荒海や佐渡に横た  
ふ天の川 芭蕉

\*高地は冷涼で避  
暑に適する

△暖地に出稼ぐも  
のが多い

何故日本海岸は冬  
季降雪が多いか

管轄 伊豆大郡・  
駿河・遠江

△石廊崎御前時岡  
\*間歇泉

大な平野を開いて、殖産上の寶庫をなしてゐる。湖沼は、諏訪湖・濱名湖等が著はれ、富士の北麓には、風光明媚の諸湖を連ね、日本海岸には特有の潟(湖澤)が多い。海岸は、日本海方面の能登半島・富山灣と、太平洋方面の伊豆半島・駿河灣とが、南北に相對する。若狹灣と伊勢海との間は、本州の最狹部をなしてゐる。島嶼は、日本海上の佐渡島のみが著しい。

氣候 南部は温暖・適雨、中部は夏熱・冬寒である。北部の冬季は、深雪が住民の活動を妨げるが、温度は、同緯度の南海岸に比して大差はない。

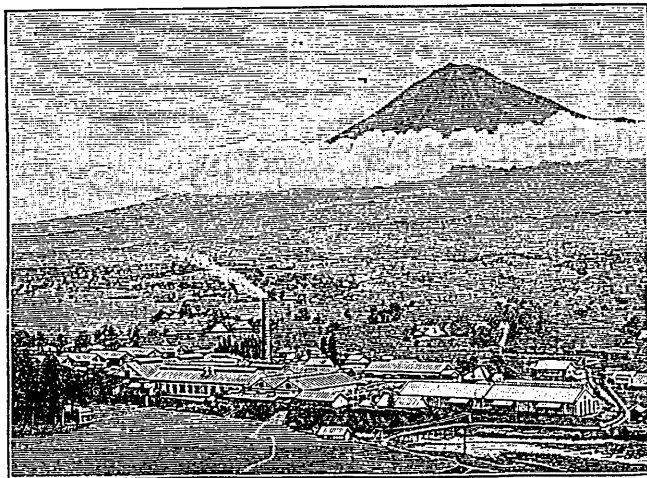
### 第二節 處 誌

静岡縣 相模灣・駿河灣間の伊豆半島には、富士火山脈が通じて、天城山が峙ち、熱海・修善寺・伊東等の温泉が多く、南端に

\*山頂に官幣大社  
淺間神社の奥宮が  
ある最高峯は鍾峯  
富士山を中心とし  
た略圖を描きなさい。

圖解 富士山と  
其の山麓の富士  
製紙工場

はれて候又曇り候  
富士日記 其角



は、史上に名高い下田港がある。東北境の富士山は、直立三千七百七十八米、實に世界の名山、缺尖圓錐形の好模型である。

富士登山 中央線の大月驛より吉田に着し、其の翌朝、富士を仰ぎつゝ、其の裾野をたどれり。一合目より五合目に至るまでは、木立にして雲霧に鎖されしが、下山者は山上の快晴を告げたり。八合目に宿りしに、旅宿は木骨石皮にして、鋤を敷けり。同宿者は、共に中央の爐を圍みて、談笑恰も兄弟の如し。早朝、戸を排せ

里はまだ夜は深し  
富士の朝日かけ  
江川坦庵

圖解 富士山上  
の風景區域(野  
中氏による)

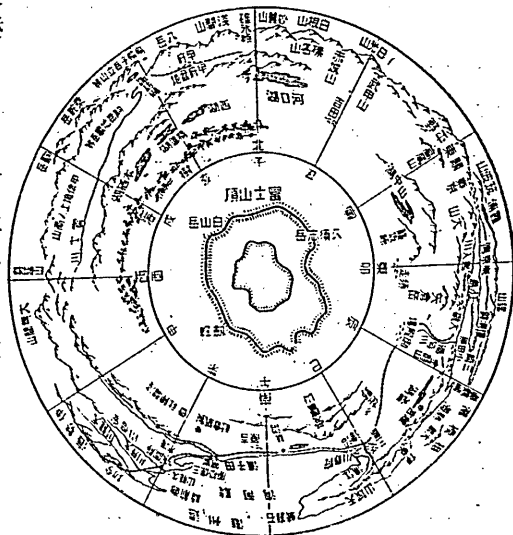
＊動力には富士の  
伏流を利用する  
△何れも發電に利  
用される  
急流は何に利用せ  
られるか  
●富士登山口●御  
殿場須走須山・  
大宮吉田山梨

ば、東天既に淡紅を呈し、更に深紅と  
化し、朝暾漸く昇るも寂として群峰  
の眠未だ醒めず。

げにや富士山頂に立てば、半径二四  
〇杆の視域内に、千山萬水を收めて  
雄心勃々たり。時に雲雨襲ひ來り  
し故、急ぎて砂走に出て、金剛杖もて  
飛鳥の如くに下り、御殿場に達せし  
に、此の地は天氣快晴なりき。

富士の裾野は、三極の栽培に  
よく、又西南の大宮附近(富士製紙  
富士大井天龍は、本縣の三大川なれど、惜しいかな急流にし  
て水運に乏しい。

東海道線上の小山は綿紡績地、御殿場は避暑と富士登山と

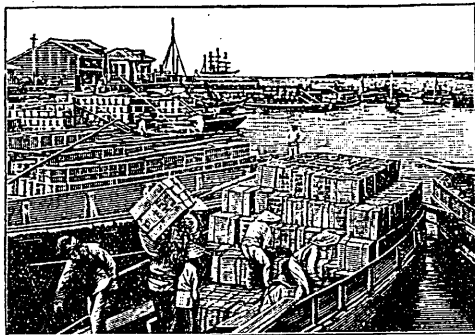


●線上に蓮山があ  
る  
△機業製葉精、茶  
え御用邸がある  
＊茶の輸出多き開  
港で豆油を製造す  
る

圖解 清水の茶  
積出し

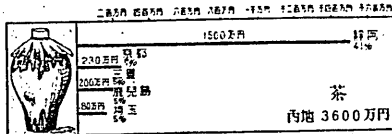
＊漆器・竹細工・山  
葵漬を名産とし東  
南に東照宮を祀れ  
る久能山がある  
駿河湾沿岸の略圖  
を描き主要郡邑を  
記入しなさい  
何故駿河湾岸に保  
養地が發達したか  
＊湖東に飛行場湖  
口に辨天島がある

○北方の三方ヶ原  
は今ほ殆ど茶園・  
果樹園となった



駿河路や花橋も茶の匂ひ 芭蕉

濱松市(高工)は、樂器・帽子・織物(遠州太物)を産し、鐵道工  
場などがあつて、縣下一の工業地である。



管轄 甲斐

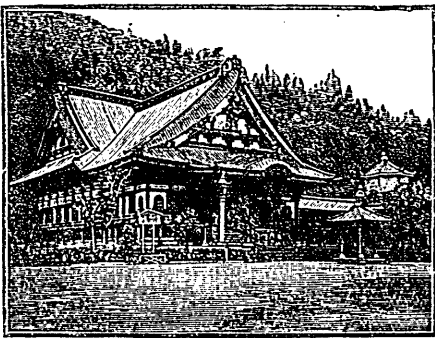
●長さ三哩汽車通  
過八分  
△取引中心谷村  
本縣には甲府市の  
外人口一萬以上の  
市邑がない

圖解 身延山久  
遠寺(大貫參照)  
富士の麓の各地に  
は夏期キアムビン  
グをなす者が多い  
\*馬入川の上流

圖解 山梨縣の  
御獄(大貫參照)  
と猿橋

山梨縣 四周は悉く山地で、所謂峽の  
名にそむかない。域内は、笹子峠(前後に  
十有餘)によつて、甲斐絹(絹)を産する郡内  
と、甲府盆地とに分れる。

富士の北麓には、風光のよい湖沼(山中河  
湖)が多く、山中湖から出る桂川は猿  
橋の奇勝をなし、又發電に利用せられ  
て、山野四十軒の架空線により、水力電



圖解 鰍澤

圖解 勝沼の葡  
萄園

\*日蓮宗の總本山  
久遠寺のある處

\*葡萄酒・印傳細  
工・水品細工を産  
し東北金峯山麓  
(富士支流畔)の御  
獄に昇仙峽増富に  
ラヂウム泉がある  
△東方の天目山は  
武田氏最期の地

氣を東京  
市に供給  
する。

富士川は、  
甲府盆地  
の諸水を  
集め、身延  
山の東を

南流して、

駿河灣に注ぐ。河畔の鰍澤は、富  
士川下りの起點である。

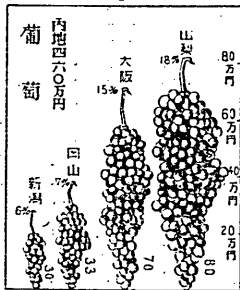
甲府市(縣廳在)は甲府盆地唯一の  
中心で、生絲の産が多い。東方の勝沼附近は、所謂甲州葡萄の



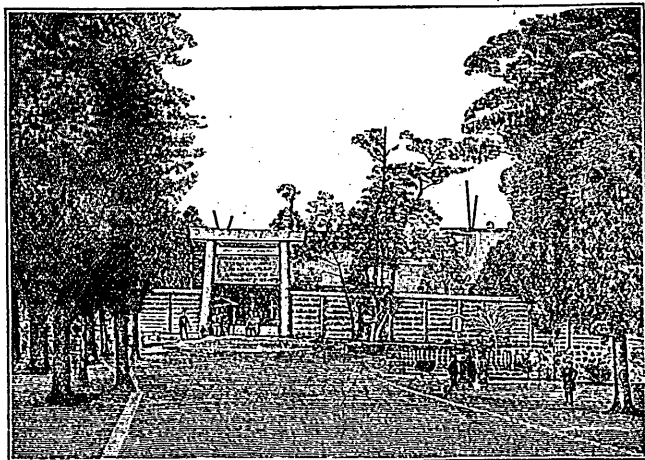
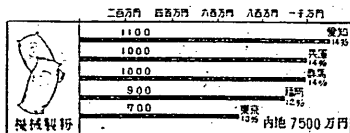


管轄三河・尾張  
一萬以上の郡邑三〇を超え一縣にして奥羽地方のそれに匹敵する

圖解 熱田神宮  
(次頁参照)



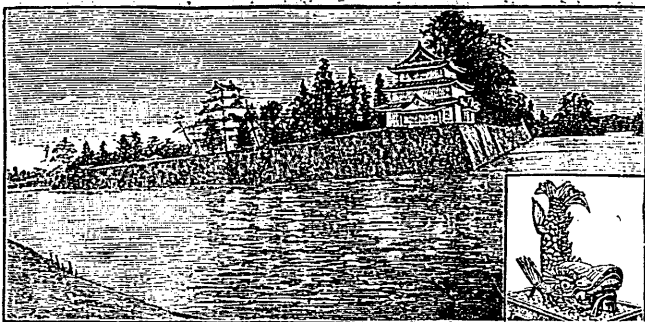
製絲機業が榮え、以西は濃尾平野に屬して、農・工・商の活潑な地方で、米・麥・菜種・蔬菜・綿毛紡織



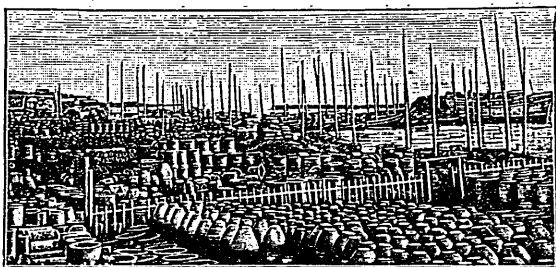
\* 北方に豊川稻荷・鳳來寺山地・火田・長嶺がある  
△ 附近は花崗岩の石材産地  
\* 機業地で彌富に尾西線を通ずる

圖解 名古屋城  
と其の號鐘  
圖解 常滑燒  
(次頁参照)

● 清酒 △ 麥酒  
\* 東海道線・關西線・中央線の會點  
東京まで鐵路三〇四哩  
京都まで三哩  
川親藩の舊城地で舊城内に御園司令部あり天主閣に金襴垣き本丸に離宮がある



に位し、生産力大なる濃尾平野を控へ、帝國





[illegible]

× 上流地方は美濃紙の主産地

管轄  
飛岐阜

圖解 日本アル  
プス南北断面圖

の相異と人文の發達とを比較しなさい

長野縣境に近き中津は製紙地何故岐阜市は紙製品が多いか

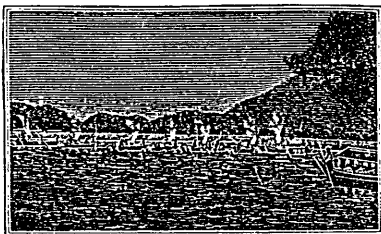
圖解 岐阜産の  
提燈・傘・團扇

圖解 鶏と鶉飼

＊ 南方に養老瀧のある公園がある

● 水松細工・飛騨織・木材を集散する

△ 大家族制度で名高い



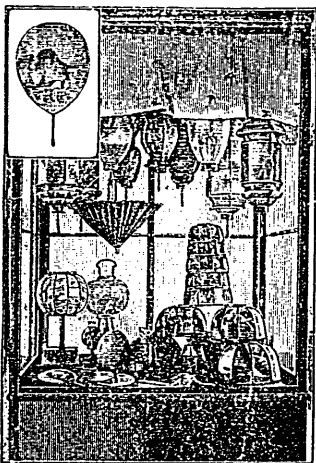
容れて南流する。岐阜市(縣廳等)は、生絲・縮緬・紙製品(提燈傘・團扇等)の産と、鵜飼(ウヰカ)とて名高く、東方の各

務原に、陸軍飛行

聯隊がある。

大垣市は、綿・絲・毛

織物を産し、米の取引が多く、北方なる赤阪は名高い大理石の産地である。鐵道東海道線は、岐阜・大垣・關原・不破・關址を過ぎて滋賀縣に入る。(神通川上流の高山は、白川郷(射水川の上流)と共に、自然の別天地をなし、南に位山(松本・水産地)、遙(ハナカ)の北に神岡鑛山を控へ、飛驒の中心市場で、生絲・春慶塗を産する。



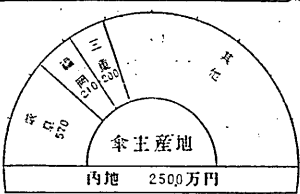
第三の大都會、政治・軍事・交通・教育・商工業の中心製品、車輛、陶器、雜貨（時計・寶珠・蚊香）等の工產品が頗る多港を有し、最近本邦屈指の開港場となつた。

市の東北にある瀬戸は、知多半島の常滑、中央線上の多治見（岐阜縣下）と共に、名高い窯業地である。

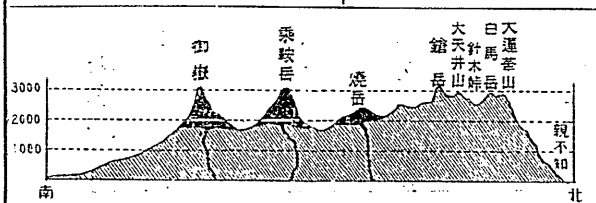
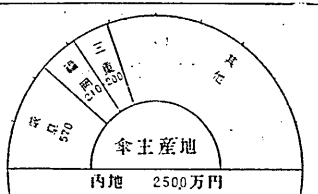
尾三の地は、信長（洲崎）・秀吉（村中）・家康（時國）をはじめ、諸英雄の崛起した處で、史蹟が多い。

岐阜縣 東北部は飛驒高原で、長野縣境の日本アルプスには、鎗嶽・燒嶽・乘鞍嶽・御嶽等の高山峻嶽が聳えてゐる。

西南部は、濃尾平野に屬し、美濃米の産地である。木曾川は、こゝで飛驒・長良・揖斐等を



全生産地  
内地 2500万石



管轄 信濃

\* 上高地・白骨温泉が著はる  
日本アルプスの高  
峯は何々か

× 信玄・謙信の激戦地

圖解 岡谷と其の附近

市 圖解 上川の蘭

△鳥居・鹽尻・和田  
三峠を通ずる一線  
は北信南信の分界  
＊伊那谷・木曾谷  
●諏訪平・松本平・  
善光寺平・佐久平

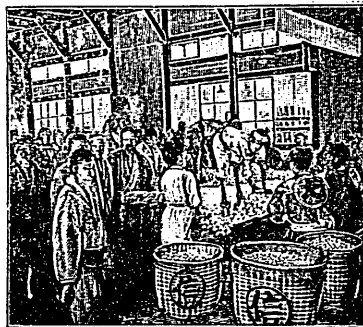
圖解 夏季の輕  
非澤（外人が多  
い（次頁參照）

何故長野縣に蠶業が發達したるか

圖解 善光寺(次頁參照)

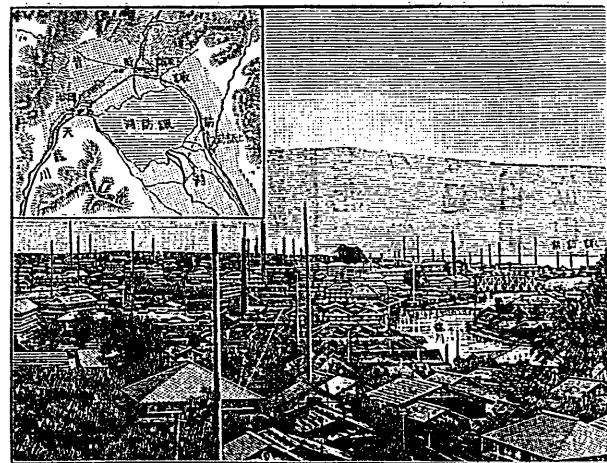
諏訪盆地中心 上  
諏訪小縣盆地 (佐  
久平) 中心 上田  
松本平中心 松本  
△大町と共に日本  
アルプスの登山口  
で高等学校がある  
＊納・肥料を集散  
し蠶絲専門校あり

長野縣 本州の略中央にあつ  
(概口三百  
 米以上)の 大縣で、縣境には、日本  
 アルプスの 諸山(雄高、大天、井、燕、龜、杓子等)や、妙  
 高、淺間、八ヶ嶽、赤石等の 高山が聳  
 えてゐる。 犀千曲サイチクの二川は、川  
 中島に會して北流し、



|        | 二五百万 | 四百万  | 六百万    | 八百万    | 一千万    |
|--------|------|------|--------|--------|--------|
| FCO 产量 |      |      |        | 500 万吨 | 在野 13% |
| 400 万吨 |      |      | 党魁 75% |        |        |
| 300 万吨 |      |      | 15 万   |        |        |
| 243 万吨 |      | 11 万 | 6 万    |        |        |
| 300 万吨 |      | 4 万  | 4 万    |        |        |

内地 7000 万吨



五〇

天龍木曾の二川は、木曾山脈(駒嶽山)を挟み

て南流するので、地勢上本縣は、自ら二つの谷と四つの平野とに分れ、概ね氣候乾燥(寒に  
適する)、氣溫低少(避暑、氷溜  
に  
適する)である。地味農

桑に適して、繭生  
絲・蠶卵紙の産額  
が、帝國一である。

木曾川と中央線  
とは、木曾山中の

檜材<sup>ヒノキ</sup>を運搬し、諏訪湖は、日本第一の製絲地岡谷<sup>オカヤ</sup>を控へて、製氷氷滑<sup>スイカイト</sup>で名高い犀河畔の松本市と、千曲河畔の<sup>\*</sup>上田市とは、繭蠶卵紙の市場で、生



地方誌 本州中部地方(處誌)

五

松代は佐久間象山の生地

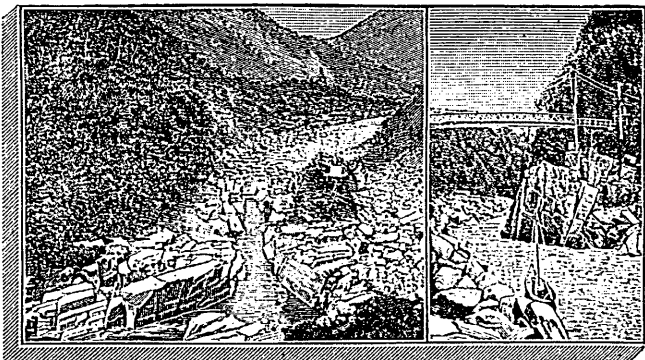
▲篠井線を中央本線の鹽尻に通じ運輸事務所・鐵道工場がある善光寺参詣の乗降客が多い長野縣の自然は如何に人文に影響して居るか

圖解 天龍峽と寢覺床

管轄 越後・佐渡

△別に新津油田・頸城油田がある  
\*土砂堆積し又風浪を避け難い無線電信局がある  
\*佐渡は鰯を産し名産相川は金坑を控へて無名異端を産す

絲をも産する。信越線は、淺間山を右手にし、輕井澤(地)・上田・篠井・長野を経て新潟縣に入る。善光寺平の長野市(縣所善光)は、交通の要地である。飯田(元精木引)は伊那谷・福島(馬場)は木曾谷の中心で、それ南方に天龍峽・寢覺床の勝地を控へてゐる。新潟縣 阿賀・信濃の二川は、南部の山地を突破して、越後平野を開く。平野の越後米と、中部地方の石油とは、産額が多く、機業(羽二重)も盛である。信濃川口の開港新潟市(縣所大)は、鐵工業地で、米・石油の取引多く、佐渡の開港夷を補助港とす



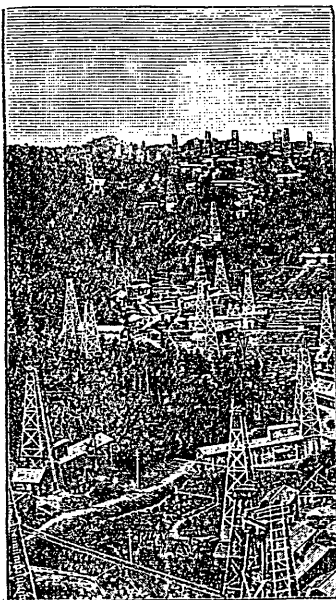
\*綾物板紙を産し新發田と共に米の圖解 油井の高

取引地此の地方で上越北線・魚沼線・柯尼鐵道・長岡鐵道分岐し信濃川の汽船長岡・新潟間を通ずる  
加茂・五泉は機業地  
三條は羽物産地

圖解 スキー(次頁参照)

羽越線上の村上は産地

る。交通の要地なる新津は豊富なる油田を控へて、將來有望である。東山油田を控ふる長岡市は、水陸の便もよく、西山油田を控ふる柏崎と共に、中部の商業地である。



る。其の南の小千谷・十日町(縮以上越後)は機業地として知らる。新潟に起る信越線は、新津で羽越線・磐越線・長岡附近で上越北線・柏崎で越後鐵道・直江津で北陸線と相會する。北陸線は親不知の崖岸を経て

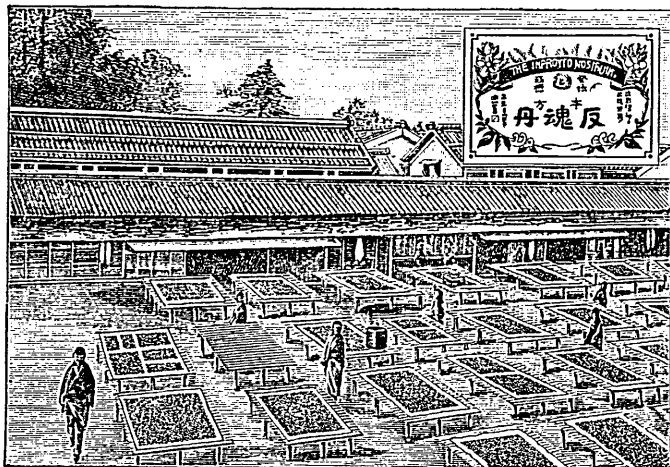
△郊外の春日山は  
上杉謙信の舊城址  
管轄 越中

×峡谷に三奇橋の  
一の愛本橋がある  
新湊・米見・滑川は  
漁港  
富山は羽二重線入  
造ラミー紡績が盛  
である  
富山・高岡二市の  
特色を述べなさい

●漁場で蟹氣楼・  
楚島城が名高い  
△源平の古戦場  
管轄 能登・加賀  
×指先に緑剛卿・  
珠洲卿がある

富山縣に入る。直江津は上越北信に關する貨物の集散地  
で、高田市は深雪とスキーとて名高い。  
富山縣 三方に山を繞らし、殊に東部の日本アルプス中に  
は、雄大なる立山・劍嶽・大連華山・白馬嶽などの高山・峻嶽が屹  
立してゐる。

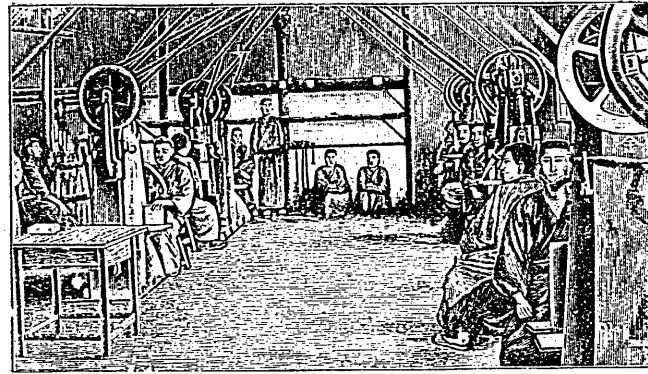
庄(水射)神通常願寺・黒部の四大川は越中米産地の越中平野を  
潤して富山灣に注ぐ。何れも急流で水害を起し易い。製藥  
地の富山市(縣所在校)は神通川に跨り、縣の中樞地で、其の賣  
藥行商は支那南洋にまで及んでゐる。庄川下流の高岡市  
(高所商)は開港伏木(洋紙の産地、越中米穀出港)を控へて、綿絲・銅器・新毛・斯友禪を  
産し、水陸交通の要地である。北陸線は、魚津・富山・高岡を經  
て、倶利伽羅峠の隧道に入る。  
石川縣 南境の山地には、名高い白山がある。手首形の能



富山の製藥工場



富山縣六公園



金の澤金の新工場



金の澤金の九谷工場

何故能登半島は後達が遅い

○山代・山中(漆器産地)栗津の温泉もある  
△合點は津橋

○安宅開港に近い

國解 藤島神社と永平寺

\*金銀箔・漆器・銅器・流精・硬質陶器を産し、大・四高・高工・無線電信局・鐵道工場がある  
金澤市の位置及び其の發達したる所以を述べなさい

管轄 若狹・越前

登半島(山代・山中)は佐渡を招くが如く見える。手甲の輪島は堅牢なる輪島塗を産し、掌中の開港七尾は、日本海の要津で、和倉温泉に近い。北陸線は、七尾線と相會し、湯の多い海岸を西南して福井縣に入る。線上の金澤。小松。大聖寺は、何れも羽二重九谷焼の産地である。

金澤市(縣廳第九師團司令部)は、前田侯百萬石の舊城下、裏日本の最大都、北陸文化の中心地である。金石を外港とし、米の取引が盛である。

福井縣 若狹は、出入の多い若狹灣を控へ、鯛・鰯と、小濱附近の若狹塗とを名産と

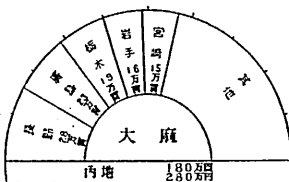
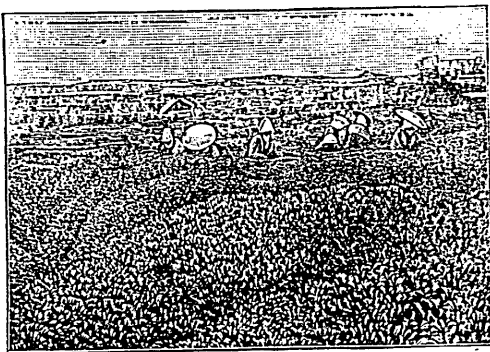


× 川口の三國は米  
の積出港で附近に  
東礪坊の奇勝があ  
る

△曹洞宗の大本山

\* 北陸・小濱二程  
の會點金時宮・氣  
比神宮がある

圖解 茶摘 (次)  
頁參照



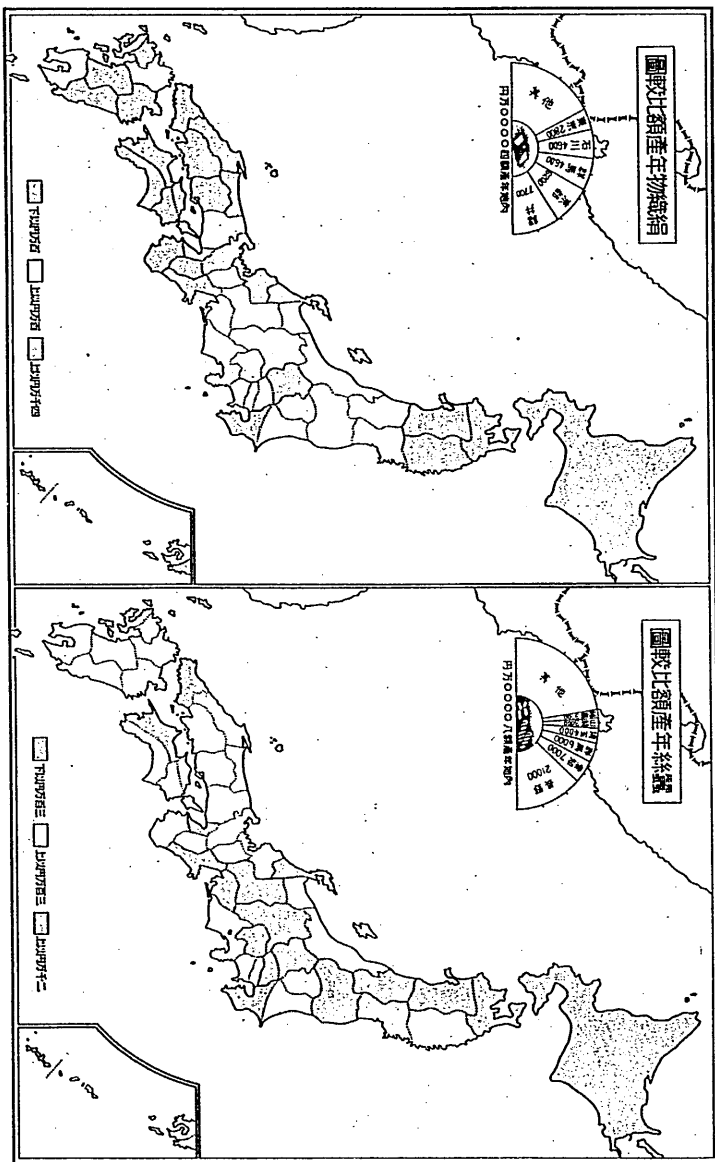
産する。

福井市(縣廳・高工在藤島神社)は、足羽川に跨り、商工が盛大で、其の東方に、有名なる永平寺がある。

敦賀は、日本海岸屈指の開港で、又浦鹽斯德に定期船(四時間)を通じて、大陸に到る北門である。

### 第三節 人文誌

産業 農産は、越後・越中・濃



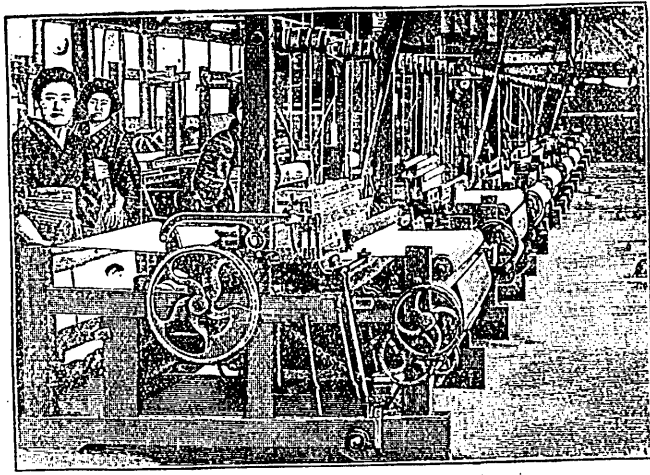


\*蜜柑・梨・桃・枇杷・柿  
 本會の名木柑にさはられずにあすひにけずにあすひにかうや横 但 諸  
 富山縣にも多い  
 前名湖の鹽長良川  
 貼對後諸川の銚  
 も著はる

下關解 羽二重  
 織工場内  
 上關解 製絲工  
 場内

○其の他尾小屋・久根の銅神岡の銀・鈴・銅金峯山の水晶  
 本州中部の米・羽二重漆器紙・金の重要産地を擧げなさい

尾三平野等の米、靜岡縣の茶果、實長野の大麻、長野・愛知・山梨三縣の繭・生絲を主とし、木會天城の木材、駿(駿津)・豆の水産等も著しく、新潟縣の石油、石と油、金、北陸四縣の絹織

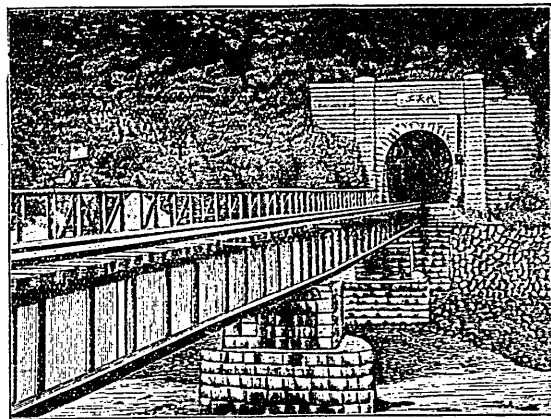




△岐阜石川二縣にも産する  
 静岡・岐阜・福井三縣は製紙が盛  
 長野縣には寒天製  
 造が多い  
 本州中部の開港場  
 を縣別に擧げなさ  
 い

圖解 管子鑿道

奥羽・北陸に於ける日本海岸の重要諸港を挙げなさい



物、愛知縣の綿織物、陶磁器、靜岡、石川、二縣の漆器は、屈指の產物である。商業は、名古屋附近が最盛で、其の港

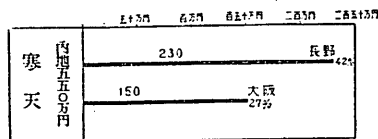
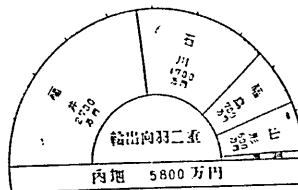
は、清水・武  
豊・敦賀・七  
尾・伏木・新  
潟・夷と共

尾・伏木・新  
 潟・夷と共

湯夷と共

交通 略中央高地の周邊を繞れ

る東海道・信越・北陸の三線と、中部の高地を通じ、筐子峠等の隧道を有する中央線と、これ等と連絡する諸線とがあつて、各地の交通は、概ね便利であるが、北面の積雪と

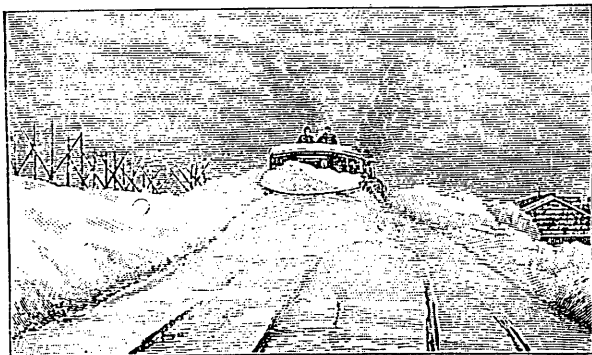


五

名古屋附近は京  
濱・阪神・北九州地  
方と共に四大商工  
業地帯である

圖解 排雪車

何故近畿地方は有名な地域なるか



風浪とは、大に水陸の交通を妨げる。  
日本海岸の港は、多く河口にあるが、良  
港が乏しい。

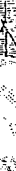
都邑 産業の繁榮に伴つて、都邑も相當に發達してゐるが、大都會は、名古屋のみで、これに次ぐのは金澤・新潟・濱松・静岡である。

## 第四章

近畿地方

隣國本  
地方中  
瀬部地  
内方日  
海日本  
太平洋  
洋中

## 第一節 地文誌


**地域** 本地方は、もと帝國の中樞<sup>スウ</sup>、文化の中心であつた畿内と、其の隣接地とを含んで、行政上、二府五縣に分れ、各府縣とも、面積の狭小、人口稠密の點が、よく關

東地  
方に  
似て

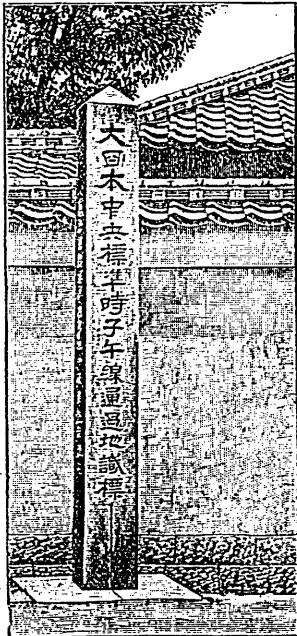
ゐて、共に、我が帝國の最も有力なる地域である。本地方の明石市は、中央標準時となる東經百卅五度の子午線が通過してゐる。

| 一万里の人口比較 | 全國   |      | 内地   |      | 近畿地方 |      | 滋賀   |      | 京都   |      | 奈良   |      | 三重   |      | 和歌山  |      | 大阪   |      | 兵庫   |      |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
|          | 面    | 積    | 面    | 積    | 面    | 積    | 面    | 積    | 面    | 積    | 面    | 積    | 面    | 積    | 面    | 積    | 面    | 積    | 面    | 積    |
| 二四九六     | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 | 二四九六 |

圖解 明石市の中央標準時子午線通過地標

圖解 近畿地方地勢圖

別に淡路島の地盤山脈がある  
伊吹山は日本武尊の功績地遊草多ク高野觀湖所ありスキヤが行はれる



地勢 東西に互れる北部の中國山脈(比其此假鞍馬愛)白山火山

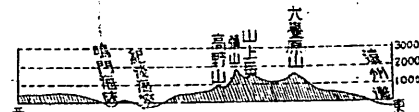
\* 近江・大和・山城(外に伊賀盆地)

圖解 紀伊山脈斷面圖

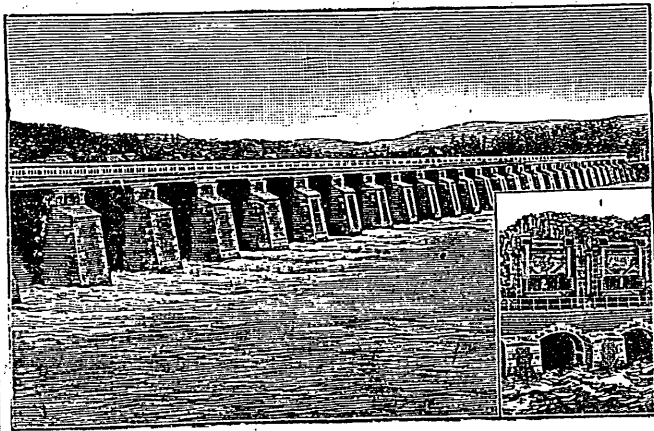
\* 伊勢・大坂・播磨近後地方の平野(盆地)を駆けなさい

圖解 琵琶湖の水量を調節する洗堰

\* 大阪港の土砂堆積や氾濫を防ぐため河川改修工事を施し長柄より新淀川を開鑿した淀川の人文に及ぼす影響を述べなさい



脈と、南部の紀伊和泉の二山脈との間を、伊吹鈴鹿笠置・金剛(生駒・信貴)の四小山脈が、略南北に走つて、其の間に、三つの盆地と平野とが、散在してゐる。河流は、縦横に流れてゐるが、水利に富めるは、水産と風光とを備ふる琵琶湖と、淀川の本支流とのみである。海岸は、日本海に與謝半島(嵯峨)が斗出して、舞鶴・宮津の二小灣を抱いてゐる。太平洋面には、紀伊半島の外に、熊野灘と伊勢海とを



紀伊・志摩兩半島  
と三陸の東岸とを  
比較しなさい

分てる志摩半島(大正時)がある。兩半島とも、其の海岸の地形や産業の狀態が三陸地方の東岸に酷似してゐる。西面は大阪灣と播磨灘とに沿ひて、其の海岸には、名勝地と漁鹽地とが多い。

氣候 南部は高温多雨で、北部は冬季に雨雪が多い。中部は、瀬戸内海海岸地方のみが溫和寡雨で、其の他の地は、寒暑の差が稍著しい。

第二節 處 誌

管轄 近江  
\* 竹生島がある  
\* 瀬田夕照・栗津時風・矢走歸帆・唐崎夜雨・堅田落雁・石山秋月・三井晚鐘・比翼暮雪  
東部山地の森林・砂防工事は見事である

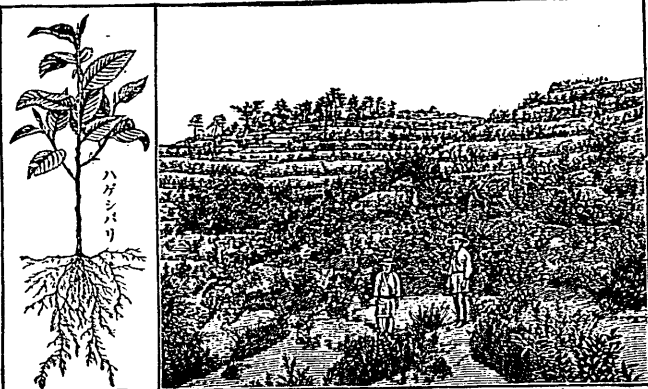
滋賀縣 山地四周し、其の中央には、帝國最大の琵琶湖を湛へて、湖畔の平野には、江州米・繭・茶・菜種等を産する。琵琶湖は、周回二五〇浬、砂防工事を發達せしめた多くの急流を容れ、名高い近江八景を控へて、廻遊汽船さへ備はり、舟運・灌漑・

琵琶湖に注ぐ川及び其の吐口を記しなさい

△日野と共に近江商人の郷土で近江蚊帳の産地  
湖東に近江富士(三上山)と安土城址とがある  
琵琶湖の人文に及ぼす影響を述べなさい

圖解 砂防工事とそれに用ゐるハゲシバリ(前頁参照)

圖解 疏水の入口と出口(次頁参照)



水産の利多く、湖水は疏水と勢多川との二吐口によつて排水せられ、末は大阪灣に注ぐ。

北陸線は、賤岳の附近を過ぎ、濱縮にて名高い長濱を経て米原に終る。之に接續する東海道線は、彦根(高麗)・八幡草津(以上鐵道)と大津とを経て京都に入る。

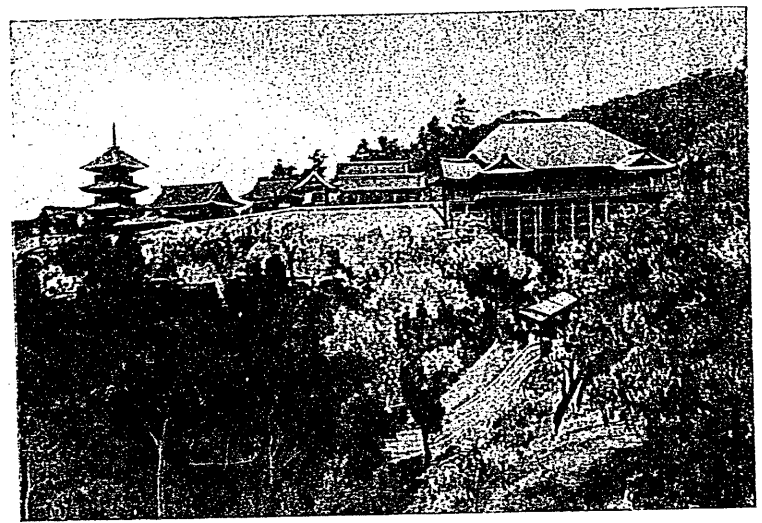
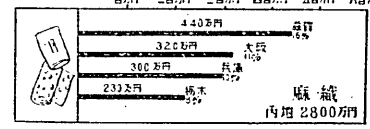


×一名岡城寺  
湖西の青柳に藤樹  
書院がある

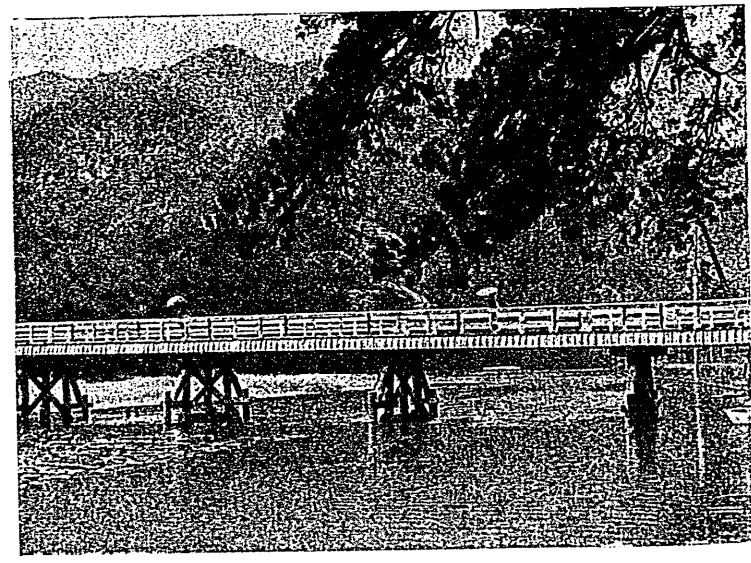
管轄 山城・丹波  
大部・丹後

舞鶴に無線電信局  
がある  
\*砂嘴の長さ約三  
軒で成相山から眺  
めるのが最もよく  
其の股眼鏡が面白  
い  
山河襟帯とは如何  
なることを云ふか

湖南の大津市(所縣在)は、製麻工場の所在地で、主要な湖港である。市の北部に起る疏水は、長等山の隧道を過ぎて京都市に導かれ、水道發電などに利用せられて賀茂川に入る。長等山麓の三井寺と、比叡山上の延暦寺とは、天台宗の巨刹である。京都府 由良川は、養蠶業の盛なる兩丹諸盆地の水を集めて、日本海に注いでゐる。其の吐口の舞鶴灣附近は、要塞地帯で、舞鶴要港を控へ、西方の宮津灣には、白砂青松の天橋立と開港宮津とがある。島嶼の峯山は、丹後縮緬の産地である。東南部は山河襟帯の山城盆地で、宇治・賀茂・桂(江川流)の三川と、笠置山附近を流れ来る木津川とは、相會して淀川となり、八幡山崎の關門を突破して大阪灣に注ぐ。



寺 水 清



橋 月 渡 と 山 嵐

\* 淀川を隔てて京阪電車と並走する  
△下流を桂川、上流を大堀川といふ

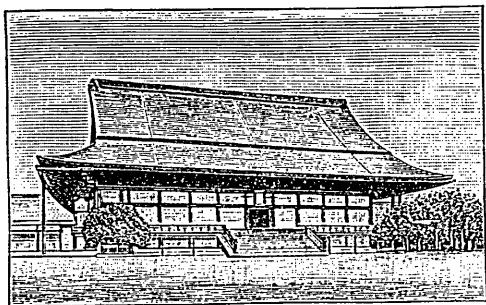
▲東京を距る五百五十軒 上京・下京の二區に分れ京都御所・二條及び修學院離宮・三十三間堂・平安神宮・豊國神社・四山公園・

園解(上)紫宸殿(下)金園寺

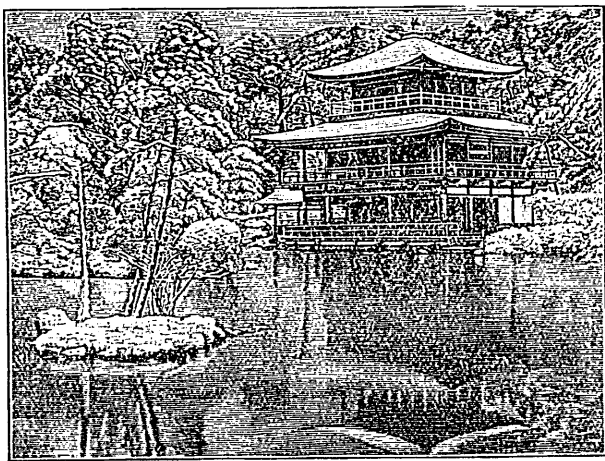
北野神社・嵐山・博物館がある  
學校 京大・三高・府立醫大・高等工藝・同志社大學・大谷大學・龍谷大學・立命館大學

京都市の特色と史實とを述べなさい

\* 東海道線は、淀川と並走し、京都に起る山陰線は、保津川岸を西北し、福知山にて福知山線、綾部にて舞鶴線に會し、奈良線は、關西本文線に會する。



山城盆地の京都市(府廳本部所在)は、賀茂川に跨り、帝國第四の大都で、町筋正しく、一千餘年間の舊都、宗教・技術・學術



\*綾・錦・金襴・緞子・縮緬等  
 \*尙ほ木竹類製品・綿糸・絹製品・紙製品・糸物・袋物・扇子・團扇を産し、伏見と共に人形をも産する

圖解 刺繍と西陣織工場

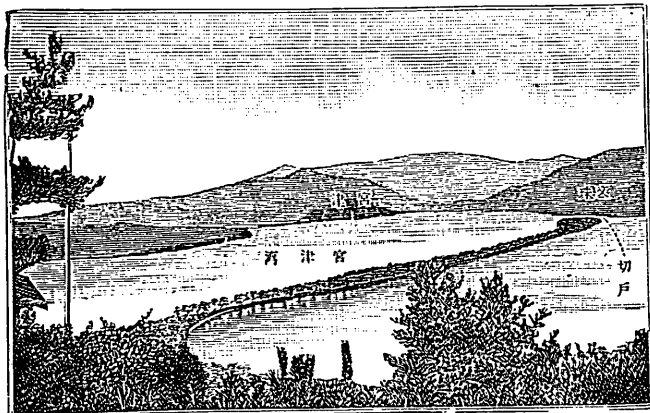
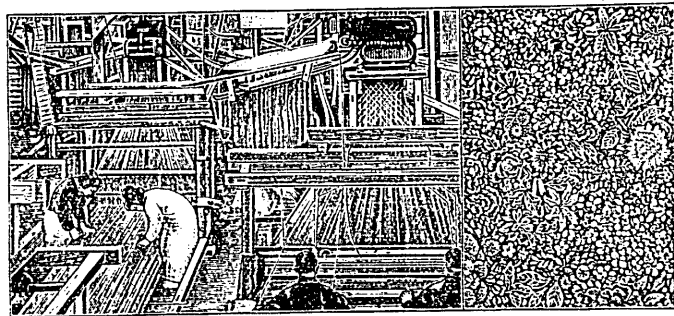
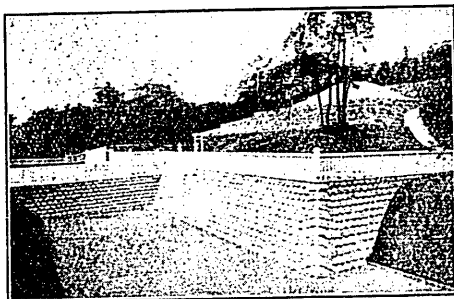
圖解 桃山御陵(次頁参照)

▲清酒の産が多い

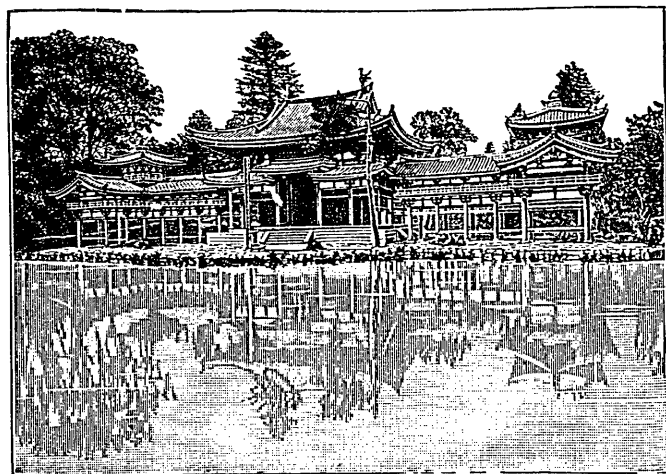
交通政治軍事の大中心で、名所史蹟に富むこと、他に比類がない。西陣織・友禪染・被服類・刺繍・陶磁器(清水焼・栗田焼)・京塗等を産する。京都よりの略信 蒲團フツきて寝たる姿や東山トウサン等、其の

東山の麓即ち賀茂川以東には、泉涌寺・清水寺・祇園社・知恩院・銀閣寺などあり。又市の西北部にも、金閣寺等の社寺多く、賀茂川以西の市内には、本能寺・兩本願寺等あり。これ等は、嵐山の櫻・高雄山の紅葉などと共に、諸國の人士を招く。

南隣の伏見は、淀川汽



立橋天

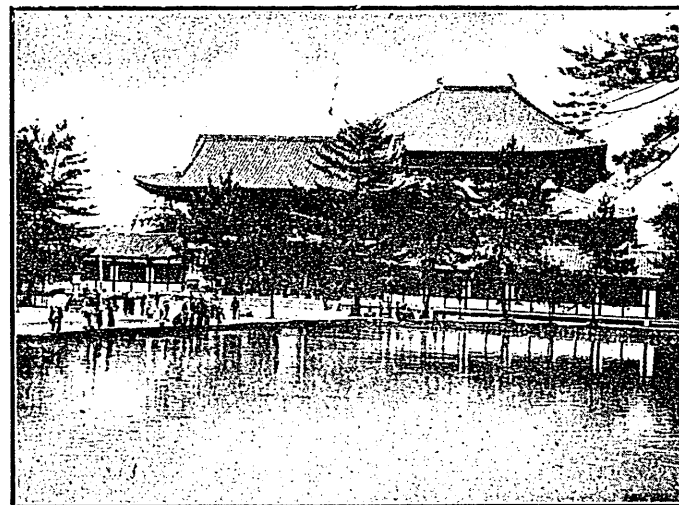


堂風風院等平の治宇





春日神社



大佛寺

△平等院・宇治川  
古戦場  
宇治附近の史蹟に  
は如何なることが  
あつたか

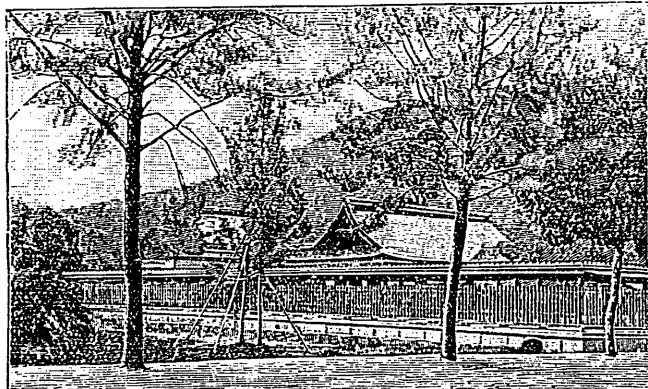
管轄 大和

※日本の最古木造  
建築物で聖徳太子  
建立

圖解 橿原神宮  
と畝傍山

奈良名産は綿・麻・絨  
物・産・鹿・根・來・塗・  
鹿角・細工・奈良人  
形・奈良漬

※春日神社・東大  
寺・正倉院・興福寺・  
橿草山・此の地に  
帝室博物館・女高  
師がある  
△線上の高田附近  
は絹織の産地



船の終點で、附近に工場多く、其の東に桃山御陵がある。螢

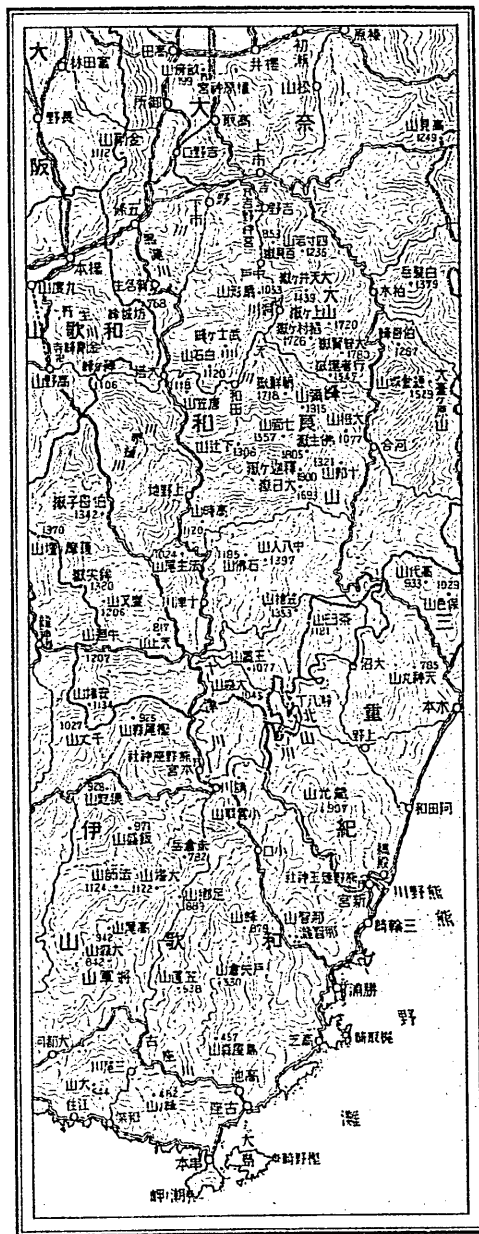
狩に名高い宇治附近は、史蹟と玉露  
茶の産とが多い。木津は、三鐵道線  
(奈良・關西)の會點である。

奈良縣 大和川流域の大和盆地は、  
昔時、帝都であつた處が多いので、神  
武天皇を初め歴代の御陵や、橿原神  
宮・法隆寺等の社寺古蹟が多い。

奈良市(縣)は、七代の帝都の地で、史  
蹟頗る多く、遊覽地として發達して  
ゐる。關西線は、奈良郡山(金魚・織)・法  
隆寺などを経て大阪府に入り、中途  
奈良にて櫻井線、王寺にて和歌山線



# スブルア和大



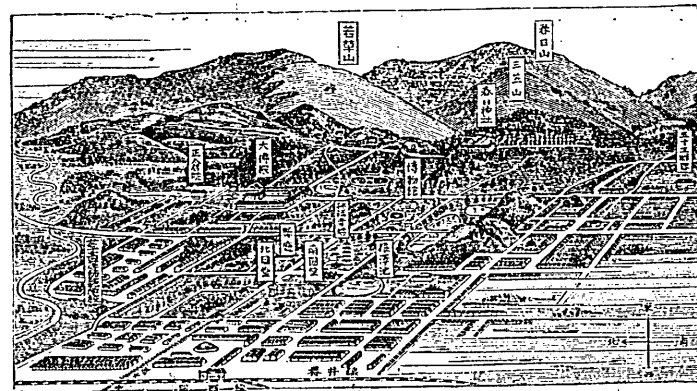
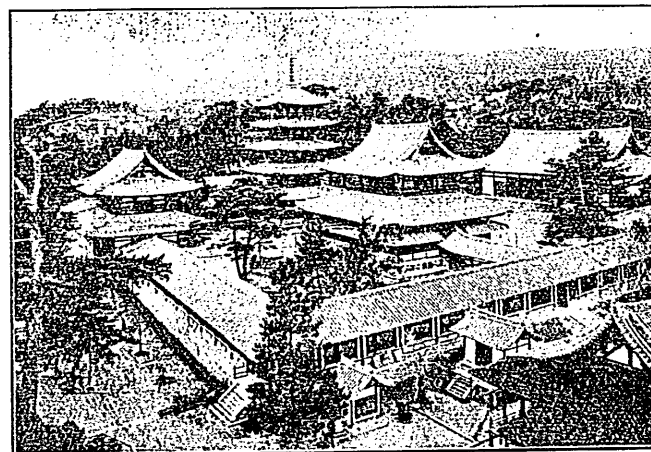
談山神社は何人を  
祀れるか

上圖解 法隆寺  
下圖解 奈良島  
(共に前頁参照)

奈良大阪間の電鐵  
は長き生駒山の隆  
道を通じ山腹の貨  
山寺に鐵索鐵道を  
通ずる

地方誌 近畿地方(處誌)

を分つ。  
櫻井線  
上の櫻  
井附近  
は綿紡  
織業地  
て其の  
南方な  
る多武  
峯には  
壯麗な  
る談山  
神社が

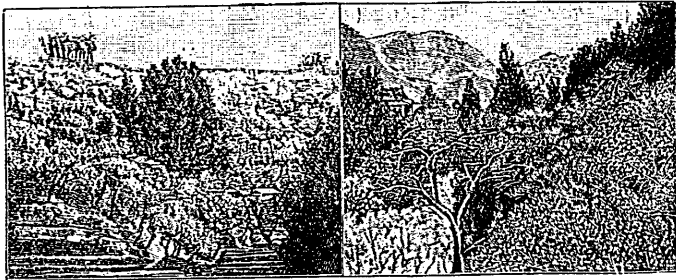


六

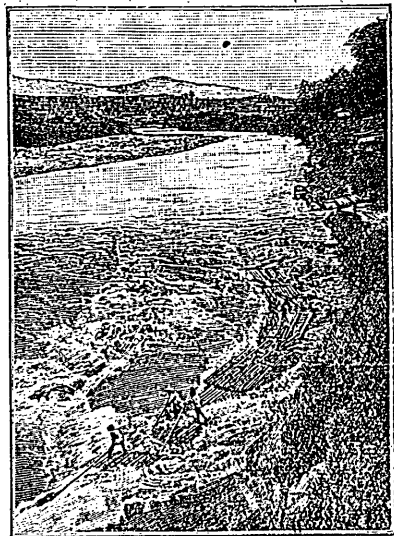
圖解 十津川の  
杉伐  
櫻井嶺附近田原本  
町は古より西瓜の  
多産地

圖解 月瀬の梅  
林と吉野の櫻  
(次頁参照)

\*此の一帶の山地  
は大和アルプスと  
も呼ばれる



|   |     |     |    |     |
|---|-----|-----|----|-----|
| 西 | 内田  | 140 | 飛騨 | 100 |
| 瓜 | 〇〇〇 | 100 | 大坂 | 79  |
|   |     | 80  | 大阪 | 59  |
|   |     | 83  | 東京 | 59  |



あつて、藤原鎌足の功績を偲ばせる。  
南部は、山上嶽・彌山・大臺原山等の名山が  
峙つて、土地が高く、林産殊に杉材に富み  
て、十津川(熊上野流川)・吉野川(紀川)は、其の木材  
を運搬する筏流しが多い。

＊これはくとは  
かり花の吉野山  
(安原良室)  
○賀名生も其の址  
△村上義光墓吉  
水院如意輪堂後  
醍醐天皇陵等

管轄 伊勢・伊勢・  
志摩・紀伊  
小部

＊英庭勝に御木本  
家経傳の眞珠貝養  
殖場がある

圖解 英庭勝の  
眞珠貝採取

伊勢平野の都邑・  
産物を挙げなさい

△秋蔭機器・時雨  
蛤を産する

△萬古焼・酒水塗  
の名産がある

○北方に熊襲野西  
方に鈴鹿峠がある

吉野川南岸の吉野山は、吉野朝廷の由緒地で、史蹟が多く、春は満山が、櫻花(千本に上る)と観客とて埋められる。縣の東北隅にある月瀬は、吉野と並び稱せられる花の名所で、笠置山に近い。

三重縣 奈良縣と境する山地には杉材を、伊勢海岸の平野には伊勢米・茶・菜種を、屈曲の多い熊野灘の沿岸には、鯨・鯨・眞珠等を産する。

名古屋・湊町(市)間の關西線は、桑名・四日市・上野(近附)を経て、京都府に入る。揖斐川口の桑名は米の取引地で、木材を集散し、四日市市は、帝國第六位の開港で、綿絲・植物油・電線を産する。龜山以南の參宮線は、津・松坂・宇治山



●漁網の産地で阿

漕浦は海水浴場

△本居宣長と富家

三井家との故地

北濱村に明野陸軍

飛行學校がある

名古屋宇治山間

の鐵道沿線の重要

都邑を記しなさい

△生絲・和紙・泰慶

塗・御山木細工・貝

細工

圖解 内宮

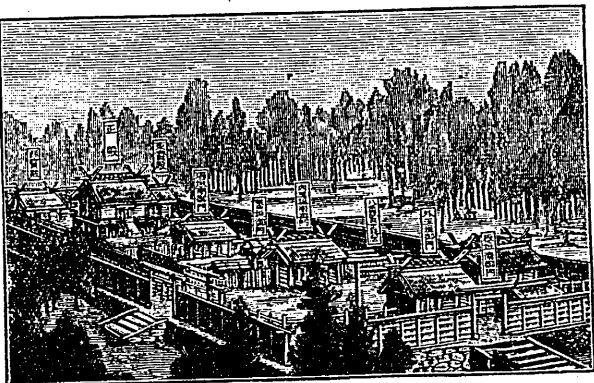
何故鳥羽は避難港  
として適當なるか

管轄 紀伊  
大部

＊燈臺・無線電信  
局所在地

串本は航空路の要  
點

有田川流域の略圖  
を描きなさい



田を経て、鳥羽に終る。

津市(縣廳林高)は綿紡織榮え、松坂は綿

織物を産する。宇治山田市は、二見の勝地に近く、宇治に内宮山田に外宮鎮坐し、綿絲・傘等を産する。鳥羽は、漁業の中心地、造船所の所在地で、遠州灘(御前崎・伊熊野灘(大王崎)間)通航船の避難によく、又眼界廣き日和山の絶勝地には、無線電話局がある。

和歌山縣 紀伊半島の大部分を占めて、本州最南の潮岬が斗出してゐる。黒潮(海流)の影響を受けて、高温多雨なるにより、林産(杉・松)が多く、有田川の流域は、紀州蜜柑の本場で、箕島は、其の積出港である。

※瀑布多く俗に那智四十八瀬といふ。八丁と共に土地僻在するも年々観光客が増加する。

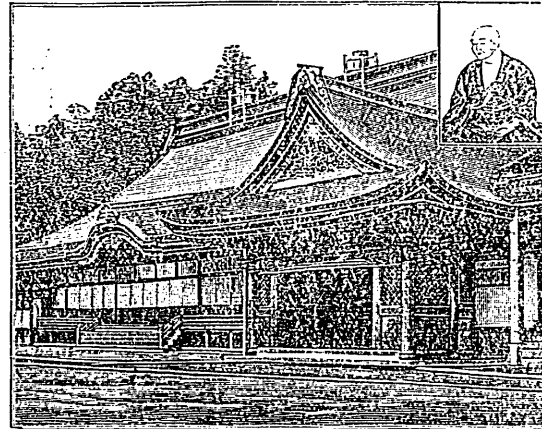
圖解 湍八丁

熊野川の横谷を地圖により研究しなさい。

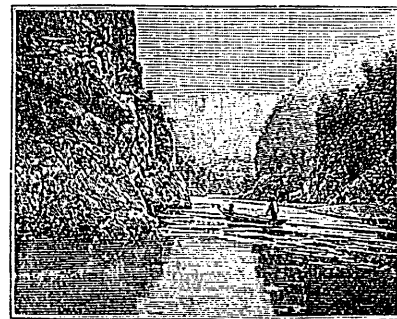
山麓の橋本より大阪に南海鐵道高野線を通じ又登山鐵道もある。

圖解 高野山金剛峯寺と其の開基者僧空海

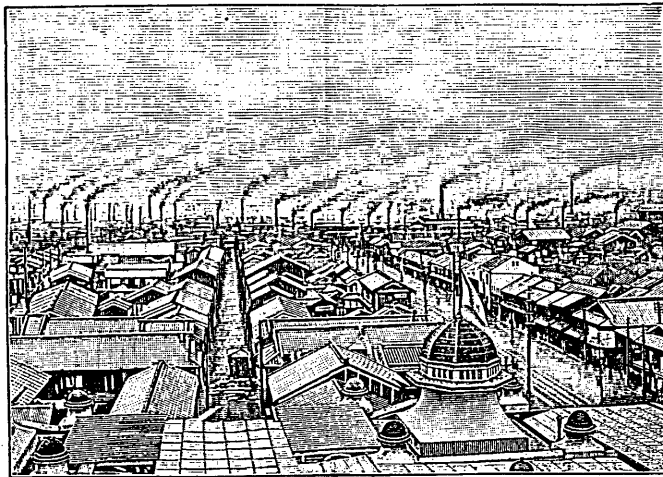
※徳川親藩の舊城下で指物・箱・樽をも産する。本縣は耕地の僅少と地勢上の關係等とて移民が多い。海岸に勝浦等を始め地方的小都邑がある。



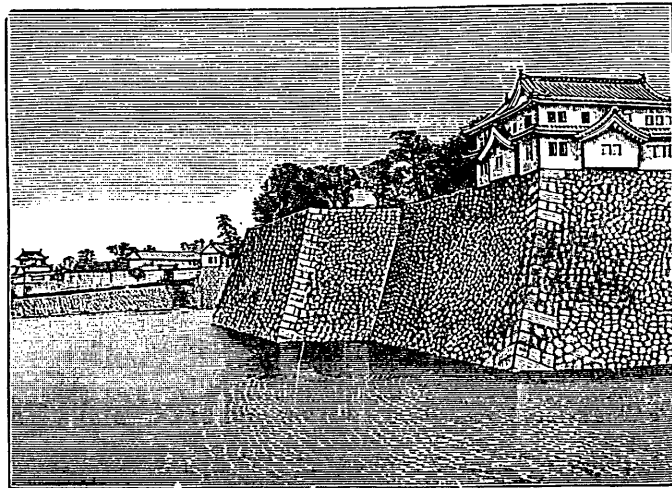
熊野川（北山川と津川の合流）口の新宮は、熊野川下しの木材取引地で、那智山中には、壯大なる那智瀧、北山川の河道には、湍八丁の深淵がある。



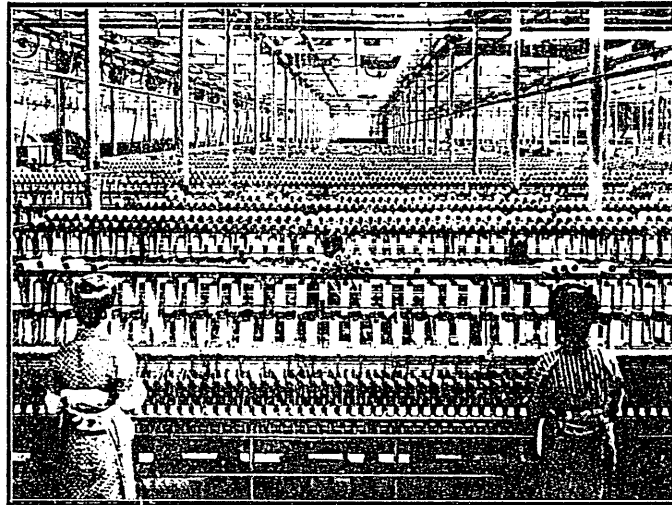
和歌山線は、運材の多い紀川に沿ひ、高野山を南にし、和歌山に至つて南海線と會する。  
和歌山市（商縣所在）は、紀川河口の商業地、勝地の和歌浦と、漆器産地の黒江とに近く、木材綿ネルな



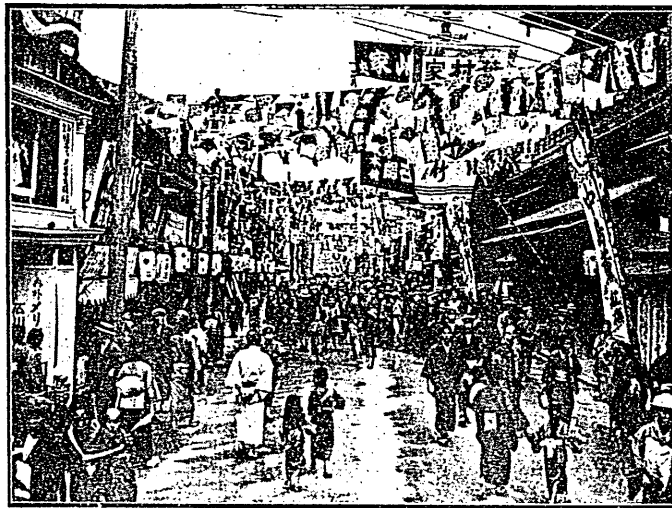
大阪の鋼



大阪城



部内場工の社合績紡洋東



堀頭道るむ松を閑雅も最てに阪大

図解 和川の木綿晒しと和歌浦

管内 河内和泉、岸部、揖保東半部面積に比して耕地の廣いこと全國無比で平均五方坪に水田畠町歩

楠氏の遺蹟地を述べなさい

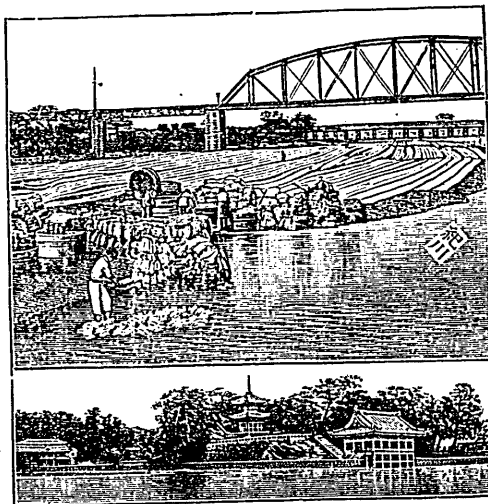
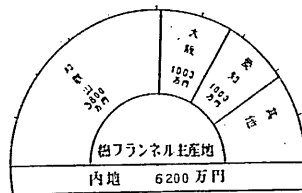
＊本綿、クオル、電車及び名産の製物、校通

どの市場で、莫大小綿絲の産も多い。

大阪府 小船形をして、卵形の大坂灣を控

へ、三方の低き山地以外は、大和川淀川等の潤す大阪平野で交通至便、産業よく發達し、

人口も頗る稠密である。東南境の金剛山は、四條畷櫻井と共に、楠氏の遺蹟地、池田は、清酒、薪炭の市場である、南海線上の堺市は、足袋綿絲、セルロイド等を産し、新進の岸和田市は、綿紡織が盛で、マニラロープの生産も多い。



大阪市の十三區  
東・西・南・北・此花  
天王寺・港・浪速・西  
淀川・東淀川・東成  
西成・住吉  
大阪市と東京市と  
を比較しなさい

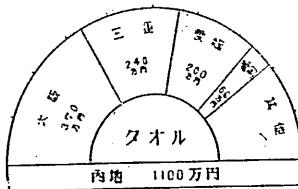
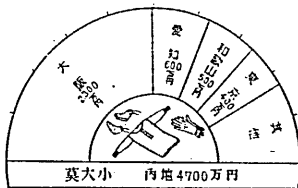
\* 醫大・高等學校・  
高工・高商・外語  
市北の吹田は麥酒  
の産地

管轄 播磨・西・丹波・  
但馬・播磨・  
淡路

△ 播磨川・千種川

大阪市は、淀川の本分流に跨つて、  
溝渠・橋梁多く、「水都」の名さへある。  
近時、接續町村を併せて帝國の最  
大都となり、帝國第三の開港、第一  
の工業地、南日本商業の大中心で  
ある。綿紡織・機械類・工業用藥品・  
莫大小砂糖肥料等の製造が榮え、百貨の取引が多く、市内に、  
府廳・大阪城(第四師團司令部所在)・造幣局・大阪工廠・高等諸學校・無線電信  
局がある。箕面・寶塚(兵庫縣)・濱寺などの保養地や運動場が、程近  
くにある。

兵庫縣 中部山地の北側は、所謂「神戸牛」の一產地で、又朝來  
川の流域は、農業が行はれる。南側の播磨灘に面する地方は、  
加古川・市川等の下流に、播磨平野が開けて、米・麥を産する。



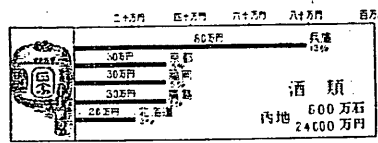
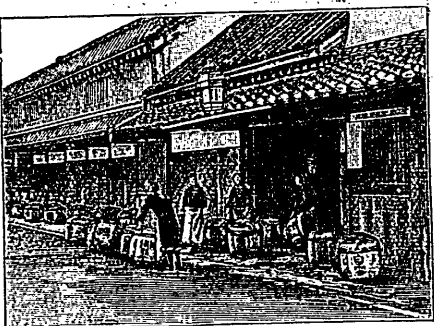
\* 堰塞地帯

圖解 伊丹の酒  
荷造り

△ 面積は琵琶湖位  
の山良海峽に臨み  
紀淡海峡の鎮  
淡路島を中心とし  
た海の略図を描き  
なさい

\* 六甲・摩耶の南  
麓には別荘が多い  
● 平野水の産地

△ 東京へ三〇餘軒



大阪灣・紀伊水道・播磨灘は、明石  
紀淡鳴門の三海峡によつて限  
られてゐる。其の間に横はる  
淡路島は、人口稠密農耕よく開  
けて、洲本(淡路橋)・福良・由良など  
の名邑がある。

尼崎(兵庫縣)は、阪神工業地  
帯の一部として、急速に發達し

た都市で、其の西の西宮市・御影地方(通稱)  
と、伊丹とは清酒を産し、六甲山の北より  
東に點在する有馬・寶塚・平野には、炭酸泉  
が湧く。

神戸市(縣廳・高商・高工・海)は、帝國第五の大都、第

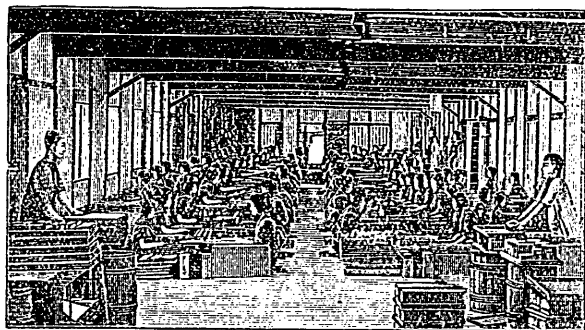
|         |        |
|---------|--------|
| 90%     | 千二百万円  |
| 内地五〇〇万円 | 千円     |
|         | 八百万円   |
|         | 兵 八百万円 |
|         | 庫 四百万円 |
|         | 二百万円   |
| 大 愛     | 知      |
| 3%      | 3%     |



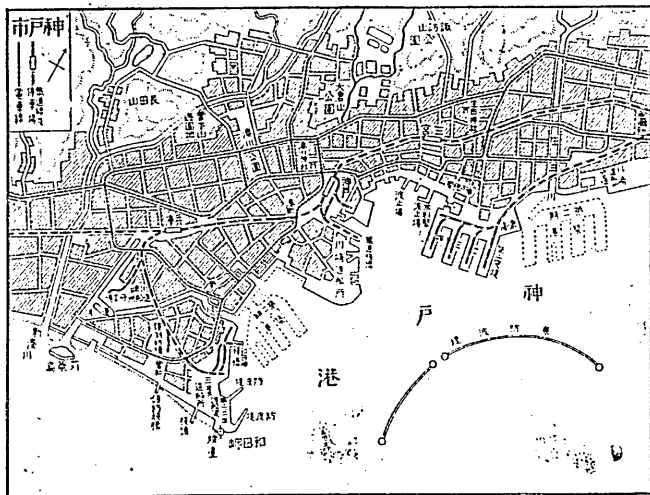
○北方に鶴越、一谷の古戦場がある

神戸港と横濱港とを比較しなさい

圖解 燐寸製造所



一の開港場で、神戸兵庫須磨などより成り、内外航路の中心で、日本の門戸である。生絲、綿織物等の輸出、綿鐵材、機械類などの輸入が頗る多い。また造船、燐寸、樟腦



川崎造船所(神戸) 三菱造船所(兵庫)

何故神戸附近には保築地多きか

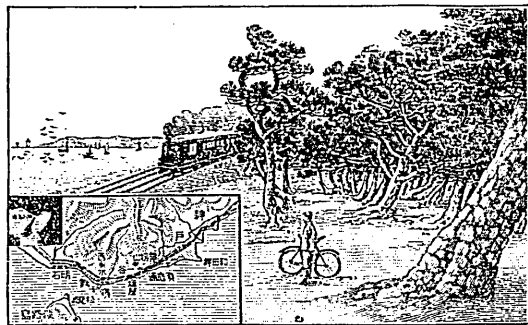
下關解 神戸川崎造船所の三三噸の浮船渠

△明石組の原産地

上關解 舞子附近

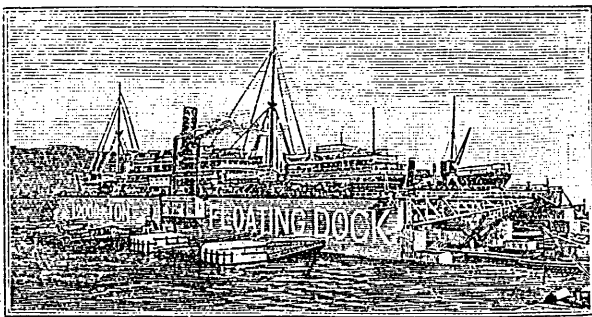
網干はセルロイドの産地

精製綿紡織製粉護謄製品等の工業が榮え、市内に湊川神社、二大造船所などがある。



山陽線は、須磨舞子、明石市、絲織などの風光明媚な海岸を過ぎ、加古川高砂(紙、紡織、地織、製)附近を経て姫路に赴き、更に醬油産地の龍野を右に、製鹽地の赤穂を左にし、舟坂峠、隧道に入る。

|      |      |    |       |
|------|------|----|-------|
| 内閣府  | 1930 | 東京 | 44.4% |
| 護謄製品 | 1103 | 大阪 | 25.6% |
|      | 500  | 京都 | 11.5% |
|      | 350  | 神戸 | 7.8%  |
|      | 230  | 岡山 | 5.1%  |





×革細工・明珍鐵器の名産がある

播但線を説明しな  
さい

△和田山

圖解 條部の陸橋 高さ四米餘  
長さ三九米

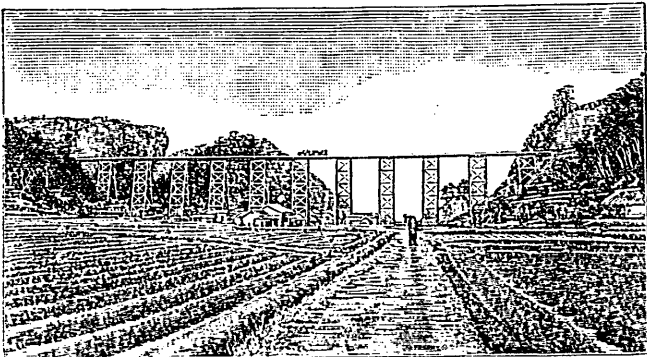
×附近に玄武洞の  
奇勝がある

豊岡・城崎地方は大正十四年五月二十三日激震があつて大損害を蒙つた

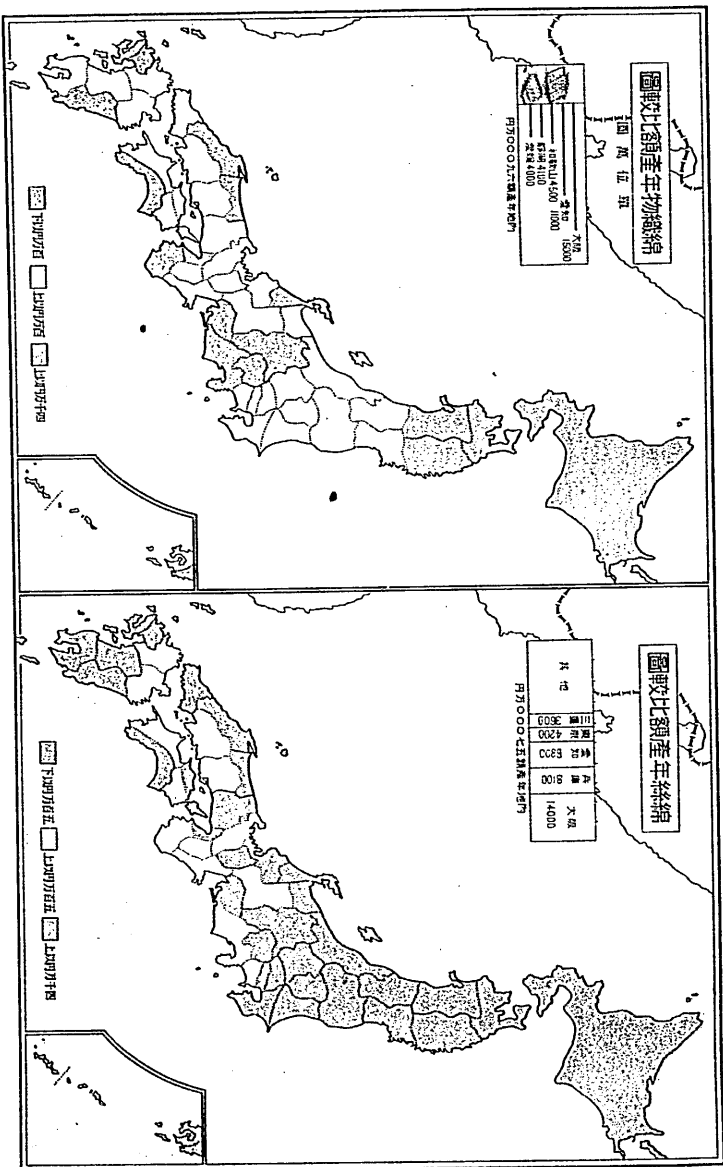
△一般に二毛作が行はれる

第三節 人文誌

市川下流の姫路市(第十師團所在地)は、トッブ毛絲を産して、米の取引が多く、其の南の節磨フシより來れる播但線は、銀銅產地の生野ナマノを過ぎて、山陰線に接續△する。京都に起れる山陰線は、朝來川と並走し、出石の西方を経て、柳行李產地の豊岡と、温泉地の城崎キキとを過ぎ、餘部ノセの陸橋を渡つて、鳥取縣に入る。出石は、出石燒の產地として、古より有名である。



六



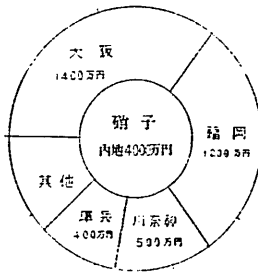
産業  
農<sup>△</sup>牧共に開けて、西部山地の牧牛を初め、所々の盆地

\* 三重は煎茶京都  
(特に宇治地方)は  
玉露茶

折りて見せたや他  
國の人に和州蜜柑  
の枝なりを 俗語  
何故南部三縣に木  
村・柑橘が多いか  
\* 連野の鯉・鯉・鯉  
瀬戸内海の鯉・鯉・鯉

園産 養鳥の蜜  
柑園と蜜柑出荷

阪神工業地帯を説  
明しなさい



三縣に多く、沿海地方は、漁鹽の利が少  
なくない。商工業は京阪神

地方に盛で、綿絲織物(絹・綿・毛)

清酒(灘地方)などの産多く、殊

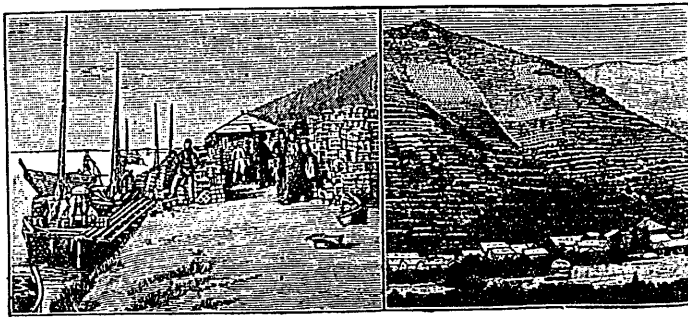
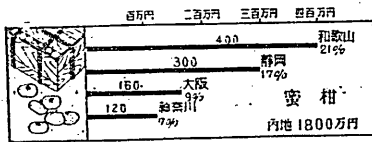
に京都は美術工藝(西陣・陶磁・京器・染・

器・漆、大阪は機械工業の中心

で、阪神間は、一大商工業地帯

をなし、其の活動の目醒しさ

や平野は、米・麥・茶・菜種  
(三重)の栽培に適し、殊  
に兵庫縣は、米・麥の産  
地として名高い。木  
材や柑橘類は、南部の



商業地としての大阪を説明しなさい

近畿地方に於ける鐵道の中心地を擧げなさい

北叡山に登り川のケーブルカーがある

\*大阪を中心として京都・大津・神戸・明石・奈良・和歌山等の方面無線電信局所在地  
○神戸大阪潮岬

人口一萬以上の都市約五〇

は、北日本の中心たる京濱地方の壘を摩しつゝある。神戸・大阪・四日市は、帝國樞要の港市で、神戸は、外國貿易總額に於て、遙に横濱を凌ぎ、殊に輸入が多い。大阪は、内地商業に於て、東京と共に帝國の二大中心をなし、特に支那との取引が多い。本地方の開港は、以上三港の外に宮津がある。交通 鐵道は、關東地方に次でよく發達し、東海・山陰の二線並走し、且つこれ等に連絡する諸線も多く、中にも大阪附近は、最もよく發達してゐる。電車は、大阪を中心として、縦横に通じ、其の延長は、全國無比である。海運は、阪神二港と、四日市を中心として、内外の諸港に航路を通じ、琵琶湖・淀川の水運も、亦よく發達してゐる。

都邑 本地方は、古來、長く帝都のあつた關係で、由緒ある都邑が甚だ多い。しかし大都市は、京阪神の三都で、之に次ぐ

は堺和歌山二市である。

質問へば此處ぞ御階よ御垣よとむかしを語る奈良の里人  
何ごとのおはしますかは知られども黍けなきに涙こぼるゝ  
これはこれとはばかり花の吉野山  
ほのぼのと明石の浦の朝霧に鳥がくれ行く舟をしぞ思ふ  
見渡せばながむれば見れば須磨の秋

藤原伊平  
西行法師  
安原貞室  
柿本人九  
松尾芭蕉

第五章

中國地方 隣日本海・近畿地方・瀬戸内海・下關海峡・瀬戸内海・紀伊水道・太平洋  
四國地方 隣瀬戸内海・後水道・連明海峡・太平洋

第一節 地文誌

地域 中國地方は、本州最西部の半島地域で、北は日本海に

| 全國       | 内地   | 中部四國地方 | 鳥取  | 島根  | 岡山  | 廣島  | 山口  | 徳島  | 香川   | 愛媛  | 高知  |
|----------|------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|
| 人口比較     | ●    | ●      | ●   | ●   | ●   | ●   | ●   | ●   | ●    | ●   | ●   |
| 面積比較     | ●    | ●      | ●   | ●   | ●   | ●   | ●   | ●   | ●    | ●   | ●   |
| 面積四八〇万平方 | 一四九六 | 三二七〇   | 二二七 | 四二九 | 四五五 | 五四八 | 三九五 | 二六八 | 一一二〇 | 三七〇 | 四六〇 |



管轄 四國  
伯耆

\*伯耆富士又は出雲富士といひ其の裾野は牛馬の牧養が盛である

圖解 島根半島・夜見濱・大山

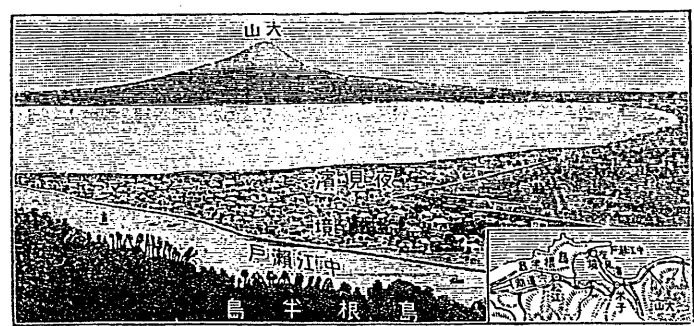
\*生絲・耕の産地  
三朝ラザウム温泉に近い  
▲大天橋又は弓ヶ濱ともいひ長三軒幅四軒

管轄 出雲・石見・隠岐

多く、太平洋方面は高温多雨である。

第二節 處誌

鳥取縣 中國山脈で岡山縣と背き、西部に、中國最高の大山と、史上に名高い船上山とがある。縣内は、千代・天神・日野の三流域(紐が流多い)に分れ、各中心の都會がある。千代川(流域は縣下流の鳥取市(縣所高)は、因美線の起點で、繭・生絲・紙を集散し、賀露を外港として居る。市を過ぎれる山陰線は、天神河畔で倉吉に、日野河畔(米産に)の商業地米子で、夜見濱北端の開港境に、支線を分けて居る。  
島根縣 中國山脈で、廣島縣と背き、北

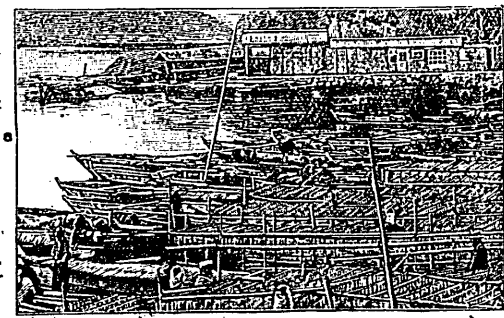
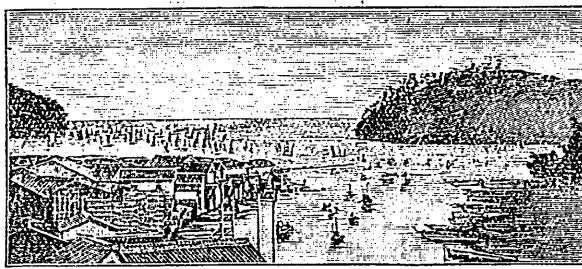


隠岐諸島を地圖によりて研究しなさい

圖解 西郷の島  
賊(鯨原料)漁船と鰯の乾製

日本海の孤島竹島附近は日本海々戦の激戦地

・石見半紙・薪炭の市場  
津和野は西部の名邑  
松江市と鳥取市とを比較しなさい  
△出雲焼・出雲塗・碧玉細工



て、開港濱田に赴き、中途(出雲今市)で、大社に支線を分つて居る。

部の島根半島は、中海と海跡湖なる宍道湖とを抱いてゐる。其の沖の隠岐諸島は、後鳥羽・後醍醐二帝の遷幸し給ふた處で、鰯を名産とし、島後の西郷は、それを集散する。

宍道湖口の松江市(縣所高)は、大橋川に跨り、遠く大山・三瓶山を望みて、風光よく、山陰の最大都で、生絲・雜貨を集散し、また

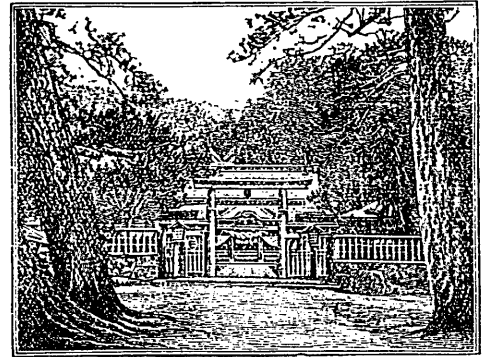
\*米・繭・生絲を産する

圖解 出雲大社

○七探原牧場等  
みよしと其の名はよいがみよしは名荷でかはばかり 俚語

管轄 周防・長門

圖解 長門峽(次頁参照)



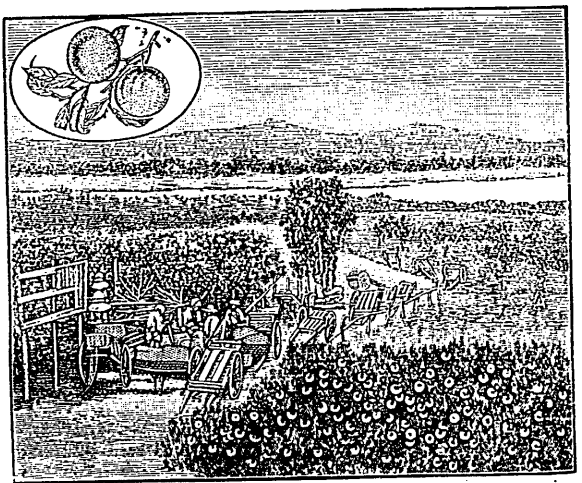
清酒を主産物とする。神代史に關係の深い斐伊川の下流に、出雲平野がある。其の中央の今市は、交通の要地で、西端の大社には、名高い出雲大社がある。江川は中國の最大河で、大麻作、牧牛の盛な三次(縣下島)盆地の水を集めて、中國山脈を横される中國唯一の河川である。



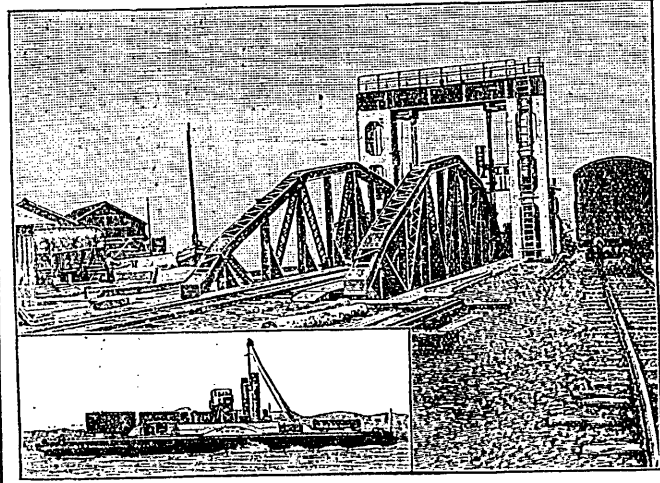
山口縣 本州の西南端にあつて、防長半島ともいはれ、三方は海に臨み、水産業(漁業)が盛である。日本海岸

△長門峽・普海島・秋吉臺を縣内の三奇勝とする  
×漆器・農具を産する  
日本海上の見島附近は日露海戦地角島は無線電信局の所在地

圖解 夏橙園  
圖解 關門列車  
(箱載船の構造と船(次頁参照))



の萩は、上流に長門峽の奇勝ある阿武川に跨りて、夏橙萩焼を産し、山口(縣商所在)と共に、毛利



\*名産は赤間關硯  
下關東京間急行列  
車行程約一晝夜  
關門連絡船は一日  
二十七回、十五分  
で達する  
何故下關は重要な  
るか

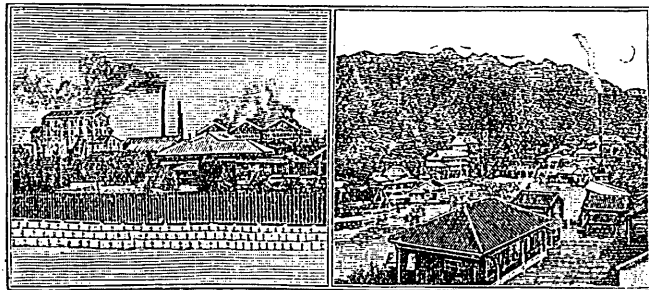
圖解 大嶺炭坑  
と徳山の海軍燃  
料廠

何故宇部市は急運  
に發達したか

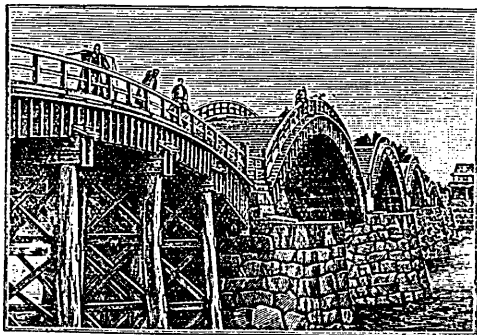
\*防府の一部

圖解 錦帶橋

\*無烟炭坑の所在  
地で北方の秋吉盛  
に大鐘乳洞がある



を過ぎり、中途で大嶺(美)及び島根縣



氏の城下であつた。開港下關市(馬)は、  
下關海峽に臨み、形勝の地點を占む。關  
門關釜二連絡船のある處で、防長米肥料、  
鮮魚を集散し、附近に、壇浦古戰場と要塞  
とがある。市に終

る山陽線は、小野田

(セメン)宇部市(石炭産地)の

附近、製鹽地の三田

尻海軍燃料廠のあ

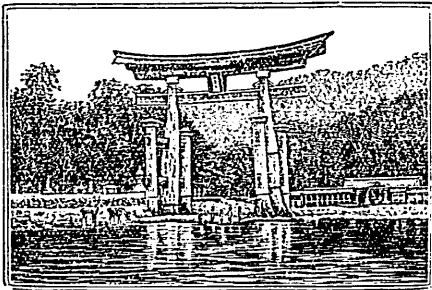
る徳山(港)柳井(米油)

地、錦帶橋で名高い

岩國(紙の市場、数)附近

(山)に支線を分つてゐる。

廣島縣 北部は山地な  
るも、南部は瀬戸内海に  
而して島嶼が多く、就中、  
江田島は海軍兵學校、嚴  
島(通稱)は嚴島神社(日本三  
の所在地として、世に名  
高い。



圖解 宇部市(次  
頁參照)

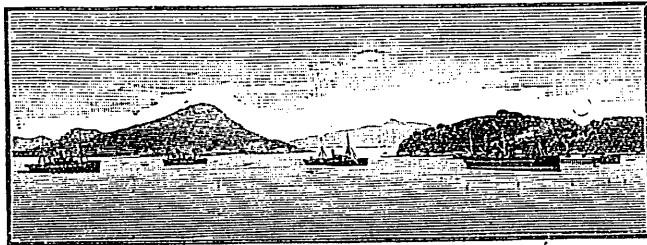
圖解 嚴島神社

管轄 備後・  
安藝

北部に毛利氏發祥  
地の吉田と帝釋の  
奇勝とがある

圖解 宇部市(次  
頁參照)

嚴島よりの略信 満潮を待ち小舟に乗りて、樹皮を剥  
ぎたるまゝの大華表をくぐりて社殿に詣づ。其の社  
殿は、莊嚴限りなく、潮満つれば恰も全殿水に浮べるが  
如し。島頂即ち彌山に攀づれば、島嶼點々星の如く、東  
西に起伏せる中國山脈は、蜿蜒として一眸に集り、眞に  
壯快謂はん方なし。



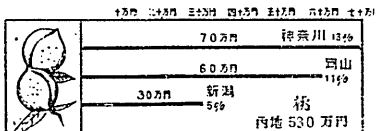


× 雨傘・牡蠣を名産とする  
 ● 四鐵道相會する其の舊備鐵道は早晩山陰線に連絡するであらう  
 何故廣島市は發達したか

\* 線上の西條附近は清酒産地  
 ○ 多度津との間に連絡航路がある  
 ● 清酒・金ペンを産する  
 △ 農村にもある

× 保命酒を産し仙酔島の勝がある  
 新市は備後耕の集散地

管轄 美作備前・備中  
 ▲ 西部の下津井は無線電信局所在地

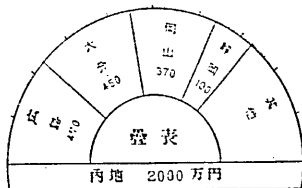


廣島市(縣廳第五師團司令部)は、大田川の三角洲に跨つて、宇品(陸軍運輸部所在地)を外港とし、軍事上交通上の要地、中國の最大都で、綿紡織・牛肉罐詰製綿が盛大である。

廣島灣は、忠海附近と共に、瀬戸内海の中部を扼する要塞地帯である。

\* 山陽線は廣島絲崎(港)尾道市(肥料・鹽・水・松永(製鹽)・福山などを通じて、海田市で吳線を分つ。軍港・呉市には、第二海軍鎮守府と、東洋一の海軍工廠とがある。蘆田河畔の福山市は、交通の要地、機業の中心で、尾道・鞆と共に、鹽表の市場である。

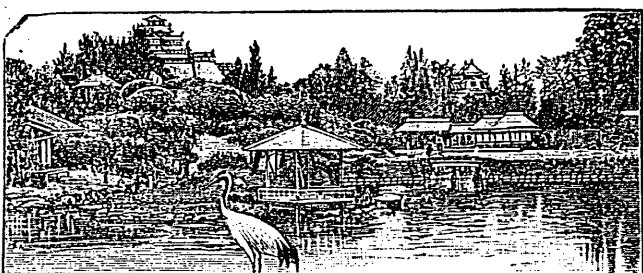
岡山縣 兒島半島は、其の北方に開墾中の兒島灣、南部に四國との聯絡港たる宇野を控へ、又鹽田が



× 桃梨・葡萄等  
 岡山縣の重要産物を擧げなさい

下國解 岡山港  
 氾と花菱織

上國解 後樂岡  
 \* 宇野線を見島半島に中國鐵道を津山と總社とに四大寺鐵道を四大寺に三幡鐵道を三幡港に通ずる  
 岡山市と廣島市とを比較しなさい  
 ● 鑽石・耐火煉瓦の産地

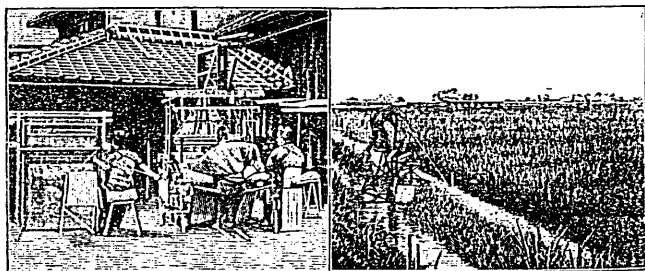


よく發達してゐる。吉井(縣大)旭(縣大)高

梁(邊川)三河の下流地方には、平野が開けて、米・蘭果・實・煙草(高梁久)等の農産、綿絲・綿織物・眞田・板紙(津山・四寺附)等の工産が多い。

旭川下流の岡山市(縣大)は、交通の中心で、綿紡織・製粉・足袋製造等の工業が盛大である。

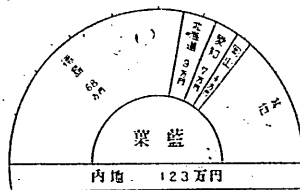
市以西の倉敷・主島・笠岡地方は、綿絲・花筵・眞田(縣大)の産地である。山陽線は、右の四都と三



管轄 河波

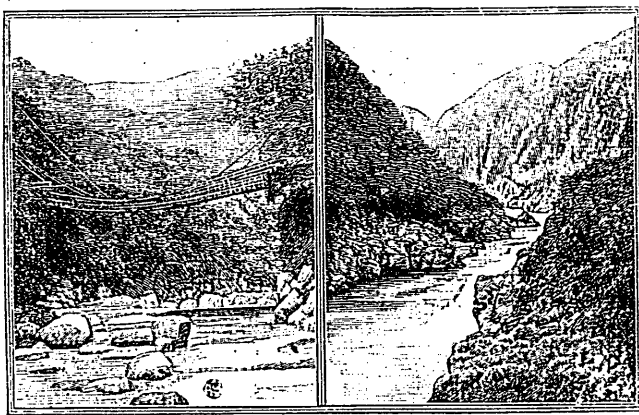
△吉野川の支流で橋が多く近時まで菱橋があつた

圖解 大崩壊と祖谷川の菱菱橋



右とを経て兵庫縣に入る。伊部は備前焼を産する。津山は美作の中心で商況が活潑である。

徳島縣 西南部は山地が多く、殊に劍山は高度著しくして、那賀川、祖谷川の水源となる。吉野川(四國)は、高知縣から來る四國の最大河で、大崩壊、小崩壊(秋歩危)の峡谷を作りて東流し、下流に徳島平野を開き、紀伊水道に注いでゐる。其の中流の脇町附近は藍(産額全、國一)の起點、附近上流の池田(徳島縣)附近



徳島平野の産物を擧げなさい  
何故徳島市は大阪市と取引が多いか

圖解 撫養の鹽川

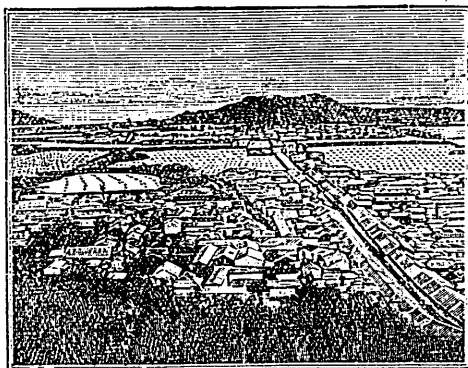
富岡は那賀流域の貨物集散地  
\* 足袋を産する

管轄 讃岐

小面、新府縣位、大坂、香川、東京、神奈川、佐賀、人口稠密府縣位、東京、大阪、神奈川、福岡、愛知、香川

\* 醤油の多産地  
何故香川縣は人口が稠密なるか

引田は漁港



飯野(讃岐)の二名山が、東西に對峙してゐる。面積狭小、人口稠密であつて、土地がよく開け、砂糖、鹽、麥、稗、眞田などを産する。但し地勢雨量の關係で、北部の平野には、小溪流のみなれば、灌漑用の池溝が頗る多い。

近は煙草の栽培地である。四國の最大都徳島市(縣廳在)は、本縣の門戸で、特に大阪との取引が多く、綿絲、綿織物(阿波縮、綿ネル)・藍を集散し、其の外港の小松島(工業)に、小松島線を通じてゐる。鳴門海峡は、潮流の渦動で名高く、附近の撫養は、齋田鹽を産する。

香川縣 讃岐半島の地で、屬島が多く、小豆島に寒霞溪の勝がある。五劍、飯野(讃岐)の二名山が、東西に對峙してゐる。面積狭小、人口稠密であつて、土地がよく開け、砂糖、鹽、麥、稗、眞田などを産する。但し地勢雨量の關係で、北部の平野には、小溪流のみなれば、灌漑用の池溝が頗る多い。

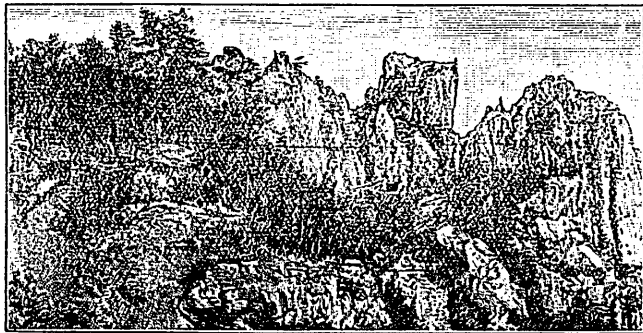
＊源平二氏の古戦場  
＊焼岩釜地

圖解 栗林公園

圖解 寒霞溪(前頁参照)

＊宇野・高松間一時間  
＊中國四國の連絡地を述べなさい  
＊染料問屋を産する

△金刀比羅宮・水難救済會本部所在



在の善通寺及び象頭山麓の琴平を経て南走する。

屋島  
（牛）に  
近い  
高松  
市（縣  
所在商）



は、宇野と共に、四國山陽を連絡する交通の要地で、綿絲漆器綿織物眞田を産し、四國第一の名園栗林公園がある。茲に起る讃豫線は、阪出（（中）（環））・丸龜市多度津の要津、名邑觀音寺を経て愛媛縣に入り、支線は、第十一師團司令部所

管轄 伊豫

＊五〇村

上圖解 別子の運搬鐵索と新居濱・四阪島間の運搬船

△銅鐵は鐵索・鐵道にて新居濱に送り海上の四阪島で製鍊する

＊綿ネル・タオル産地  
＊附近一帯は鳴門海峡と同じく要塞地帯  
＊藍川・重信川流域につきて述べなさい



門に次で潮流が急である。中部の重信川

愛媛縣 石鎚山は、縣境附近に峙ち、細長い佐田岬は、地藏岬（（大）分）と對して、速明海峡を挟んで居る。海峡以南の出入多き豊後水道岸には、八濱宇和島市（（生））



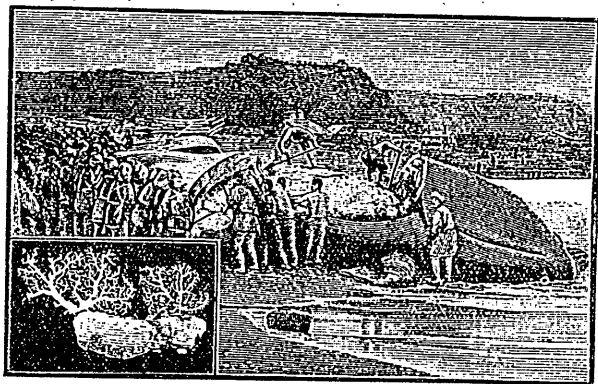
＊實より木蠟を採取する

圖解 鯨肉切取りと紅珊瑚

管轄 土佐

○土佐節の原料  
土佐はよい國南をうけて年にお米が二度とれる 俚語  
須崎は本縣の最良港安藝は東部中村は西部の名邑  
高知縣の特産物を挙げなさい

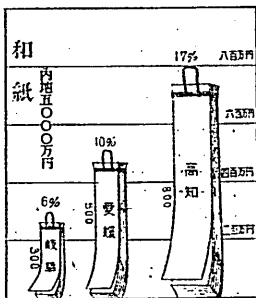
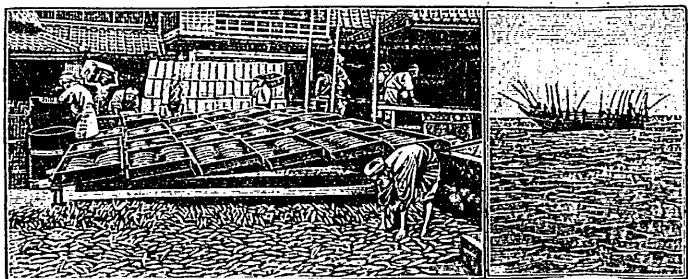
流域は、縣の主要生産地で、其の中心の松山市(縣廳所在地)は、伊豫  
緋綿絲綿ネルを産して、道後溫泉  
に程近く、伊豫鐵道によつて外港  
の三津濱・高濱と連絡する。  
南部の肱川流域には、樺の栽培が  
多く、東部(附近)と共に、和紙を産し  
大洲は、其の集散地である。  
高知縣 愛媛縣と相背いて、一望  
萬里の太平洋に面する。室戸足  
摺二岬に挟まるる土佐灣は、鯨・鯨  
の漁獲が多く、西南海上の沖島附  
近は、紅珊瑚の産地である。本縣  
は、一般に森林多く(七割餘)、また椿



＊山内氏の舊城下  
で高知縣(高知・須  
崎間の起點、セメ  
ントを産する

圖解 鯨漁船と  
土佐節乾製

△防長米・備前米  
は殊に名高い  
鐵山・吹屋・別子  
大嶺等  
中國の山地に砂鐵  
沿岸・島嶼に石材  
が出る  
＊天候・地形・潮汐  
の干満差等の爲製  
鹽が隆盛である



仁淀河畔の伊野は、製紙地である。

### 第三節 人文誌

産業 米・麥・果實などの農産が  
多く、中國は、一般に牧牛が盛で、  
愛媛縣は、銅を産する。

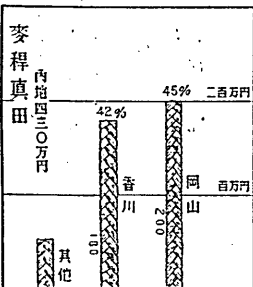
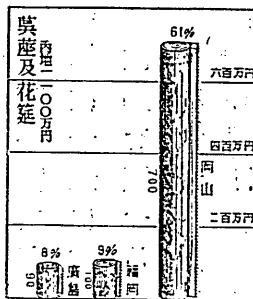
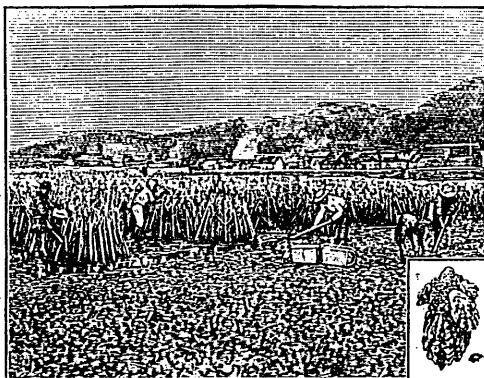
水産業は盛大で、瀬戸内海の鯛・  
鰯・牡蠣・鹽(鹽田)・日本海の烏賊・太

| 内地 80000万斤 |       |       |      |      |   |
|------------|-------|-------|------|------|---|
| 品名         | 山     | 大     | 山    | 山    | 山 |
| 川          | 口     | 浜     | 山    | 山    | 山 |
| 22000      | 14000 | 12000 | 9000 | 5000 |   |

國解 榮承社  
探取(前頁参照)

中國地方鐵道の重なる分岐點を舉げなさい

何故四國は鐵道の發達が後れたか



平洋の鯨鰹鮪等は、殊に名高い。  
工業は、岡山・廣島二縣に榮えて、花筵・  
疊表・麥稈・眞田・綿絲等を産する。  
交通 鐵道山陽線は、山陽地方の幹  
線で、汽船によつて四國・九州・朝鮮の鐵道と連絡する。山陰  
方面には、山陰線が通じてゐる。其の他、南北に亘るものに、  
山口線・美禰線及び藝備・中國二鐵道などがあれど、未だ南北  
の連絡は不充分である。四國地方には、徳島線・讃岐線・高德

下津井・角島に無線電信局がある

人口一萬以上の都邑が島根には二つ、高知には唯一つあるのみ。  
何故瀬戸内海岸地方は産業が發達したか

線・高知線・伊豫鐵道等があるが、一局部の交通を助けるのみで、  
一般に鐵道の發達が後れてゐる。海運は、日本海面は良港  
灣に乏しく、殊に冬季には、風浪が航海を妨げる。瀬戸内海  
は、船舶の往來が繁くて、海運が頗るよく發達してゐる。  
都邑 瀬戸内海岸地方は、一般に産業が發達して、人口も稠  
密であるから、岡山・廣島・吳などを始め、中都邑がよく發達し  
て居るが、日本海・太平洋の兩方面は、文化に浴することが遅  
く、従つて都邑も少なく、其の發達も後れてゐる。

## 第六章 九州地方

隣(日本海・朝鮮海峽・瀬戸内海・太平洋・東支那海)

### 第一節 地文誌

九州地方の八縣十二國を記しなさい

地域 本地方は、行政上、八縣十二國に分れ、東は、下關・速見の  
兩海峽によつて本州と四國とに向ひ、北は、朝鮮海峽によつ

九州南部山脈の名  
山を挙げなさい

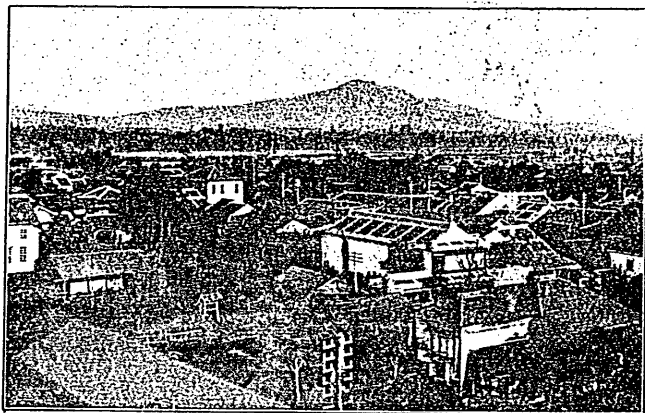
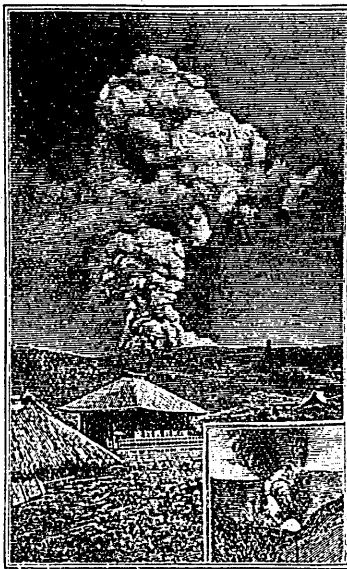
● 阿蘇山

● 外輪山の直径南  
北約廿四里、東西  
約廿三里、中に三  
十一ヶ村、四萬餘  
の人口を有し、中  
央火口丘の阿蘇五  
岳（根子・高・中・島・留  
子）がある

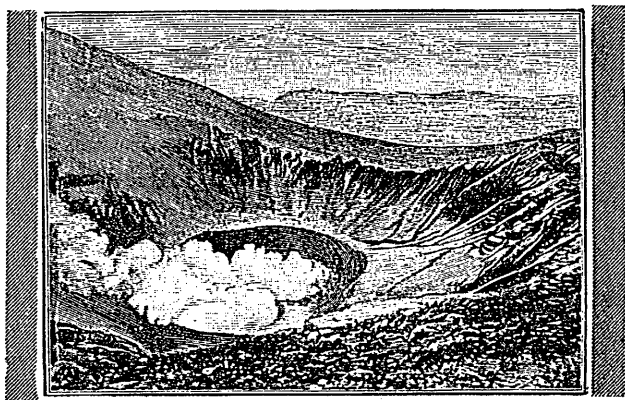
て朝鮮に對し、西南には薩南琉球の二列島が、太平洋と東支  
那海とを限つて、臺灣との鏈鎖をなしてゐる。人口は、炭田  
地方を控へて、商工業の盛なる北部三縣に最も密で、南部に  
僻在する宮崎縣が、最も  
稀少である。

地勢 丘陵性の九州北  
部山脈（阿蘇山脈）と、高峻な九  
州南部山脈（阿蘇山脈）との間  
には、阿蘇火山脈（阿蘇山、島  
岳）が、東西に斜走して、

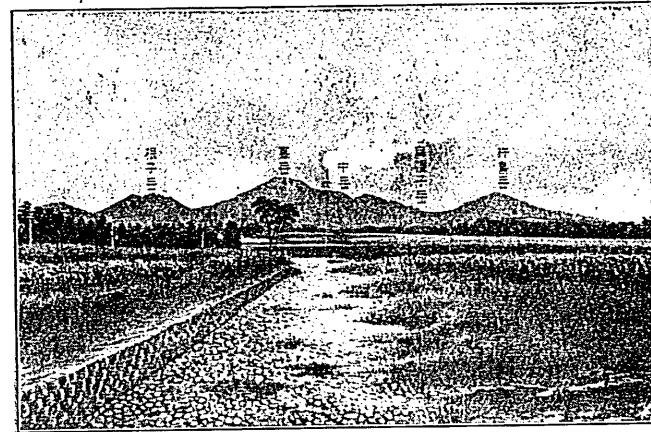
| 全 國   | 内 地   | 九 州 地 方 | 福 岡   | 佐 賀   | 長 崎   | 熊本    | 大 分   | 宮 崎   | 鹿 兒 島 | 沖 繩   |
|-------|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 一〇・〇  | 一〇・〇  | 一〇・〇    | 一〇・〇  | 一〇・〇  | 一〇・〇  | 一〇・〇  | 一〇・〇  | 一〇・〇  | 一〇・〇  | 一〇・〇  |
| 二〇・〇  | 二〇・〇  | 二〇・〇    | 二〇・〇  | 二〇・〇  | 二〇・〇  | 二〇・〇  | 二〇・〇  | 二〇・〇  | 二〇・〇  | 二〇・〇  |
| 三〇・〇  | 三〇・〇  | 三〇・〇    | 三〇・〇  | 三〇・〇  | 三〇・〇  | 三〇・〇  | 三〇・〇  | 三〇・〇  | 三〇・〇  | 三〇・〇  |
| 四〇・〇  | 四〇・〇  | 四〇・〇    | 四〇・〇  | 四〇・〇  | 四〇・〇  | 四〇・〇  | 四〇・〇  | 四〇・〇  | 四〇・〇  | 四〇・〇  |
| 五〇・〇  | 五〇・〇  | 五〇・〇    | 五〇・〇  | 五〇・〇  | 五〇・〇  | 五〇・〇  | 五〇・〇  | 五〇・〇  | 五〇・〇  | 五〇・〇  |
| 六〇・〇  | 六〇・〇  | 六〇・〇    | 六〇・〇  | 六〇・〇  | 六〇・〇  | 六〇・〇  | 六〇・〇  | 六〇・〇  | 六〇・〇  | 六〇・〇  |
| 七〇・〇  | 七〇・〇  | 七〇・〇    | 七〇・〇  | 七〇・〇  | 七〇・〇  | 七〇・〇  | 七〇・〇  | 七〇・〇  | 七〇・〇  | 七〇・〇  |
| 八〇・〇  | 八〇・〇  | 八〇・〇    | 八〇・〇  | 八〇・〇  | 八〇・〇  | 八〇・〇  | 八〇・〇  | 八〇・〇  | 八〇・〇  | 八〇・〇  |
| 九〇・〇  | 九〇・〇  | 九〇・〇    | 九〇・〇  | 九〇・〇  | 九〇・〇  | 九〇・〇  | 九〇・〇  | 九〇・〇  | 九〇・〇  | 九〇・〇  |
| 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇   | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 | 一〇〇・〇 |



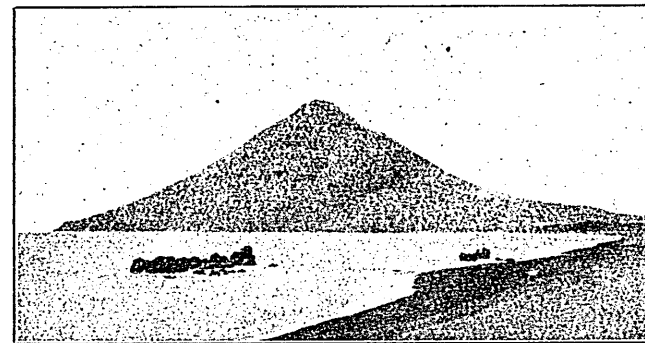
山島從るた見りよ城郷



口火の山島從



北より阿蘇五嶽(何れも中央火口丘を望む)



阿蘇山

圖解 九州地方  
地勢圖

九州の主要なる河  
流を挙げなさい

圖解 球磨川と  
九州地方南北斷  
面圖

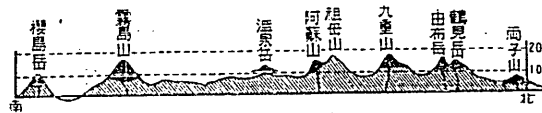
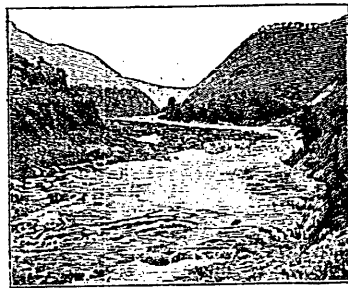
九州西北の半島及  
び屬島の主要なる  
ものを挙げなさい

\*約五米半



本地方を南北に分ち、別に霧島火  
山脈は、霧島山(高千穂峰)から西南に  
延びつつ、櫻島(御開開岳)を起して、  
遠く薩南諸島に連つてゐる。

河流には、筑後・球磨川内、遠賀など著名なものが多い  
が、就中筑後川は、其の流域に、本邦  
屈指の筑紫平野を開き、南方の肥  
後平野と續いてゐる。西北は、海  
岸線も最もよく發達して、大半島  
や屬島が頗る多い。肢節に富め  
る肥前半島は、北に唐津灣・伊萬里  
灣、西に大村灣を入れ、東に潮汐干





\*志布志(有明)海もある  
北部に博多湾がある

圖解 干潮時の有明海

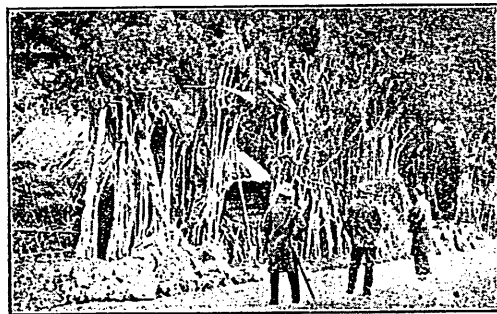
九州の主要なる平野を挙げなさい  
何故日向灘海岸は發達が後れたか

圖解 琉球の榕樹(次頁参照)

中部の熊本附近は稍大陸的である



は、屈曲多き豊後水道があり、其の北に、風光明媚な別府湾がある。  
氣候 北部は、山陰・北陸の氣候に似、南



満の差が、内地第一なる有明海を控へて居る。宇土半島と天草島とは、八代海を抱き、南部の薩摩・大隅二半島は鹿兒島湾を抱いてゐる。東南なる日向灘の海岸は、概ね平直で、後に高山を負ひ、人文の發達が、他の三面に比して、大に後れてゐる。東部に

沖縄では水點以下に降ることがない

管轄 筑前・筑後・豊前・半部

\*瀬戸内海方面・遠賀流域・筑後流域・福岡地方

\*河身改修工事終り運炭・灌溉・工場用水に利用される

福岡縣の八市・四開港・一軍都とは何々か

第二節 處 誌

部は、溫暖多雨である。殊に沖縄縣は、霜雪を知らぬ程で、芭蕉・榕樹等の熱帶植物がある。

福岡縣 玄海灘・周防灘・有明海に面し、平野が散在してゐる。筑後川(三郎紫)は、九州の最大河で、大分縣から來りて、佐賀縣境を流れ、筑紫平野を開いて有明海に注ぐ。其の平野の米・菜・種・櫨(木蠟の原料)は、遠賀川上流の筑豊炭田及び三池の石炭と共に、産額が頗る多い。本縣は、一般に農工商が發達して、人口が多く、八市・四開港・一軍都がある。殊に關門海峡(彦島を)より洞海に互る一帯の地方は、一大工業地帯をなして、其の活動が目醒ましい。

| 内 | 五十五万 | 五十五万 | 五十五万 | 二五十五万 |
|---|------|------|------|-------|
| 茶 | 230  | 150  | 50   | 80    |
| 種 | 22%  | 14%  | 14%  | 14%   |

△下關に貨物積載船を通ずる

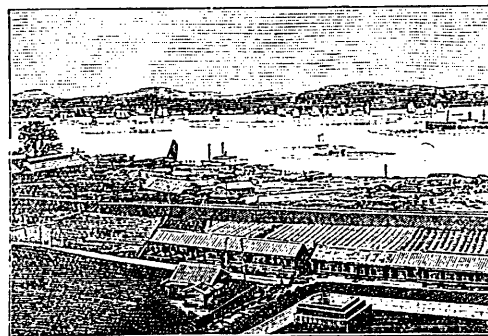
\*大里に製糖所、製粉所がある

△鹿兒島線・日豊線・小倉鐵道

圖解 門司附近より見たる關門海峡

▲精糖・硝子・諸機械等の工場がある  
\*硝子洋釘・精炭・精製ナフタリン・耐火煉瓦を産する

○直方・飯塚・伊田・後藤寺・添田等は其の地方の中心  
北九州の工業地帯を説明しなさい

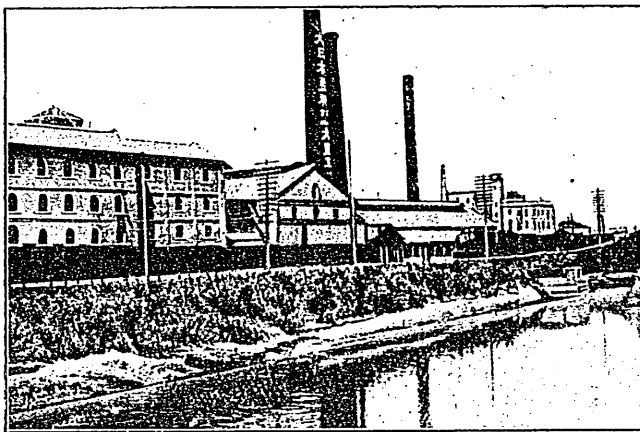
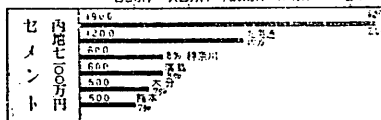


田地方に、筑豊線を通じて石炭を輸出する。

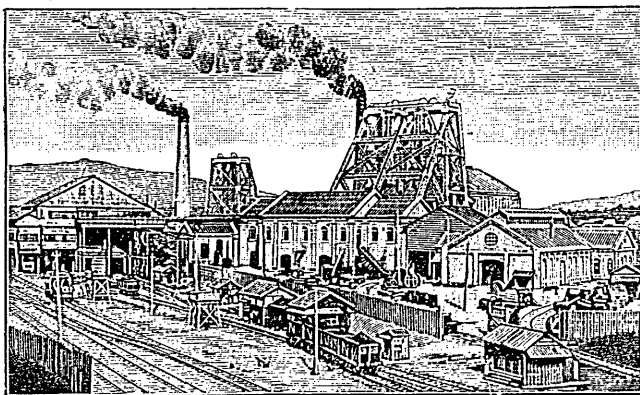
八幡製鐵所よりの略信 東洋第一の稱ある八幡製鐵所の最大偉觀は、烟突の林立と大熔鑛爐とである。爐は、高さ約廿五米

門司市は、下關と相俟つて瀬戸内海の西門を扼し、帝國第四の開港、水陸交通の要地で、精糖・製粉・麥酒・セメント等の産が多い。小倉市は、工業地帯の中に位し、交通の要地で、鋼材・電球・紙を産する。洞海入口の開港若松市は、對岸に工場地・戸畑市及び八幡製鐵所の所在地たる八幡市を控へて、鐵鑛(内支那)の輸入多く、又遠賀川上流の炭。

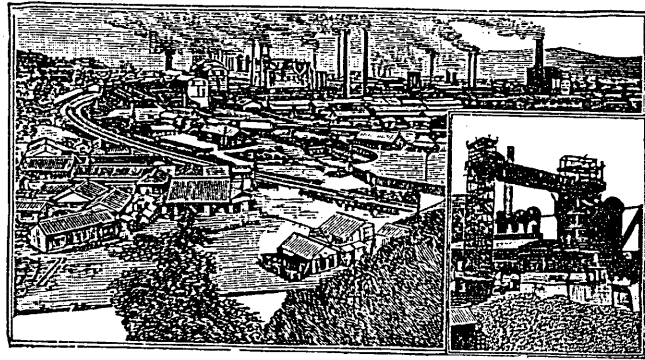
日比谷門 八幡門 平二門 三門 四門 五門 六門 七門 八門 九門 十門



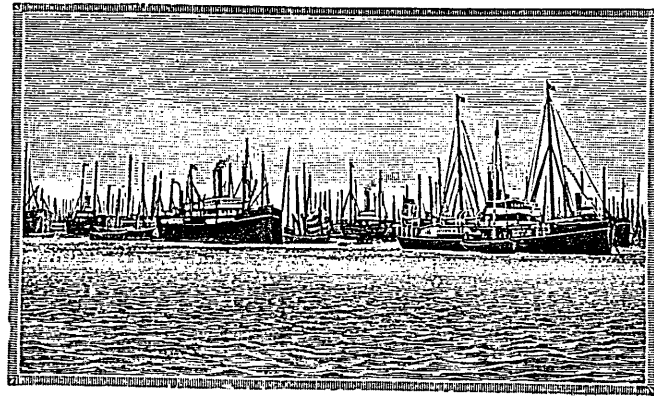
大里の製糖・製粉工場



三池の炭坑



八幡製鐵所の煉鐵場

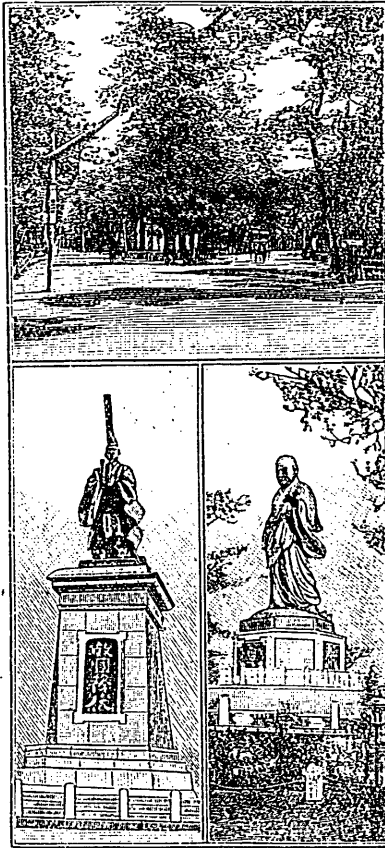


若松港

園解 福岡の東  
公園と公園内の  
二銅像（左龜山  
上皇右僧日蓮）

福岡は博多人形・  
高取焼を産し近郊  
より麥酒を産する  
＊海の中道は玄海  
灘の荒浪を避ける  
防波堤

＊東南に太宰府  
址、東に香椎宮、筑  
崎八幡宮西に千代  
松原



福岡市  
（縣廳九大  
高校所在）  
は、博多

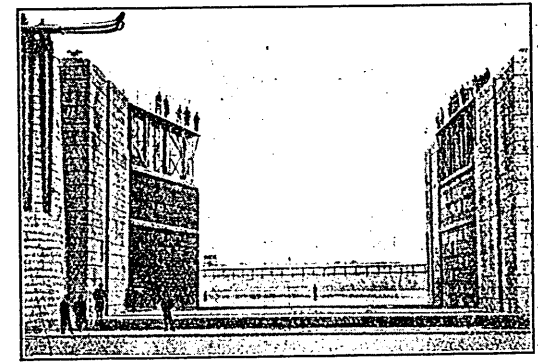
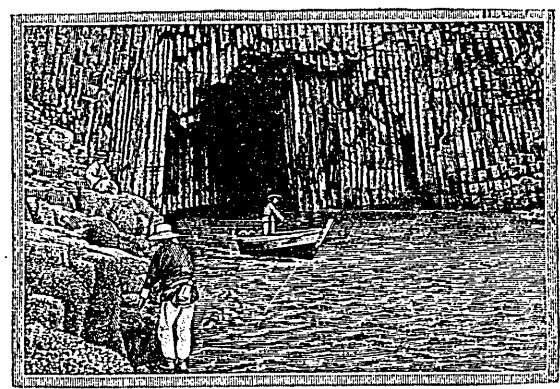
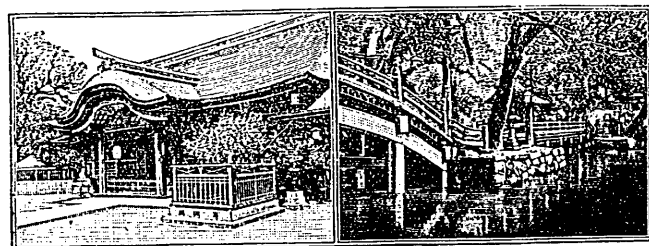
て、底部の火床附近に、送風孔・熔鐵流出孔・渣滓排除孔などがある。其の爐の上孔より、鐵・鑛・炭・石灰及び骨炭を混入して火を點じ、送風孔より劇しく送風すれば、こゝに銑鐵が得られる。斯くて此の操業は、爐の改築を要する迄繼續せられるのである。

灣頭に位して、博多（開港）福岡を重要部とし、九州北部の商業地、學術の中心で、博多織・綿織物を産し、附近に、太宰府神社等の名勝・史蹟が多い。門司に起る鹿兒島線は、日豊（分岐點、小倉）筑豊二

福岡市發達の要素を考察しなさい

上圖 府 太宰府  
神社(前頁參照)  
中圖 府 筑前井  
屋大門(玄武岩の柱狀節理)  
下圖 府 三池港  
關門(次頁參照)

●長崎線の起點で東北の太刀洗は陸軍飛行聯隊所在地糸崎半島西岸に井屋大門がある



通ずる。筑後川下流の久留米市は、第十二師團司令部の所  
線を分つて、福岡・鳥栖(佐賀)・久留米・大牟田を

管轄 肥前東北部

★唐津炭田

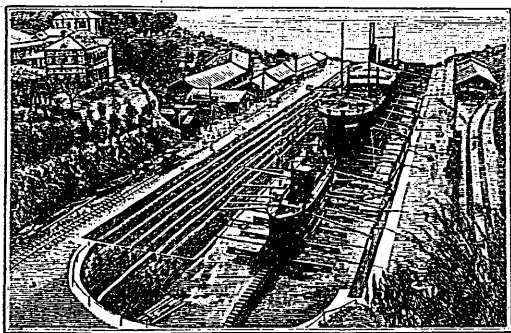
圖解 有田焼上  
粉作業

△綿絲・綿織物・鉄  
力細工を産する  
★炭坑ともいふ  
べき線で各縣に炭  
軍が行列してゐる  
佐賀縣は九州地方  
中沖獨縣につきて  
面積小なるに一縣  
を置く所以を述べ  
なさい

在地、足袋・久留米・緋木蠟の產地、米の市場である。三池炭坑を  
控ふる大牟田市は、開港三池(關門)を控へ、石炭綿絲の取引が  
多く、亞鉛製煉・電氣工業も盛である。  
佐賀縣 有明海方面は、筑紫平野の一部  
で、米・麥の産が多く、開港住江を控へ、牡蠣  
を産出する。筑紫(九州)山脈には、石炭が多  
い。唐津・伊萬里二灣間の東松浦半島附  
近に名護屋・鷹島(長崎)の史蹟と、呼子(海城)  
七釜(奇)とがある。長崎線は、鹿兒島線上  
の鳥栖に起つて、佐賀市(縣廳・高校所在、米・市場)・温泉  
地の武雄・製陶地の有田を經、中途で、唐津  
伊萬里の二線を分ける。唐津は、石炭の  
輸出港で、近傍に虹松原の勝地がある。



管轄 肥後西部、  
○平戸島・五島列  
島等・北松浦・西彼  
杵島原  
長崎縣の島嶼・半  
島を述べなさい  
×開港古く水深深  
いが土地僻在の爲  
利合に振はぬ綿  
絲・電気機械を産  
する  
長崎・佐世保附近  
は共に要港地帯で  
前者より上海に後  
者より大連に海底  
電線を通ずる  
圖解 長崎造船  
所の船渠  
△分岐點は早岐  
×は諒早  
×四端の大瀬脚は  
無線電信局所在地



長崎縣 本縣の大部は島嶼と半島とて、海岸線が頗る長く、  
漁業が盛である。大村灣口附近の佐世保市には、第三海軍鎮  
守府・無線電信局がある。彼杵半島南部の開港長崎市(戸以西  
は、内外の航路に當り、縣廳・控訴院・長崎  
造船所・醫大の所在地で、海産物の輸出  
多く、沖合に高島炭坑がある。  
長崎線は、佐世保線と島原鐵道とを分  
ち、大村を経て、長崎に終る。島原半島  
には、中央に溫泉岳、東岸に名邑島原南  
岸に開港の口津がある。五島は、五島  
鰯を産し、平戸島と共に、捕鯨等の水産  
業が盛大である。  
壹岐對馬は、日本海の西門にあつて、朝

長崎縣島嶼部の重  
要産物を記しなさい

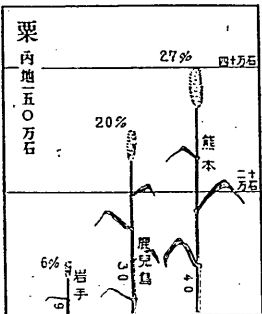
管轄 肥後

圖解 熊本市(阿  
蘇火山見ゆ)と  
水前寺

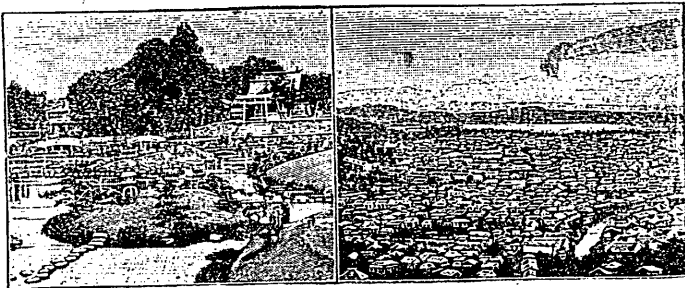
市内に九州の名  
園・成趣園(水前寺)  
がある附近に植  
木・山・原・坂等  
役の職場が多い宮  
地・鐵道・熊本電氣  
鐵道(百石行)等  
の各線が起つて居

鮮に渡る飛石の如く、對馬海峽(東水)東方  
の沖島(縣下)の近海は、日本海々戰の始ま  
つた處として名高い。對馬は鰯の産が  
多く、都邑に竹藪と、開港の嚴原・鹿見・佐須  
奈とがある。

熊本縣 東南は、山地が多く、土地が高峻  
で、阿蘇山地方には、粟作・牧馬が盛である。  
阿蘇山に發する白川は、下流に、肥後米の



産多き肥後平野を開  
き、熊本を経て有明海  
に注いでゐる。  
熊本市(縣廳)は、九州中  
部交通の要地で、米の



★五高・高工・醫大  
何故熊本市は交通の要地なるか  
熊本市の主要産物は醤油・生絲・綿絲

△無煙炭・陶土を産し近海は水産に富んでゐる

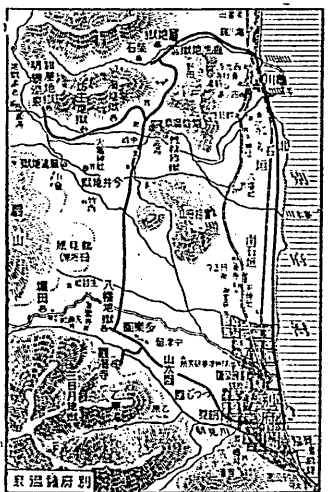
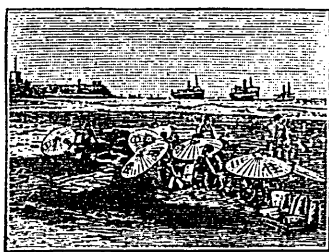
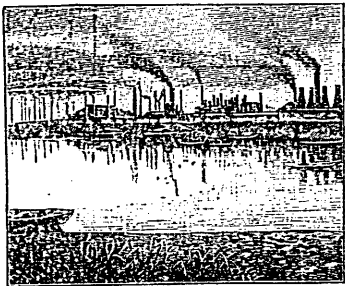
限府は菊池氏の故地

★八代海沿岸北方の鏡と南方の水俣とは望峯肥料産地  
○上流の五家荘は山間の別天地

圖解 別府海濱の砂風呂(次頁参照)

アプト式とループ線との差を述べなさい

管轄 豊前半部・豊後



取引が多い。又教育地として學校も多い。西南役で名高い熊本城の殘壘には、第六師團司令部が置かれてある。南方の宇土半島は、開港三角を控へて、天草島と共に、八代海(不知)を抱いてゐる。鹿兒島線は、熊本の南で三角線を分ち、紙セメント、木材市場の八代から、球磨川の急流に沿ひ、人吉・ループ線(大)を経て、鹿兒島縣に入る。大分縣大部は、九重山

大分縣の重要産物を擧げなさい

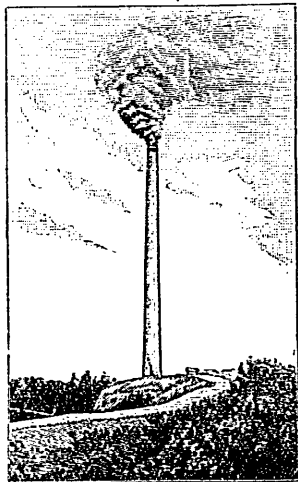
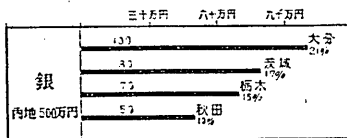
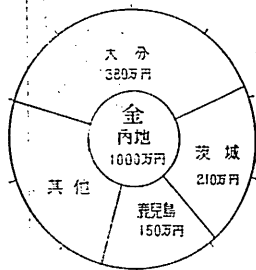
圖解 佐賀關製鍊所(煉突の高さ約一五米頂上内徑八米三分一

★農表に備後表七島表がある前者は蕎麥細く坐敷用で後者は太くて體裁悪しきも強くて日出・大分・杵築は其の集散地  
▲生絲・綿絲を産する  
△將の附近は海軍の好演習地

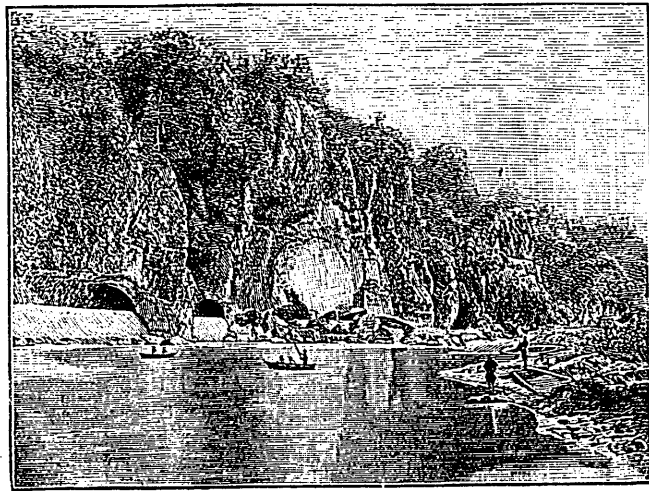
管轄 日向

由布岳・鶴見岳等の山地で、林産多く、山國川の上流に、奇岩清流の耶馬溪、河口に、綿紡績地の中津がある。中津の東南の宇佐に、名高い八幡宮がある。坊主頭によく似たる國東半島は、七島表(琉球)を産し、佐賀關半島(要港)と共に別府灣を抱いてゐる。日豊線は、中津・宇佐・日出・別府市(泉温)・大分市(商所高)を經、大製鍊所のある佐賀關を東にし、豊後水道岸の臼杵・佐伯の漁港を過ぎて居る。

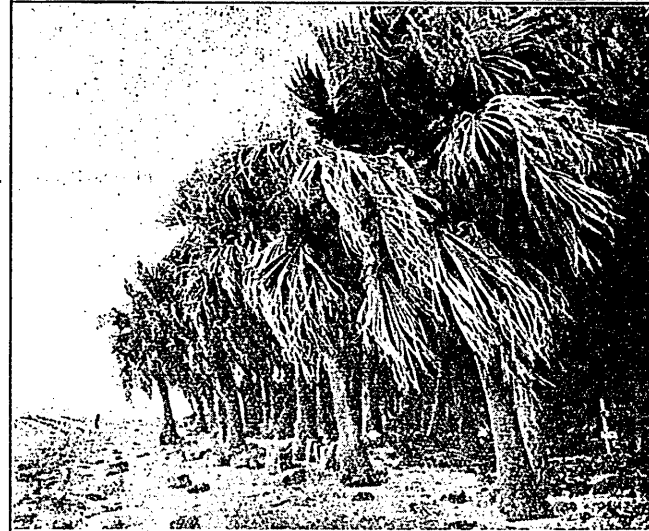
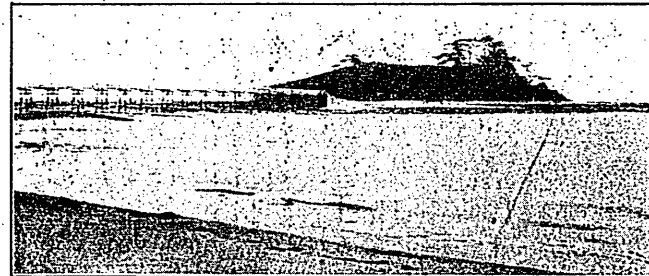
宮崎縣 我が建國の舊地であ







耶馬溪

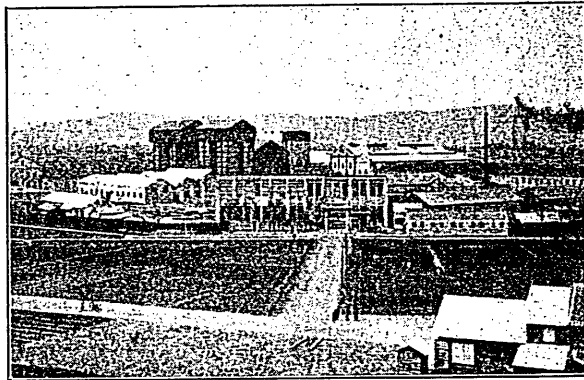


青島とその蒲葵

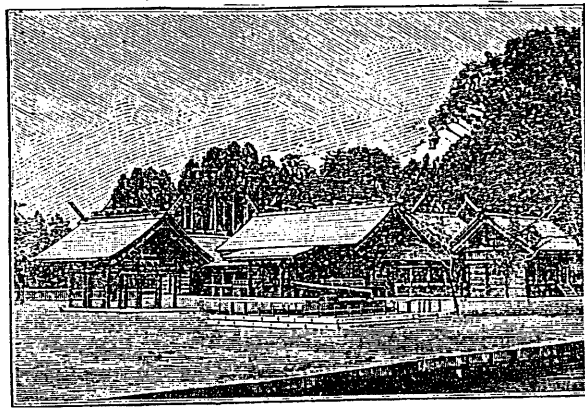
裏九州と裏九州とを比較しなさい

＊木村 薪炭推平、竹村等

上圖解 延岡堡  
築肥料工場  
下圖解 宮崎神宮  
(次頁参照)



南部に僻在して、陸の交通が不便なる上に、海岸の出入も少ないの



る。面積が廣くて、裏九州の大部を占めてゐるが、祖母山市房山霧島火山などが相重つて、山地が多<sup>く</sup>、林産銅<sup>く</sup>、鑛に富むも、人口が少なく、未墾地が多い。殊に



△製絲・製材行は  
れ東南方に熱帯植  
物で名高い青島が  
ある  
日豊線上の重なる  
都邑を挙げなさい  
△製絲・製材行は  
れ東南方に熱帯植  
物で名高い青島が  
ある  
日豊線上の重なる  
都邑を挙げなさい

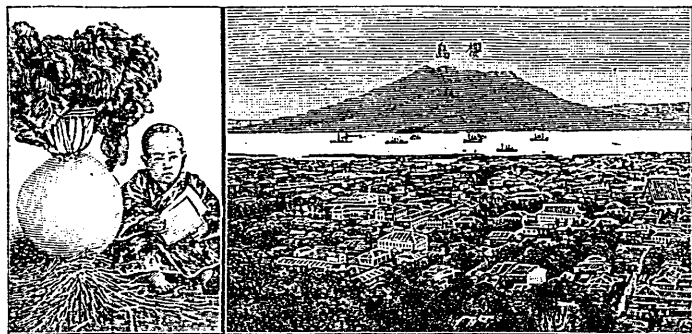
△製絲・製材行は  
れ東南方に熱帯植  
物で名高い青島が  
ある  
日豊線上の重なる  
都邑を挙げなさい  
△製絲・製材行は  
れ東南方に熱帯植  
物で名高い青島が  
ある  
日豊線上の重なる  
都邑を挙げなさい

管轄 薩摩

\*大正三年の噴火  
で大隅半島と陸つ  
づきになつた

\*牛尾山・野  
々・市木野等

て文化が遅れた。日向灘に臨める延岡・細島・油津等は、本縣の門戸であるが、畢竟、一漁港に過ぎない。日豊線は、鹿兒島線上の吉松に起り、大淀川上流の名邑小林・都城(縣廳高等農林、當時縣廳所在)とを過ぎ、海岸に沿ひ、總太郎峠を經北上して大分縣に入る。鹿兒島縣 薩摩・大隅の二大半島が突出して、鹿兒島灣を抱き、灣内には、大根と近年の噴火とで、名高い櫻島がある。河流は、川内川のみが有名で、平野は少ないが、甘藷(第一地)・砂糖(第二地)・葉煙草(第三地)・薩摩節(第一地)・山金(第二地)・砂糖(第三地)等を産し、牧畜(馬)



も亦盛である。

鹿兒島線は、葉煙草産地の一中心をして居る國分・加治木を經て、鹿兒島に終り、こゝから更に川内線が起つて、西薩地方に通じてゐる。九州島南部の開港鹿兒

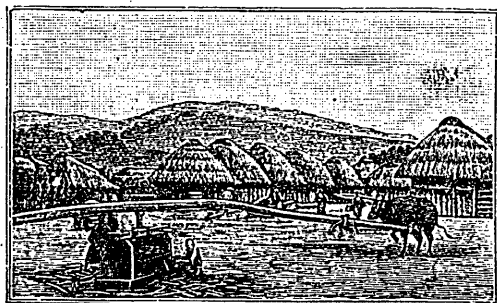
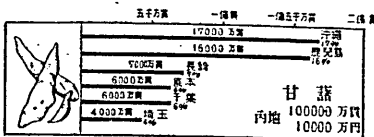
島市(縣廳、高等農林、當時縣廳所在)は、後に城山を負ひ、前面に櫻

島を望み、島津氏の舊城地で、織物・肥料の産が多い。薩南諸島の種子島(傳説の地)は、甘蔗、屋久島は

杉・鯉節、大島は大島紬・黑砂糖を産する。

沖繩縣 薩南諸島に連なる五十有餘の島嶼で、沖繩・先島(宮古・八重山)

諸島に分れ、恰も臺灣に渡る飛



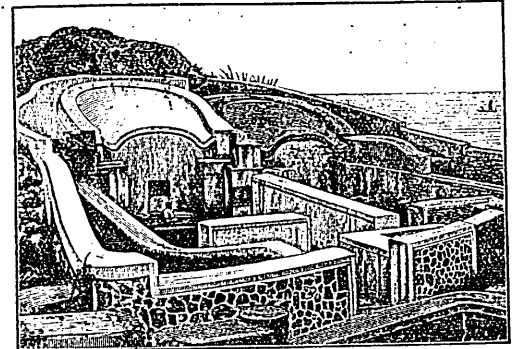
×住民の主食物

圖解 祖先に厚い琉球人の墳墓

圖解 宮古島婦人上布原科学廠の絲に撚をかける(次頁参照)

△南支那の如く墳墓を壯大にする

沖繩縣の他府縣と著しく異なる諸點



がある。今は内地との交通が開けて、教育も日に進み、言語・風俗なども、殆ど内地と異ならない。



石に似てゐる。氣候は、高温多雨であるが、晝夜四季寒暖の差が少ない。甘蔗、甘藷、芭蕉などの熱帶性植物がよく生育し、また養豚が盛である。

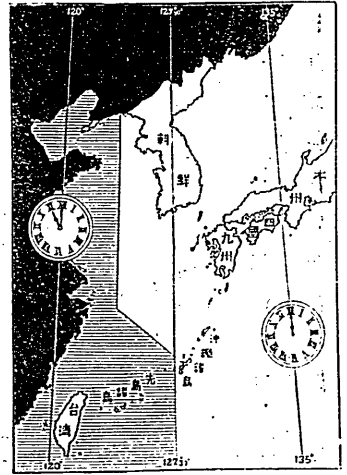
夏秋の候には、暴風が屢襲來するので、家を低くし、石垣を高くする習慣

久米島は久米編の本場  
△無線電信局あり  
琉球産を産する  
沖繩縣の重要工業  
砂糖・絨物・泡盛

圖解 中央西部

×東經一二〇度の西部標準時による

南大東島に無線電信局がある

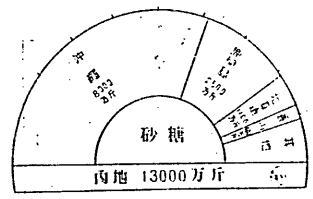


産し、無線電信局がある。

第三節 人文誌

産業 西北部は、米・麥・菜種・榎などが多く、特に筑紫肥後の兩平野には、良米を産する。南部には、甘藷・甘蔗・煙

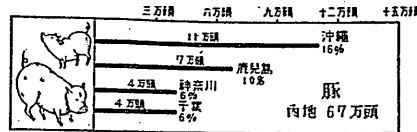
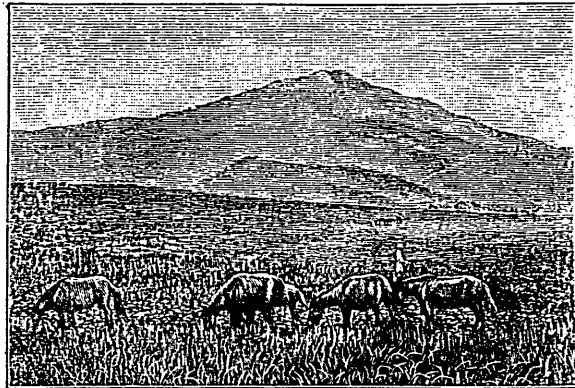
最大島沖繩の開港那覇市(縣在)は、泡盛・琉球緋芭蕉布・帽子・舊王都の首里市は泡盛を産する。先島諸島は、上布を産し、又臺灣と共に内地より時刻が一時間後れる。南東海上のラサ島(沖大)は、燐礦を



|    | 三ヶ月 | 六ヶ月 | 九ヶ月 | 合計  |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 内地 | 110 | 98  | 58  | 266 |
| 晒  | 29  | 23  | 10% | 62  |

上圖解 阿蘇火  
口原の牧馬  
下圖解 長崎の  
石炭採掘

九州の炭坑及び其  
の中心地並に石炭  
輸出港はどこで  
か  
\* 林産物亦多い



| 石炭 |       | 内地 26000万円 (2800万噸) |      |       |      |
|----|-------|---------------------|------|-------|------|
| 種  | 量     | 北                   | 東    | 西     | 其    |
| 四  | 15500 | 4500                | 7000 | 12000 | 1500 |
| 片  |       | 片                   | 片    | 片     | 片    |



の牧馬と、沖繩縣の養豚とは、殊に名高い。九州北部山脈は、内地産炭額の大部を出し、九州南部山脈は、金錫を産する。

草茶の栽培が盛で、熊本・鹿兒島二縣

九州の近海を流る  
海流を述べなさい  
何故九州の西北部  
は大工業が行はれ  
るか  
九州の開港場を舉  
げなさい

九州北部には電氣  
鐵道發達し、就中門  
司折尾間・福岡久  
留米間のは比較的  
重要である  
九州に於ける鐵道  
會社の重なる地を  
挙げなさい

長崎・鹿兒島二縣は、帝國有數の水産地方で、鰹・鰯・烏賊・鯨などの漁獲が多い。工業は、石炭に富める西北部地方に盛大で、製鐵・造船・紡績・製糖等の大工業が行はれてゐる。開港場は、殆ど皆西北部にある。門司・長崎は對外貿易、福岡は内地商業の一中心をしてゐる。

交通 交通は、西北の半面に最もよく發達してゐる。海運は、門司・長崎を二中心として、内外諸港に通ずる。鐵道は、鹿兒島線と、日豊線とが南北に縦貫して、長崎・川内などの諸線を分岐し、更に筑豊炭田地方には筑豊線などが、蛛網狀を呈してゐる。海底電線は、近海諸港を始め、朝鮮・臺灣・關東州・上海・浦鹽斯德等に通じてゐる。

都邑 長崎は、九州中最初に開けた最大都であるが、新進有望の都市なる福岡・門司に比しては、發達上遜色がある。

第七章 臺灣地方

（太平洋東支那海峽）

第一節 地文誌

地域 帝國の西南端にあつて、南半は熱帶に入り、支那や米

領の比律賓群島に近い。

行政上臺北新竹臺中臺南

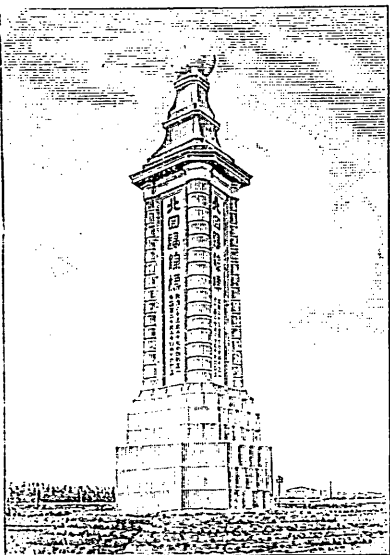
高雄の五州と、臺東花蓮港

の二廳とに分れてゐる。

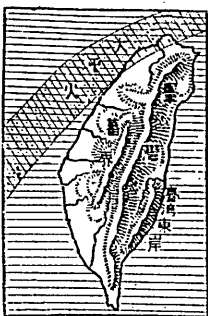
我が國南方の要領で、寶庫

の一であ

る。



地勢 帝國中、最も雄大なる臺灣山脈



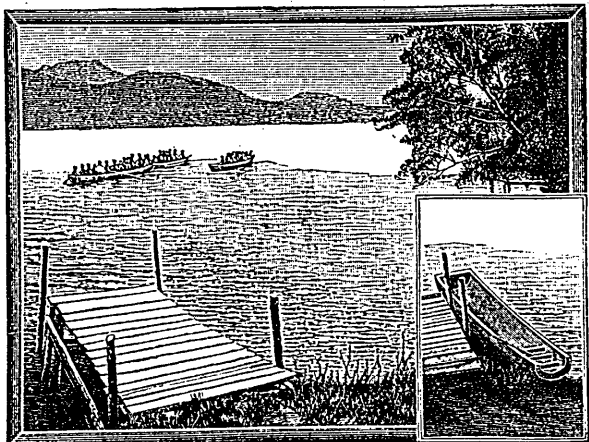
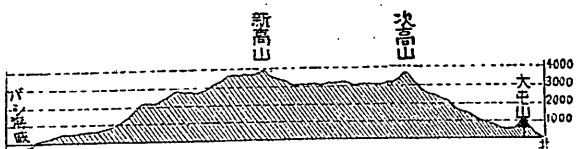
上圖解 嘉義附  
近の北回歸線標

下圖解 臺灣地  
方地勢圖

\*臺東山脈界嶺  
を合すれば山地は  
本島の約三分二

新高山は明治天皇  
の御命名で三九五  
〇米  
\*攝政宮の御命名  
で舊名はシルビア  
山高さ三九三一米

上圖解 新高山  
中國解 臺灣地  
方南北斷面圖  
下圖解 日月潭  
(濁水溪の上  
流)(次頁参照)



が、東部に偏つて縦走する。脈中の新高山は、帝國の最高山で、次高山なども、亦富士山より高い。其の東に臺東山脈北部に大屯火山群がある。臺灣山脈の西側には、

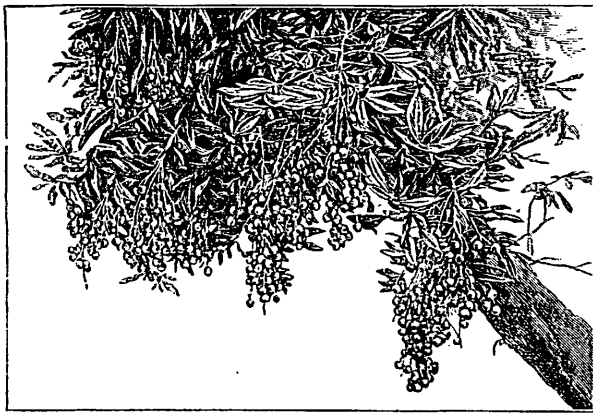
△全島に電力を供給する工事は中止

臺灣の河の特色を述べなさい

圖解 龍眼肉  
(次頁参照)

圖解 東岸の崖

廣い臺灣平野が開けて、淡水河、濁水溪、淡水溪等が流れて居るが、概ね急流で、殊に季節によつて水量の増減が著しく、上流は深い峡谷、下流は廣い磧(カサ)をして居るので、水運の便が少ない。湖沼は、日月潭のみが著しい。海岸は、出入に乏しい。東岸には、數千尺の斷崖が多く、西岸には、遠淺の



臺灣の東西海岸を比較しなさい

何故臺灣の西部は特に發達したか  
發期が長く、竹・茄子は年中絶えることがない  
中部以南では三月末に白地の單衣を着、又茶が出る

圖解 基隆埠頭

基隆・門司間汽船行程約五四時間

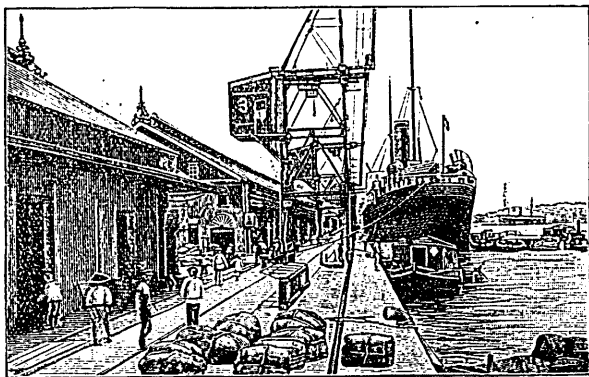
甘蔗、米の内地移出が多い

沙濱や沙嘴がよく發達してゐる。群島・紅頭嶼などが著しい。

氣候 乾季・雨季に分れ南部と北部とに依つて、其の季を異にする。概ね高温多雨で、竹・檳榔樹・榕樹・龍眼肉・樹・籐・檳榔・甘蔗・鳳梨・木瓜が生育し、颶風が屢襲來する。

### 第二節 處誌

東北岸の基隆は、築港が略大成して、今や世界的航路の要地に當り、出入船舶が多く、貿易が盛で、北部水産業の中心である。淡水河畔



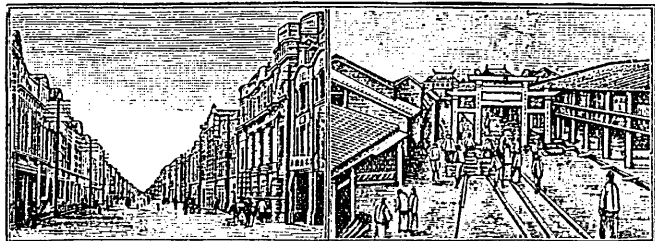
屬島は、臺灣海峽の澎湖

大溪は蕃地に對する要地  
●高校 高商・醫專・農林專

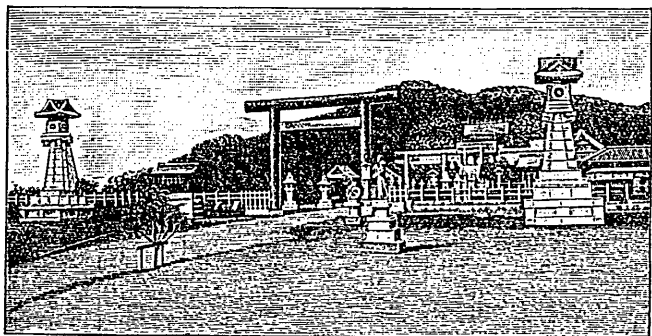
臺北の城壁は破壊せられたが何ほ城内城外の名がある

上圖解 清領時代と現在との臺北比較  
下圖解 臺灣神社

臺北・臺中・臺南の特色を挙げなさい



と共に、米産地の中心である。嘉義は、



(總督府・覆審法院・諸學校守備隊司令部臺灣神社の所在地)

＊外港の安平は支那船をいゝに足るのみである

基隆・高雄二港を比較しなさい

△基隆地方と共に要塞地帯

圖解 高雄埠頭  
特別開港場  
舊港・後旗鹿港・梧棲  
東石馬公



製材・製糖が盛大で、舊都の臺南市(臺南神社・開山神社・商學校の所在地)は、南部に於ける文化の中心で、商業が榮え、大體支那風の市街になつてゐる。埔里は、蕃地に對する要地で、日月潭に近く、鳳山・屏東(阿)は、製糖が盛大である。高雄市(打)は、基隆市と南北の要門をなし、米砂糖を輸出し、前途が有望である。恒春は、帝國最南の都邑で、澎湖群島にある馬公は、海軍の要港で、帝國南門の鎮である。東岸の花蓮港と臺東(卑)とは、臺東平野の門戸である。宜蘭は、宜蘭平野の中心で、蘇澳を外港とする。



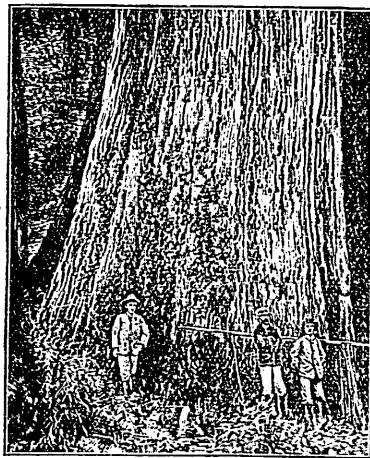
圖解 阿里山の  
檜

米・甘蔗・砂糖・茶・  
甘蔗は臺灣の五大  
農産物

\*年に二回收穫

△粗糖のまゝ内地  
に送つて精製され  
る 糖蜜からは酒  
精を採る

臺灣の主要産物は  
何々か

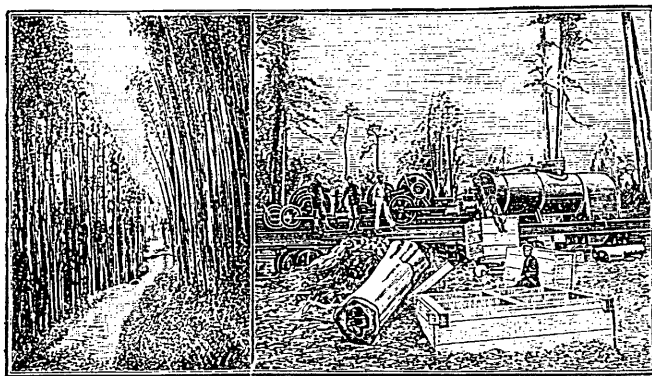
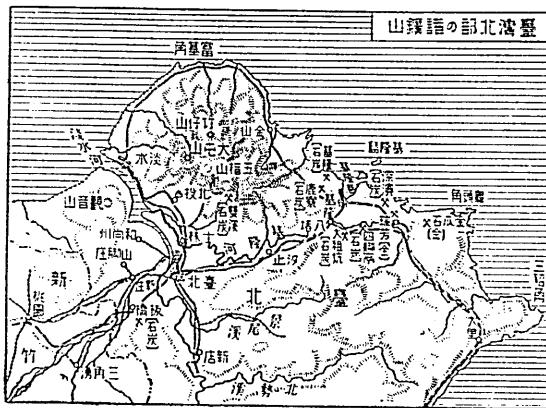


甘蔗南部は砂糖の産が多く、甘藷  
は、何れの地方にも産する。樟腦は、  
中部高地の樟樹より製して、茶と  
共に多く海外に輸出し、各地の林  
投樹の葉は、琉球の産の如く、夏帽  
子に作られる。その他阿里山、

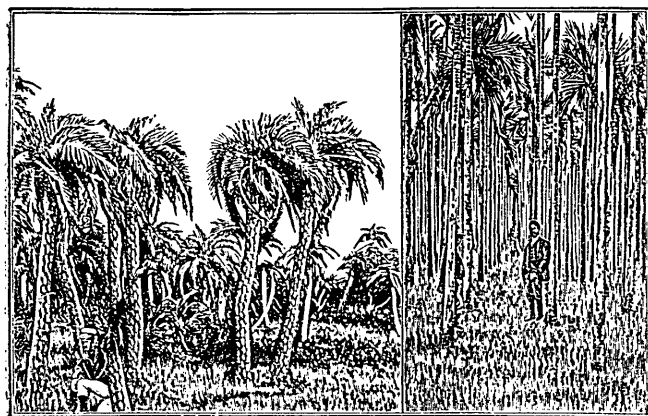
産業  
は茶  
(茶烏  
等龍)  
中部  
は米

第三節 人文誌

農業が盛んで北部の丘地

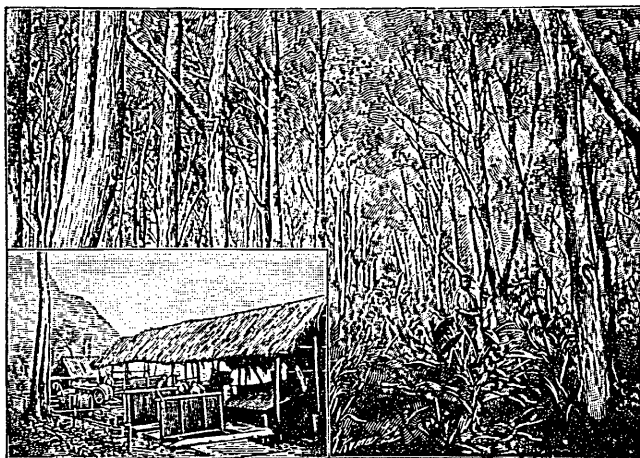


林竹と搬運檜の山里阿

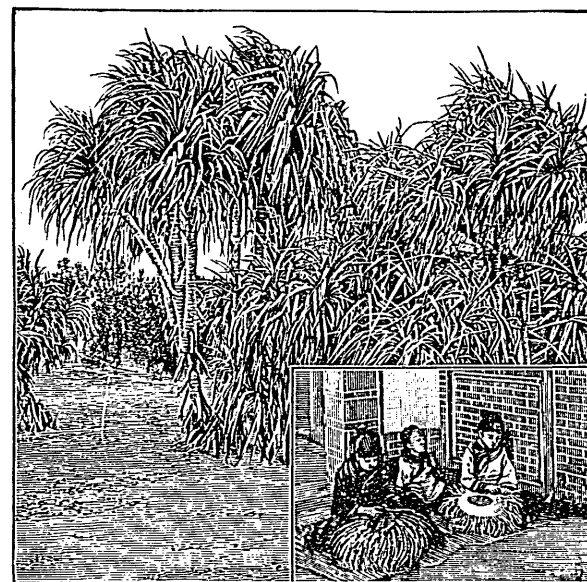


庭柿と樹椰檳

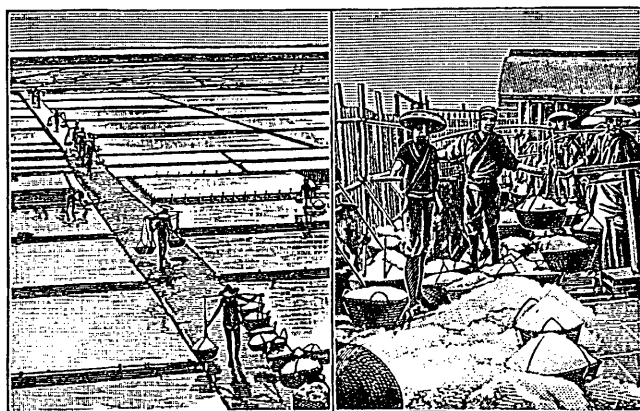




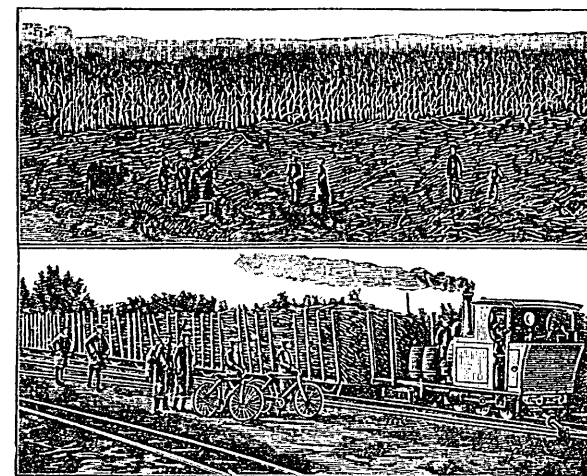
所製組藤樟と林樟



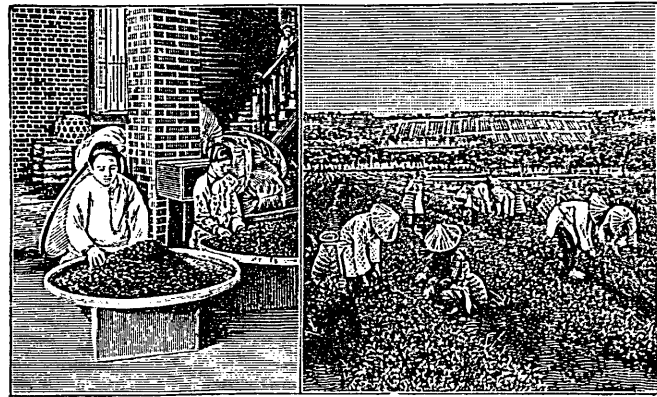
組製るよに葉の其と樹投林



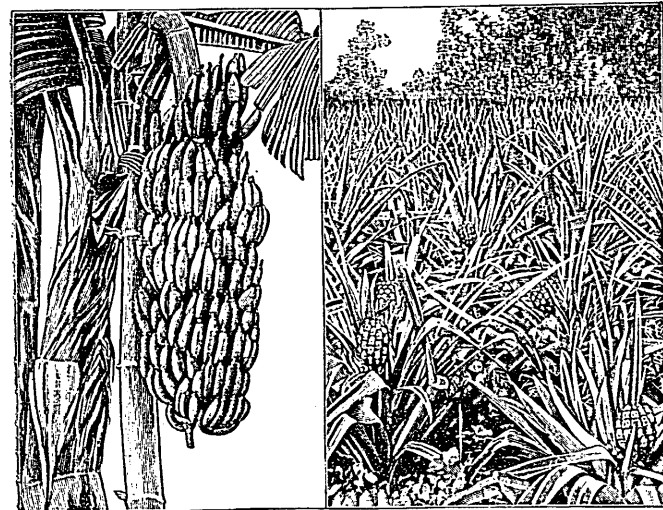
製日天



車汽送運と園耕の蔗甘



茶製とみ摘茶



ナナバと製風

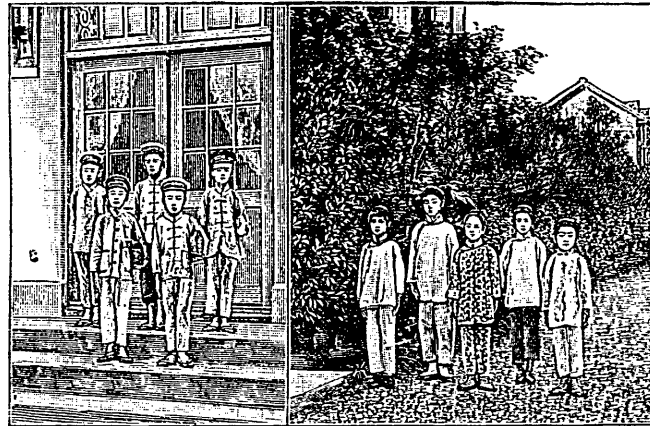
●金瓜石、瑞芳等  
○其の他麻類、蓮草等

水牛は角が大きく色が黒い。往々人を追ひかけて来る。しかも臺灣の小畜はよく之を牧する。耕作運搬に利用する。黄牛は體が小さく黄色で肉は内地牛よりはまづい。臺灣人が一本の棒

圖解 漢族の公學校男女生（次頁参照）

て驚を指揮し數百羽の行列をさせて牧するは實に奇觀である

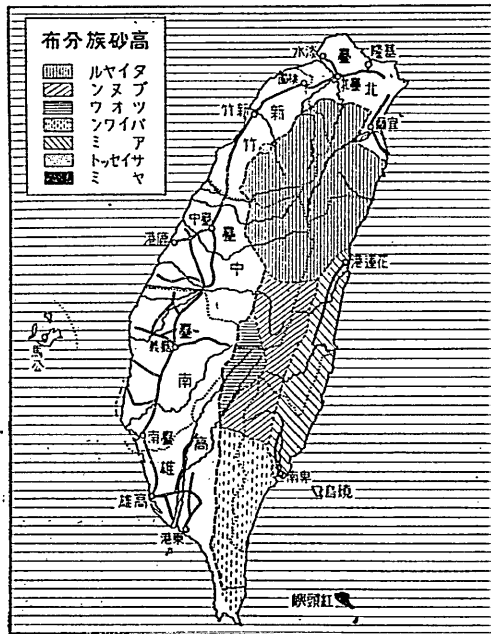
＊基隆・高雄間、臺北・淡水間等に支線を通ずる。基隆・鳳山に無線電信局がある。何故臺灣は四岸のみ交通が發達したか



大山等の檜、西岸の天日製鹽、北部の金、石炭、硫黄は著しい産物である。家畜は、豚、水牛、黄牛、鶏が多い。工業は、相當に發達しつつある。交通 日本領となつて以來、著しく交通が發達し、鐵道は、平地の稀なる東部にさへ漸次延長し、西部の縦貫線、南部の甘蔗運搬鐵道及び私設軌道（臺）は特に著しい。汽船は、本島諸港間を始め、内地、本島間、本島、南支間を連絡する。臺車、竹筏は、臺灣の特殊交通機關である。彼の轎は、今は少なくなつた。

住民 住民は漢族が主で、内地人と共に、概ね平野に住みて、農・商に於ける勢力が大である。

人口 約四百萬  
内地人 十八萬二千  
高砂族 八萬四千



高砂族は、馬來種に屬し、一時山地に據りて、兇暴を逞しうしたが、次第に内地の文化と勢威とに畏服して、今は一般に平穩になつた。

| 一万里の人口比較 |           | 全國    | 内地    | 臺灣    |
|----------|-----------|-------|-------|-------|
| 面積       | 人口        |       |       |       |
| 日本       | 三、八〇〇、〇〇〇 | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● |
| 中國       | 四、五〇〇、〇〇〇 | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● |
| 英國       | 四、九〇〇、〇〇〇 | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● |
| 美國       | 一、三〇〇、〇〇〇 | ●●●●● | ●●●●● | ●●●●● |

## 第八章 北海道地方

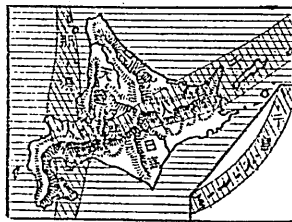
### 第一節 地文誌

\* 渡島後志・石狩・天鹽・北見・釧路・日高・十勝・釧路・根室・千島

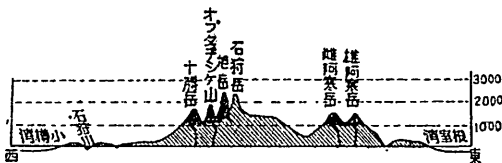
地域 太平洋オホーツク海間の千島諸島は、露領勘察加半島に向つて、國後・擇捉・得撫などの島々が、魚列の如くに連り、赤鯔形の北海道本島は、帝國第二の大島で、津輕海峡を隔て、本州に、宗

谷海峡を隔て、樺太に對し、軍事上・經濟上重要な地方である。行政上、六市(旭川・小樽・札幌・釧路・帯広・網走)・十四支廳に分れてゐる。

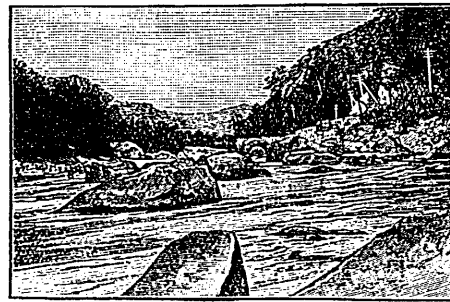
地勢 並列して縦走する北見・天鹽・日高・夕張の山脈と、横走する千



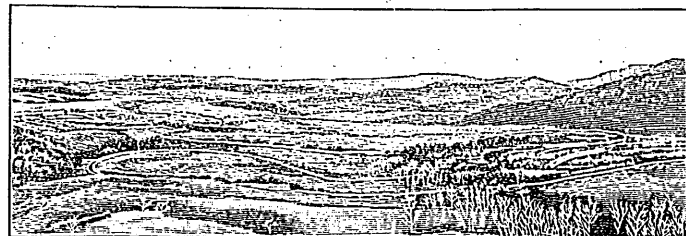
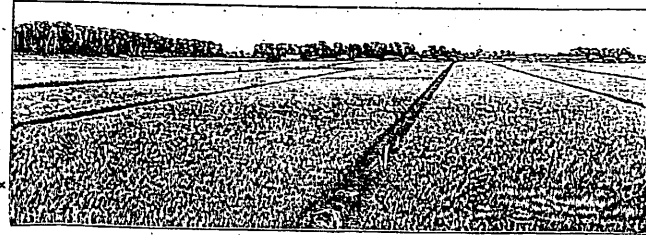
上圖解 北海道  
地方地勢圖  
\* 渡島・檜山・後志・釧路・石狩・空知・上川・留萌・宗谷・網走・根室・釧路・河西・浦河



島火山脈とは、本島の中央部で十字形に交り、そこに旭岳・石狩岳等が峙つて居る。石狩・天鹽・十勝・釧路の



四大川も、此の附近に發し、各平野を開いて、植民の來るを待つて居る。就中石



中圖解 北海道  
角田村開墾水田

下圖解 西北山地より見た十勝平野

上圖解 石狩川中流の神居古潭

\*中流に神居古潭の峽流がある  
石狩川の人文發達に及ぼした影響

西別川は鮭の産地

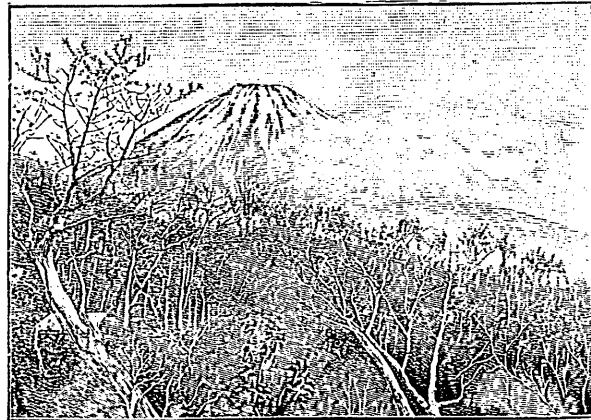
上圖解 マッカ

下圖解 國後島の爺岳と大沼附近の駒ヶ岳

\*蝦夷富士又は後方羊蹄山

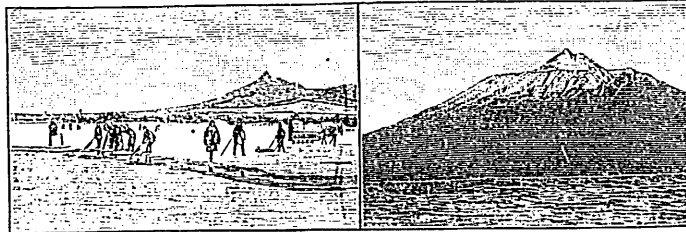
\*登別・定山溪等

北海道の海岸線を描き重なる岬角・港灣を記入しなさい



い。海岸は、出入が少なく、西南の半島部以外は、概ね弓形の沙濱をなし、東部には、砂嘴や澤

狩川は、帝國屈指の長流で、流域の石狩平野は、廣大肥沃にして能く開拓されて居る。西南部の内浦灣附近には、那須火山脈中の樽前嶽・マッカリ嶽・有珠嶽・駒ヶ岳等の火山が聳えて、支笏洞爺の二湖を湛へ、温泉も多



△函館・内浦二灣  
間は本道の最狭部

北海道の東南部の  
比較的寒冷なる所  
以を述べたさい

湖(海峽)が多い。宗谷襟裳二岬は、赤鱈の兩鰭をなし、頭部の知床(知床)花咲(花咲)二半島間に根室灣、尾部(半島)に、内浦函館の二灣がある。島嶼は、千島列島以外に、奥尻、利尻、禮文等がある。

氣候 一般に寒氣が稍強いが、雨雪は、羽越地方よりも少ない。中部は、寒暑の差が多く、西北岸は、東南岸に比して、割合に溫和多雨である。

### 第二節 處誌

本地方の門戸たる函館市(港町)は、水産物の輸出が多く、要塞があつて、大湊と共に、津輕海峽の鎮である。明治維新史に名高い五稜廓の外濠では、北方の雄大な大沼公園と共に、採氷が行はれる。

\*港灣の設備が  
稍整つてゐる

函館と小樽とを比  
較しなさい

西岸の福山・江差・  
函館・岩内余市増

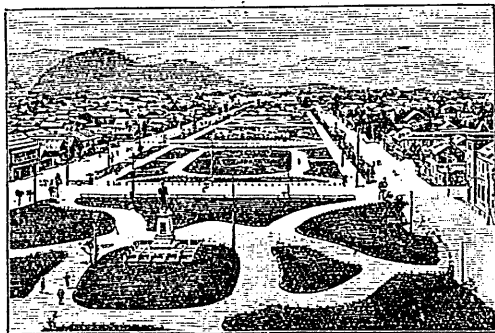
毛・留萌・稚内等は  
漁港殊に余市・増

毛は鯨の大産地  
△市街は自然の形

勢を占め、アカ  
函館 冬季の室

蘭港 シア・楡樹等があ  
つて欧米の都市を

髣髴せしめる



江差照るく函館くもる間の福山花が咲く

(江差)

開港小樽市(高商)は、石狩平野の門戸で、商業が盛である。

船舶の出入、物貨の集散が多い。

石狩平野西部の

札幌市(道廳所在地)は、

豊平川に跨つて、

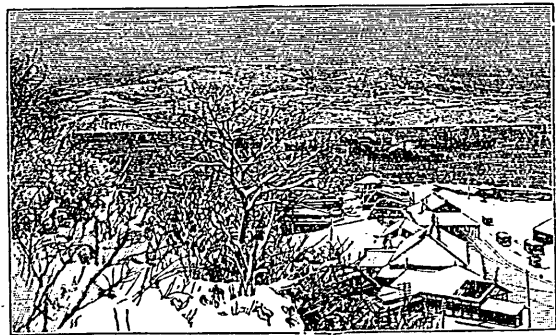
街衢がよく整ひ、

麥酒、麻布、製粉、煉乳、製材の工場がある。

石狩平野の東方山地には、夕張、幌内等

の炭坑が多い。内浦灣岸の開港室蘭市

は、多く其の石炭を輸出し、又日本製鋼



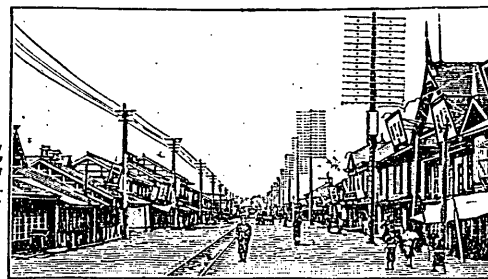
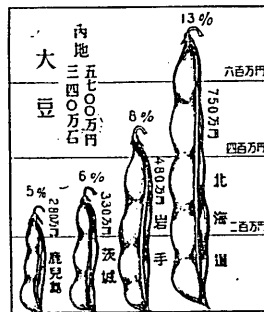
\*北海道炭礦汽船

アイムストロング  
兩合社 合同事業  
苫小牧に製紙場が  
ある

上國解 旭川の  
師岡通 根室の  
下國解 昆布乾燥

△石炭・水産物の  
移輸出港

所の所在地である。  
旭川市(第七師團司令部)は、上  
川盆地の中心で、醸造・  
製材・木工品などの諸



工場がある。宗谷海峡附近の稚内は樺太に渡る要津で、鴻舞は砂金を産する。帯廣は大豆産の中心地である。釧路川口の釧路市は林産物、厚岸は牡蠣、昆布の集散地である。根室は、花咲を補助港として、水産物の製造取引が多く、千島

千島列島の地理上の  
価値はどうか

南瓜、甜瓜、落花生、  
大根、牛蒡、百合、人  
参、除蟲菊等の産  
が頗る多い

△宮内省新冠牧場  
日高種馬牧場

に對する要地である。千島列島は、水産(魚類)が多く、擇捉島に、紗那の漁港がある。千島海峡附近の占守、阿頼度の二島は、臺灣の花嶼、七星岩と共に、各、我が領土の四極の一である。

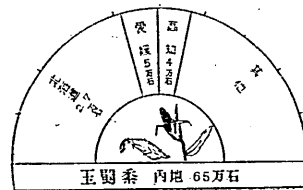
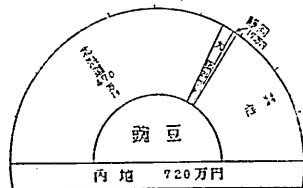
### 第三節 人文誌

産業 米・麥・豆類・玉蜀黍・蕎麥・蕎麥・馬鈴薯(澱粉原料)・菜種・玉葱・甘藍・亞

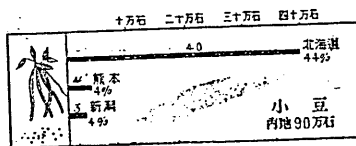
麻・薄荷・櫻桃・林檎  
を産することが

多く、日高・石狩の  
原野は、牧畜が盛  
である。山地の

蝦夷松・根松・白楊  
(北東)石炭・硫黄は、

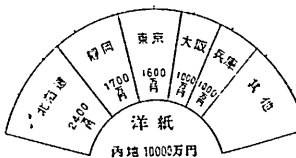
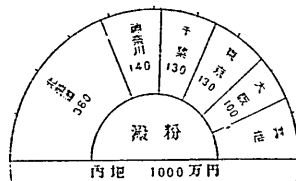
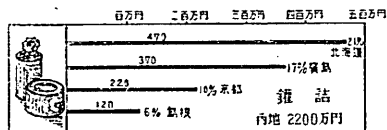


| 馬鈴薯 内地23000馬鈴 |      |
|---------------|------|
| 北海道           | 4495 |
| 青森県           | 4000 |
| 岩手県           | 3500 |
| 秋田県           | 3000 |
| 山形県           | 2500 |
| 宮城県           | 2000 |
| 福島県           | 1500 |
| 茨城県           | 1000 |
| 栃木県           | 500  |
| 群馬県           | 500  |
| 埼玉県           | 500  |
| 千葉県           | 500  |
| 東京都           | 500  |



\*乾菜・鹽菜・煙  
葉・肥料として内  
地・支那等へ供給  
する  
魚類の人工孵化場  
も少なくない

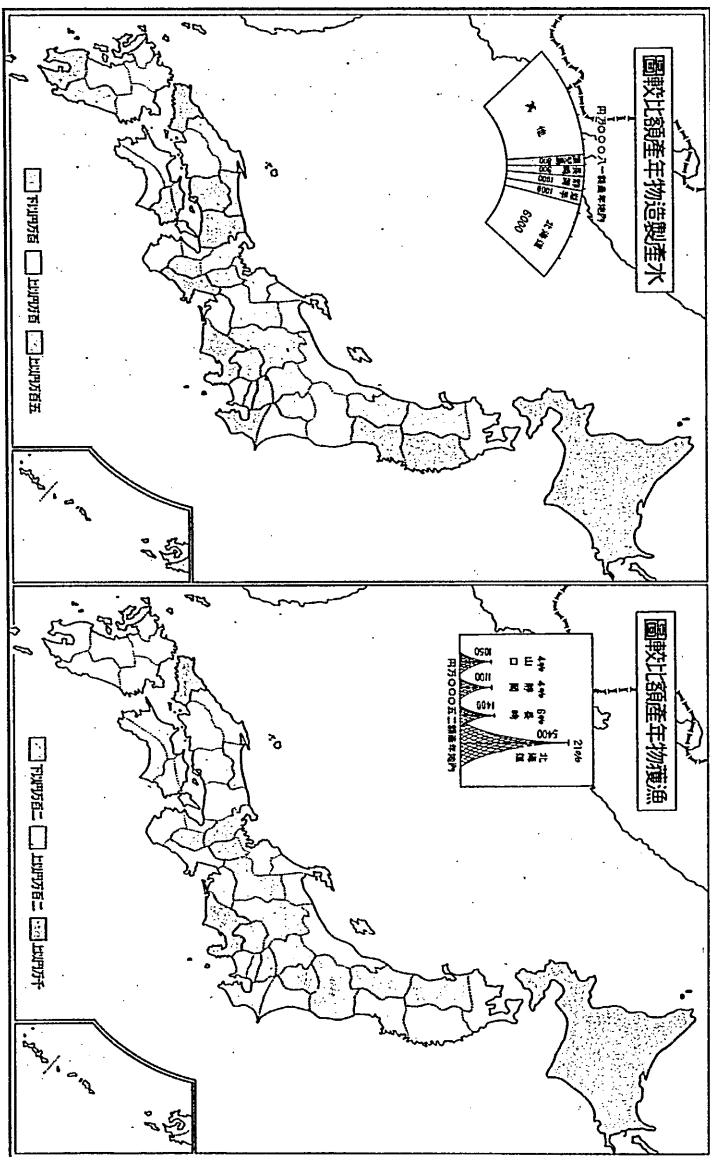
冬季は樺の利用が盛である  
樺道の延長港灣の修築折衷の經營は本道發展の根本何故濃霧・流水が生ずるか旭川・釧路に鐵道工場がある北海道の主要なる鐵道線路を擧げなさい  
落石・稚内・石狩・幌延に無線電信局がある北見・天鹽方面は新進の都邑が多い。



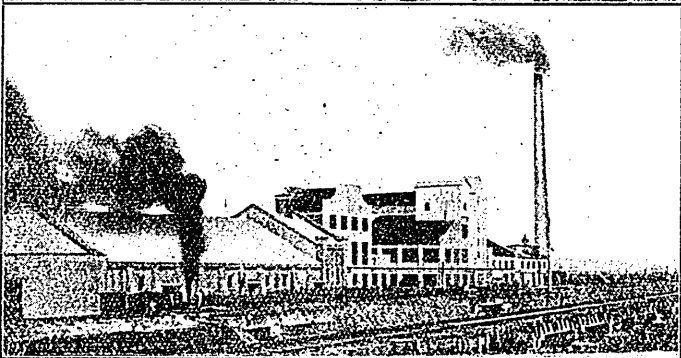
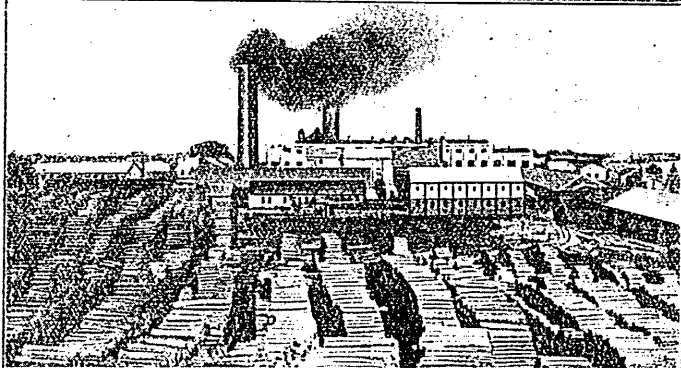
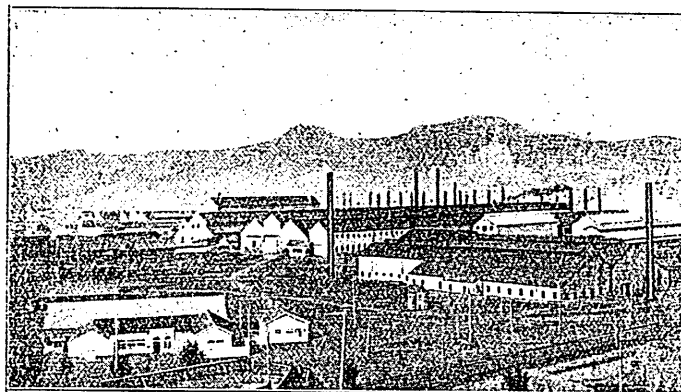
鯡・鮭・鱈・昆布等の海産物と共に、其の産が多く、今や製粉製紙(江別小牧)・醸造(酒・酒精)・製麻・製材等の工業が盛である。

蘭・釧路・根室の五開港を中心として、稍發達したのである。函館に起る函館線は、旭川に達して宗谷線と接し、中途、岩見澤(四線)で室蘭線・釧路川で根室線・深川で留萌線と接し、又根室線は網走線と、旭川に至る支線とを分岐してゐる。

住民 政府は、開拓の根本として、内地人の移住を奨励し、今







場糖製菜甜廣帶(下) 場紙製別江(中) 所製製本日の蘭室(上)

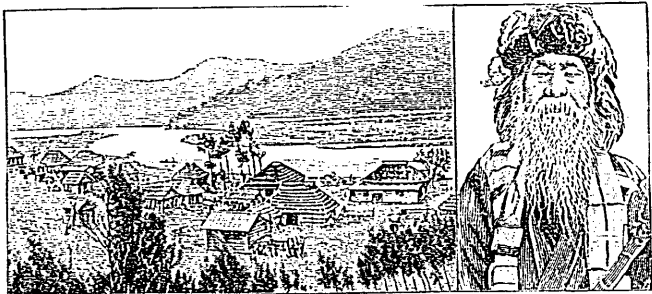
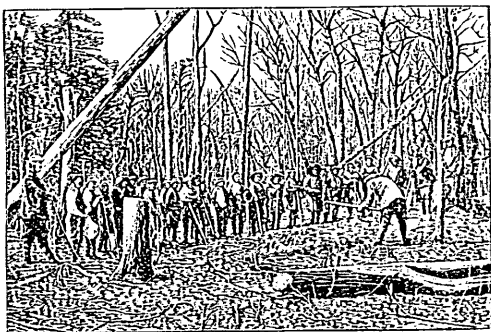
× 楡に似た木の樹皮で織つたもの

|            |                                                                                   |  |     |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--|-----|
| 面積四、三九八〇方里 | 一万里の人口比較                                                                          |  | 全國  |
|            |  |  |     |
|            |                                                                                   |  |     |
| 二、四九九六     |  |  | 内地  |
| 五九八七       |  |  | 北海道 |

や人口は二百萬を  
超ゆるに至つたが、  
在來のアイヌ人は、  
二萬人に満たない。

アイヌは、蝦夷エゾの子孫  
で、日高國沙流川サフル附近

の平取に多く、一般に骨骼は逞しいが、性質は温和である。男子は、多くの頭髮鬚髯を蓄へ、有夫の女子は、口邊に黥する遺習がある。衣服は、アツシで作られ、筒袖で裾が短く、概ね脚絆を穿ち、熊を射鮭



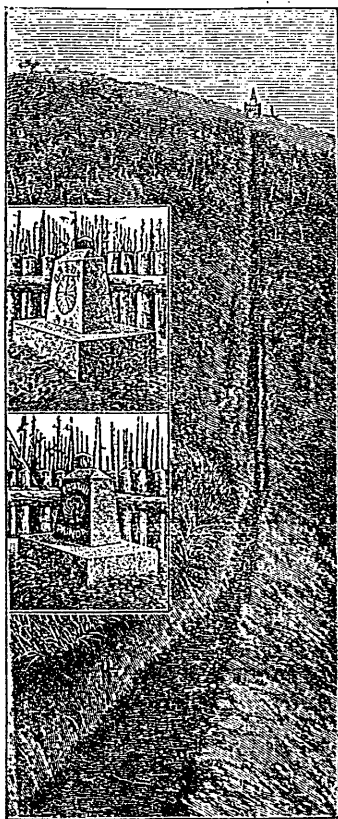
鯨等の魚類を捕へ、粟稗等を作りて、わびしい月日を送つて居る。

第九章 南樺太地方 （露領オホーツク海・境宗谷海峡・間宮海峡）

第一節 地文誌

△國境三ヶ所の間に幅九米の林道を造り、境界石が置かれてある

圖解 樺太の露領界に於ける林道作業と境界石

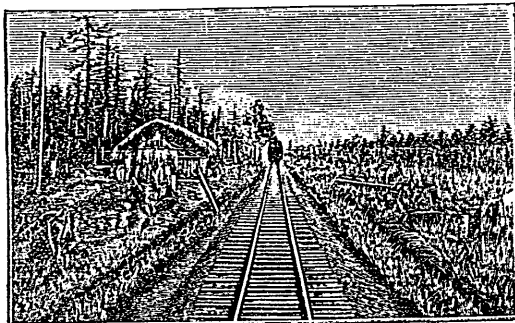


地域 北海道本島の北にあつて、南北に長く、北緯五十度線て露西亞領と境し、西は露西亞領の西、比利亞に對して居る。林産水産が多く、將來發展すべき有望の地方である。地勢 低夷なる東部（東樺太山脈・鈴谷山脈）西部（西樺太山脈）の二山地が縦走し、

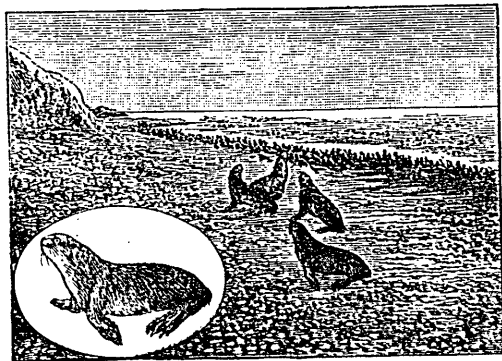
圖解 樺太地方地勢圖

南部に鈴谷・内閣二河域の鈴谷平野がある  
×多来加・富内などの深湖が多い

上圖解 南部の鈴谷平野（林相にも注意せよ）  
下圖解 海豹島と臨海群衆



る。海岸は、屈曲少なく、中知床・西能登呂・二岬間に亞庭灣・北知床岬の西に、多来加灣がある。島嶼は、海獸産地の海豹島（臨海島）・海馬島（臨海島）のみが著しい。氣候 冬季は、長



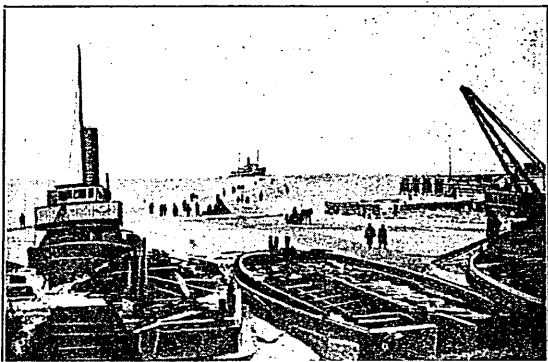
\*不凍港は眞岡、  
本斗  
何故樺太は氣候が  
寒冷なるか

圖解 氷結せる  
大泊

\*大泊・稚内間の  
連絡航路は八時間  
圖解 樺太神社  
より見た豊原

敷香は幌内平野の  
門戸で獸皮を集散  
し鮭漁の中心年  
平均温度零下一度

久春内・北名好は  
間宮海峡の要津

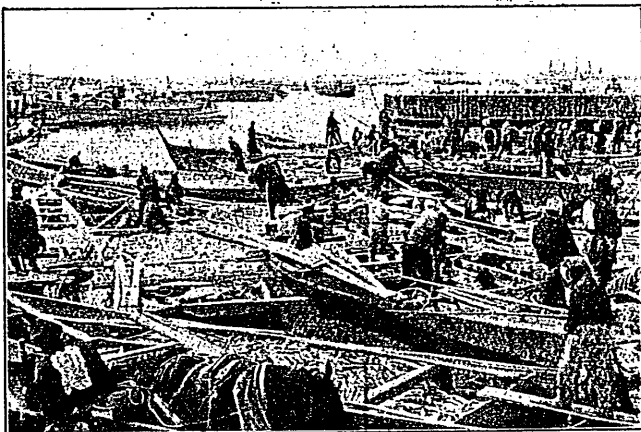
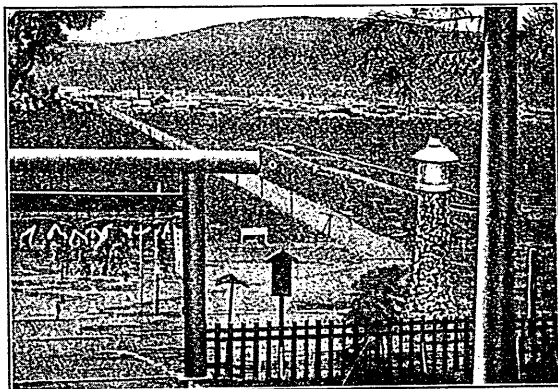


くて寒氣が強く、海灣は概ね氷結し、  
海底電信碎氷船によつて漸く内地  
と音信する。但し雨雪の量は少ない。

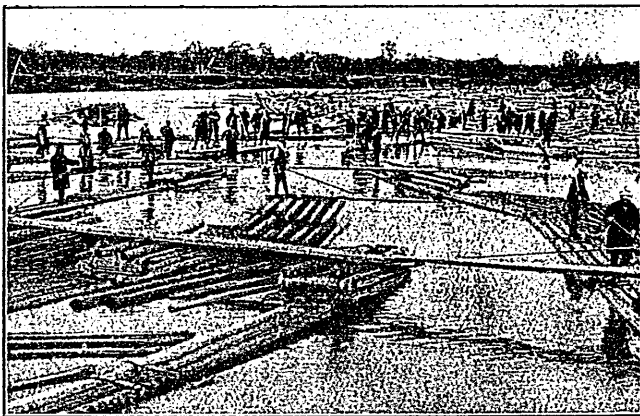
第二節

處 誌

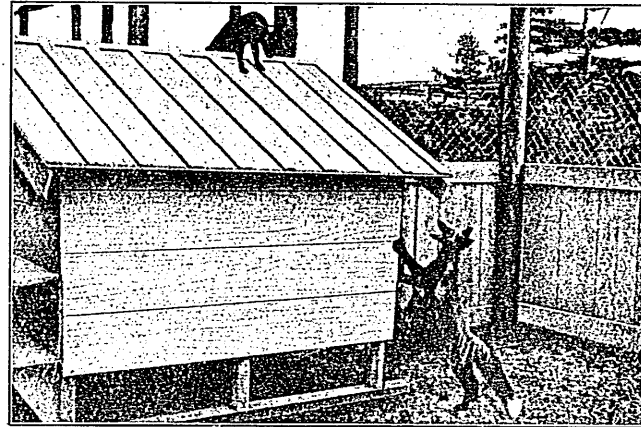
亞庭灣頭の  
開港大泊は、  
内地より本  
島に入る要  
地で鈴谷川  
上流の豊原は樺太廳の所在地であ  
る。大泊に起る鐵道は、ここを過ぎ  
て北方の榮濱に達する。眞岡は、不



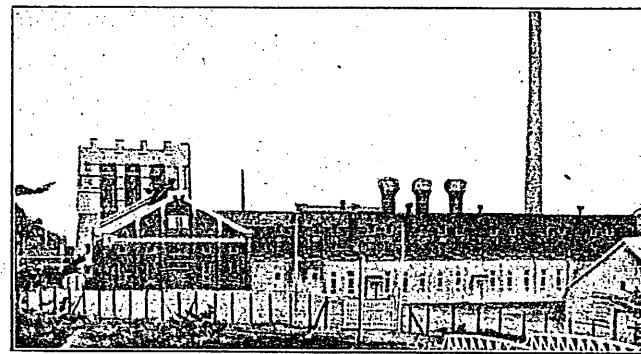
げ揚陸船



送流の材木



養 殖



旭 紙 工 場 の 田 野

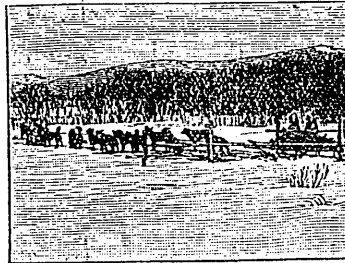
凍港で、本島第一の漁業地、鯨漁が盛である。本斗は、將來、築港成らば、本地方唯一の良港とならう。野田は、海岸線の終點で、最新式のバルブ工場がある。

### 第三節 人文誌

産業 氣候の關係上、農産は少ないが、榎松、蝦夷松、落葉松の所謂原生的自然の密林もある。鯨、鯨、鯨、昆布、海獸（熊、虎等）等の水産は、無盡藏といはれるほどで、漁期には、内地から出漁する漁民が多い。鑛産は、石炭、石油が有望である。

交通 道路、鐵道は、漸次發達し、土人は、犬樫

榎松最も多く帶濕地を除き、到る處に寄生する蝦夷松は山麓の傾斜地に多い。  
圖解 馴鹿と犬樫  
バルブ工場は大泊・豊原・落合・野田・泊居・内路・敷香・東知取・真岡などにあり。  
\*全島沿岸を約二百漁區に分ち毎年入札で貸下げる  
\*樺太鐵道本線（小泊・川上炭山地方面大泊・築港間）



樺太鐵道海岸線  
(本斗・野田間)等  
大泊に無線電信局  
がある

大樫・駒鹿樫につ  
き知れることを語  
りなさい

圖解 吹きよせ  
られた流水

大泊・本斗・真岡・豊  
原・泊居・元泊・敷香  
の七支隊がある

住民約二十萬  
樺太の住民につ  
き述べなさい



馴鹿樫を使用する。内地との航運は、稍盛であるが、近海は、冬季に氷結し、春季に流水の漂ふ缺點がある。

沿革 樺太は、はじめ日露二國の共屬地であつた。我が國は、明治八年に、露國と協議して、千島大部と、本島全部とを交換したが、明治三十八年、本島南部を、再び我が領土とし、今は更に、北部にも勢力を及ぼして居る。

住民 今や露國人は、殆ど退去し、土人も、北部にギリアーク、

オロコ、南部にアイヌ(約千人)が、少數居るのみで、内地人は、漸次移住し、殊に夏季には出漁者が多い。

| の比較<br>万人<br>一人 | 全 國 |   | 樺太   |
|-----------------|-----|---|------|
|                 | 内地  |   |      |
| 面積三萬八千九百六十二平方里  | 〃   | 〃 | 二三四〇 |
| 人口三萬八千九百六十二     | 45人 |   |      |

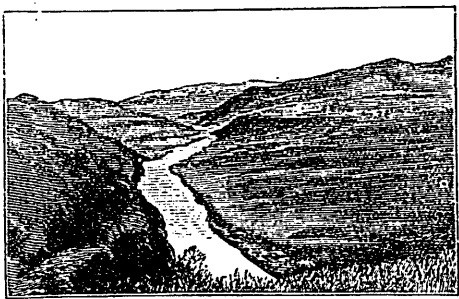
第十章 朝鮮地方 隣(露領)西比利亞、日本海、境(朝鮮海峽、黄海、滿洲)

第一節 地文誌

地境 亞細亞大陸東部の兎形(ウサギガタ)の一大半島で、東より東南にかけては、本州(中國)九州に向ひ、北は豆滿江・白頭山・鴨綠江によつて、露領西比利亞又は支那領滿洲と境し、面積は、本州のそれに近い。



地勢 南部は、名高い金剛山のある大白山脈が、東海岸を走り、日本海に向つて急斜するのて、河流は、概ね山



圖解 朝鮮地方  
の地勢圖

圖解 日露支境  
上の豆滿江

朝鮮の位置と人文  
との關係はどうか

朝鮮の地勢を  
示す略圖を描き  
なさい。

×長白山脈、妙香  
山脈など、格岩の  
蓋馬寮地もある。

國語 永結した  
鴨綠江

朝鮮の主要な島嶼  
港灣を挙げなさい。

△無線電信局あり

脈の西側を流れ、漢江、錦江、榮山江等は西流し、洛東江は南流して居る。北部は、大同江域に平野があるが、東北より西南に向へる數條の山脈があつて、概ね土地が高峻で、就中長白山脈中の白頭火山は、本地方の最高峰である。これから發源する鴨綠、豆滿二江の上流地方には、森林がよく茂つて居る。日本海岸は、出入に乏しくて、永興、迎日二灣と、鬱陵島とがあるに過ぎないが、朝鮮海峽、黃海の方面は、屈曲、島嶼に富み、殊に西南海上は、朝鮮多島海とさへ呼ばれ、最大なる濟州島などがある。又黃海岸は、潮汐干満の差



△七八月の候は雨  
量が多い  
三寒四溫とは如何  
なることか

概要なる官吏は概  
れ内地人である

道と道廳所在地

慶尙南道 釜山

慶尙北道 大邱

全羅南道 光州

全羅北道 全州

忠清南道 公州

忠清北道 清州

京畿道 京城

黄海道 海州

平安南道 平壤

平安北道 新義州

江原道 春川

咸鏡南道 咸興

咸鏡北道 羅南

×内地の町村に相  
當する

朝鮮の政治區劃を  
表示する略圖を描  
きなさい。

釜山・新義州間汽  
車行程二二時間

が多くて、十米に及ぶ處がある。

氣候 南部は、海洋の影響を受けて、溫和であるが、一般に、寒暑が強くて雨量が少なく、北部の河川は、冬季に氷結して車馬を通ずる。又氣候が激變して、三寒四溫の語さへある。

第二節 處 誌

政治 朝鮮總督は、民政全部を統べ、政務總監、それを補佐する。地方を十三道に分つて、各道に知事を置き、其の下に二府（京城、仁川、蔚山、大邱、釜山、馬山、海州、元山、清津）に府尹、數多（三郡）の郡に郡守、郡の下に面に面長、島に島司が置かれてある。

明治四十三年朝鮮總督府設置以來、産業の振興、交通機關の發達、教育の進歩、衛生狀態の改善、司法制度及び警察の整備等に力を盡し、庶民をして、永く治平の座に領らしむることを期してゐる。

都邑 朝鮮海峽岸の釜山は、本地方第一の開港、内地との交

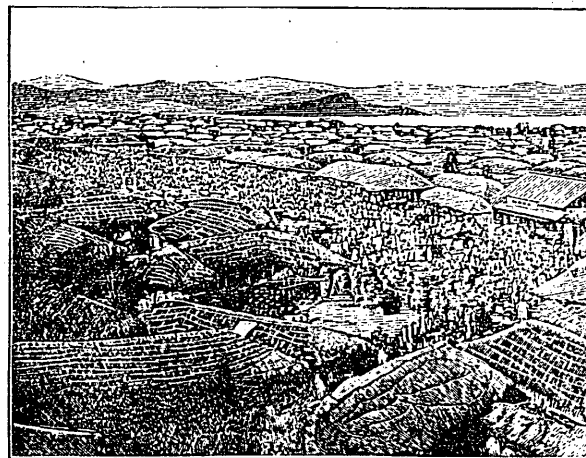


△要港部は佐世保のその能轄  
\*要港地帯

△要港部は佐世保のその能轄  
\*要港地帯

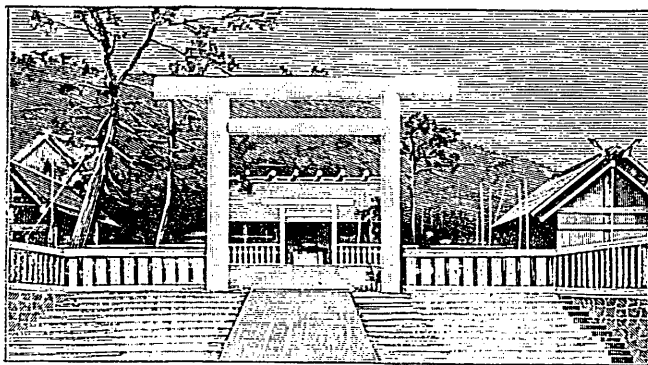
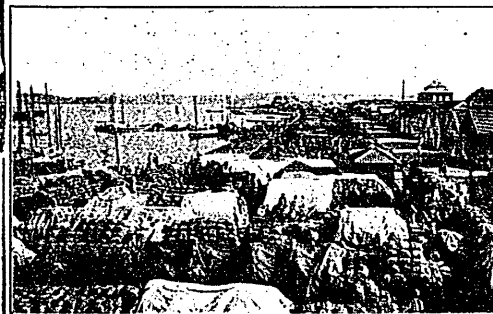
△要港部は佐世保のその能轄  
\*要港地帯

△無線電信局所在

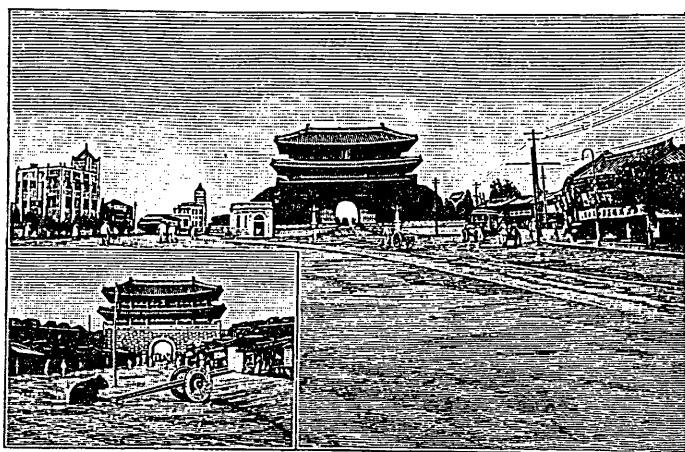


ある。榮山江口の開港木浦は、米の積出が多  
物、又錦江口の開港群山は、米の積出が多

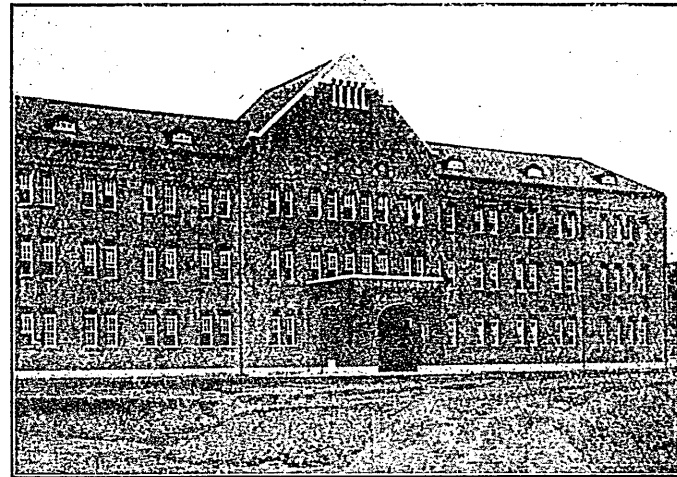
通商業の要門である、鎮海灣岸に馬山と海軍の要港なる鎮海とがある。洛東江平野の開市場大邱(遷善法院所在地)は、春市秋市の開張地として名高く、また農産物の集散も多い。大田は米産地方に興つた新市街で



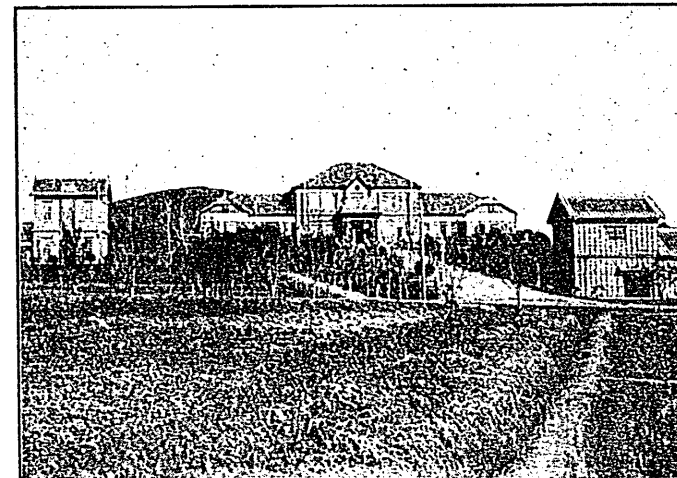
朝鮮神宮



南大門附近の昔



朝鮮大學



水原の農業模範場

東京：京城間汽車  
行程約四七時間  
△無線電信局所在  
\*大學・高商・高工・  
醫專

圖解 人參の耕  
殖と葉と根

開城は高麗の舊都

△飛行第六聯隊の  
所在地  
釜山・京城・平壤の  
特色を述べなさい

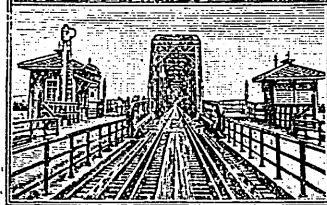
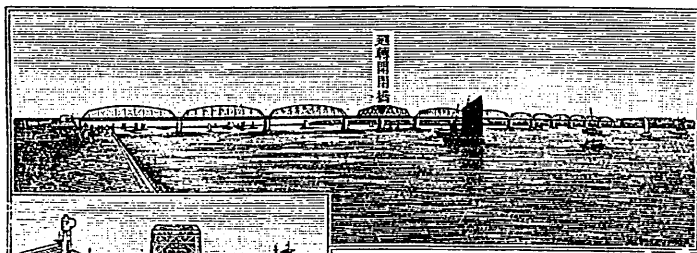
く、共に相俟つて湖南地方の門戸をなし、且つ近海漁業の二  
中心である。黄海岸の開港仁川は、京城の咽喉なるも、港口  
水浅き爲、閘門船渠式の築港成り、米・人參・牛皮等の取引が多  
い。漢江岸の京城（李王宮朝鮮總督府高等法院）は、半島の中央にある  
最大の都市開市場で、朝鮮に於ける  
政治・經濟・學術の中心地である。西  
南部の龍山（京城の區）は、交通上軍事上の  
要地（第二十師司令部）である。

南方の水原は、勸業模範場の所在地、  
北方の開城は、人參を産する。沙里  
院は、農産物の取引が多く、大同江岸  
の開市場たる平壤は、形勝の地位を  
占めて、文祿・日清の兩役に名高く、東



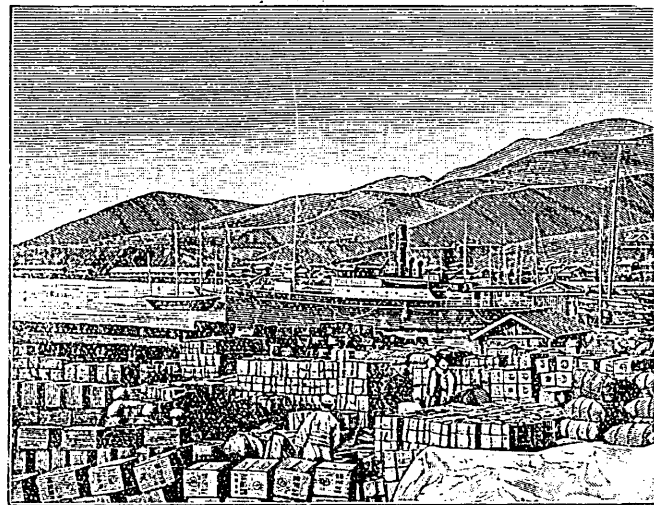
上圖解 鴨綠江  
の鐵橋  
下圖解 清津港  
(次頁参照)

\* 東京より鐵道の  
延長約一千哩  
(東京・下關間七百  
二哩八釜山・京城  
間二百八十哩六)



方に炭田、西方  
に兼二浦、江口  
に開港、鎮南浦  
を控へて、商業  
が盛である。  
鴨綠江畔の開  
港新義州は、鴨

綠江  
上流  
の木  
材を  
集散  
し、安東縣(滿洲)との間に、回轉開閉式の



△延長約千二百米

\* 滿洲の吉林と會  
寧との間

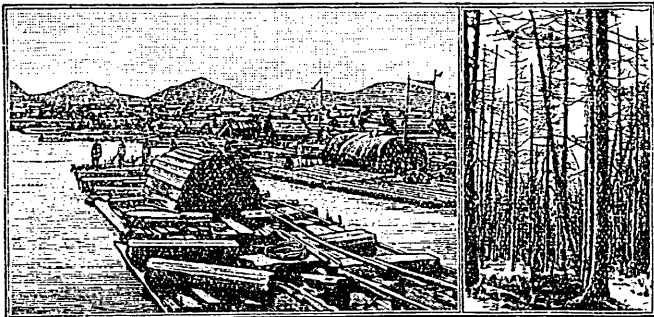
圖解 鴨綠江上  
流の林相と木材  
積下し

△全羅南道を第一  
の産地とする  
穀類も近時發達し  
た  
北鮮では養蠶をな  
すものが多い

大鐵橋がある。元山は、東岸第一の開港で、城津、清津、雄基も東岸の開港である。羅南は、第十九師團司令部の所在地として知らる。北邊の會寧は、軍事交通貿易の要地、又一部敷設された吉會鐵道の起點として、前途有望な處である。

### 第三節 人文誌

産業 土地と氣溫との關係上、農業に適して、之に従事する者が多い。米、麥、大豆、人參、綿、煙草、果實等の産が多く、牧牛が盛で、牛肉、牛皮、牛骨を産出する。鴨綠、豆滿の二流域地方は、森林に富ん

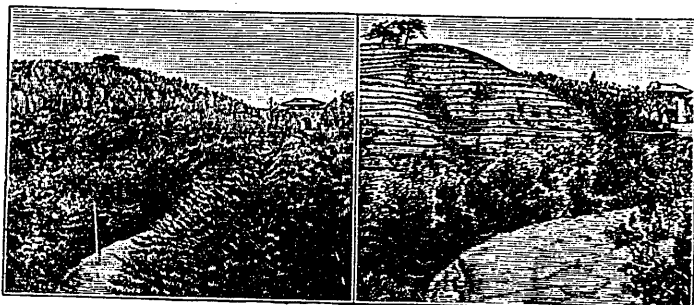


朝鮮の産物の分布  
図を作りなさい

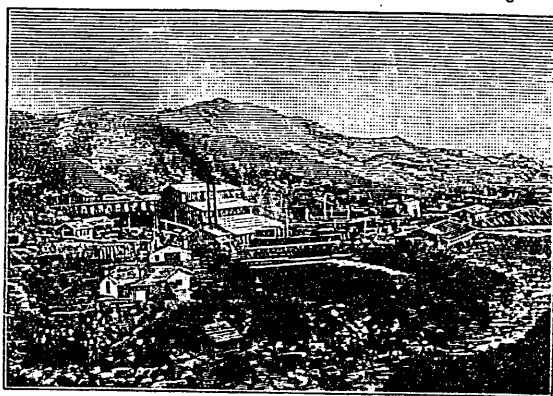
荒れはてしこの山  
川をいかにして我  
が大君の旨に答へ  
む 寺内正毅

|           |     |
|-----------|-----|
| 下圖解       | 雲山金 |
| 坑         |     |
| 上圖解       | 造林  |
| (右)初年度(左) |     |
| 十二年目      |     |

・鎮南浦に製鍊所  
袋二浦に製鐵所が  
ある



て其の伐採も盛  
に行はれてゐる  
其の他の地は濫  
伐の爲、赭<sup>シヤ</sup>禿<sup>トク</sup>地が  
多かつたが、總督  
府設置以來、林政  
に力を用ひたの  
で、林相が漸次よ  
くなつた。 鑛<sup>キョウ</sup>産<sup>サン</sup>  
に、金<sup>雲山、達安</sup>・石炭<sup>順安、稷山</sup>・鐵<sup>寧城</sup>  
（殷栗、安岳）・（平壤）・黑



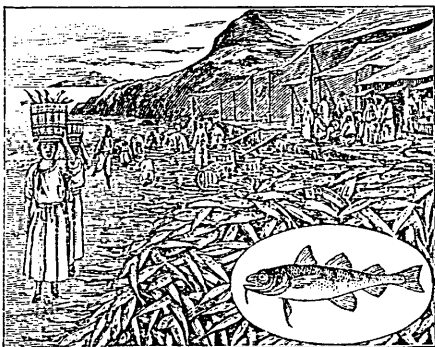
鉛などがある。日本海では明太魚メイタイ、鯨、朝鮮海峽では鯛、鰺、黄海では石首魚シメヅメ、鯢が、

朱安も製鹽地として名高。開港場と開市場との差異

圖解 明太魚  
(前頁參照)

重要移出物品は穀類、鹽物、水産物、砂糖、要移入品は砂糖、金、内地綿布、支那麻布、絹布等、朝鮮銀行、殖産銀行、東洋殖産株式會社、主なる金貨、社等では商業及び機關の開拓の資金を供給してゐる。

三浪津馬山間  
京城仁川間  
京城元山間  
京城南浦間  
京城平壤間  
京城會寧間



多く漁獲せられ、廣梁灣附近では、天日製鹽が行はれてゐる。商業は、主に開市によつて行はれ、三個の開市（京城小坡大邸）と、十一個の開港（釜山、木浦、蔚山、仁川、鎮南浦、龍岩、浦新義州、元山、城津、清津、雄基）とがあつて、内地との移出入が、年々に増加する。

## 交通

交通は内地に遜<sup>ノミナ</sup>らざるまでに

發達した。鐵道は概ね廣軌<sup>(ハ軌幅四呎)</sup>で

京釜京義二線は縱貫線をなし、尙ほ馬山<sup>\*</sup>湖南<sup>\*</sup>南京<sup>\*</sup>仁京<sup>△</sup>元平<sup>\*</sup>南

咸鏡等の諸線がある。汽船は、諸港間又は諸港と内地北支

那浦鹽斯德とを連絡してゐる。

住民 朝鮮人は容貌<sup>ぶつ</sup>が内地人によく似

てゐる。言語は普通諺文<sup>ウリマシ</sup>を用ゐてゐた

| 全國        |         | 内地    |   | 朝鮮 |
|-----------|---------|-------|---|----|
| 一         | 方里の比較人口 | 一     | 〇 | 一  |
| 〇         | ・       | ・     | ・ | ・  |
| ・         | ・       | ・     | ・ | ・  |
| ・         | ・       | ・     | ・ | ・  |
| ・         | ・       | ・     | ・ | ・  |
| ・         | ・       | ・     | ・ | ・  |
| ・         | ・       | ・     | ・ | ・  |
| ・         | ・       | ・     | ・ | ・  |
| ・         | ・       | ・     | ・ | ・  |
| ・         | ・       | ・     | ・ | ・  |
| 面積四五九万平方里 | 二四九九六   | 一一三三二 |   |    |

|              |                           |    |    |    |
|--------------|---------------------------|----|----|----|
| 面積<br>四三五六方里 | 一方里の人口比較                  | 全國 | 内地 | 朝鮮 |
|              | ① . . .<br>. . .<br>. . . |    |    |    |
| 二四九九六        | ② .<br>③ .                |    |    |    |
| 一四三二二        | .<br>.<br>④ .             |    |    |    |

圖解 朝鮮人の一風俗

が、内地人の移住(約四〇萬人)と教育とによつて、漸次内地語が普及されて來た。

朝鮮よりの略信

圖解 朝鮮の女子と洗濯

朝鮮人は、男女を問はず、多くは白衣を着し、長煙管を携へてゐる。由來、早婚の弊が甚しく、無妻者は、老人と雖、童蒙と呼ばれて、衆人より侮蔑せられる。藁葺の陋屋に住み、遊惰安逸であつたが、少しく改まつて來



た。食物は、米、粟、豆を用ひ、溫食を好み、多く辛香類を用ゐる。女子の多くは、男子の残飯に甘んじながら、白衣の洗濯に一生を捧ぐるかの如き觀があるが、最近、教育を受けるものも多くなり、漸く目醒めて來たやうである。

第十一章 關東州

第一節 地文誌

地域 關東州は、日本の租借地で、支那滿洲に於ける遼東半島の西南端を占め、歐亞連絡の一要地である。

地勢・氣候 丘陵の多き小地域なるも、海岸は屈曲が多い。氣候は、寒暑の差が大で、海岸には、氷結する所がある。夏は、氣溫が高く、雨が多い。

第二節 處誌

面積 三〇〇方里二  
元方里)

\*無線電信局所在  
旅順・大連兩市の  
特色はどんなか

關東  
大連の埠  
頭



旅順市(工科大所)は、自然の要害地  
で、關東廳の所在地である。  
新(西)・舊(東)の二市街に分れ、西  
港は、開港場である。大連市  
は、貿易の盛なる港を有し、南  
滿洲鐵道の起點滿洲最要の  
門戸で、市街港灣がよく整備  
せられてゐる。

### 第三節 人文誌

産業 平地乏しく、地味不良  
で、生産力が乏しいが、海岸で  
は、水産業が稍盛である。近

\*樟油・製粉・製麻  
其の他化學工業等  
關東州の交通上重  
要なる所以

△租借期間は明治  
卅一年より九十九  
年間

面積 二〇〇〇平方  
公里  
人口 五萬四千

時大連には各種の工業が勃興した。  
交通 鐵道は、大連を起點として、長春で東支鐵道に連絡し  
てゐる。海運も亦盛である。  
住民 約七十萬で、其の多くは、支那人である。日本人は、廿  
萬に過ぎない。

政治 日露戰役後、我が國が、露國に代つて、租借を繼承し、現  
今旅順に關東廳を置いて、之を管轄してゐる。

## 第十二章 委任統治南洋諸島

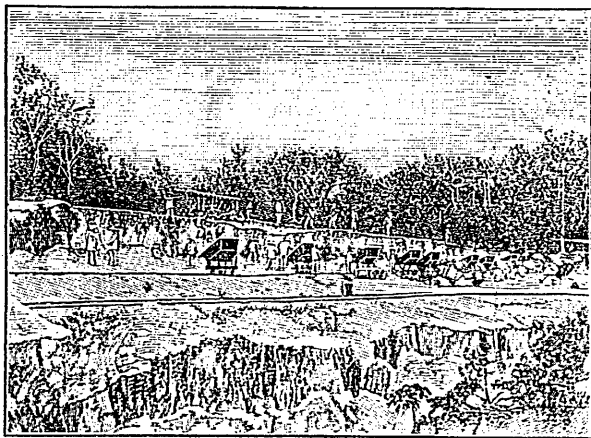
### 第一節 地文誌

地域 小笠原島以南の廣き海面に散布せるミクロネシア  
の大部で、數多の小島から成つて、マリアナ(米領グアム島を除く)・東カロリ  
ナ・西カロリナ・マルシャルの四群島に分れる。

圖解 アンガウル島の燐礦採取

南洋群島の重要な  
所以を考察しな  
い  
横濱港より南洋  
へ如何にして行  
か

\*南洋燐採取所  
がある



地勢 各群島は、珊瑚島が多いが、マリアナ群島には火山島が多い。東西カロリナ群島にも、亦火山島がある。

氣候 各群島は、熱帶地なるも海洋性氣候である。一般に雨量が多い。

### 第二節 人文誌

産業 地域が狭小なる上に、地味が不良である故、勿論農産が少ない。産物は、アンガウル島の燐礦、各島のコブラ、貝殻等

圖解 南洋の土人

ヤルイト・ボナベ  
トルック・サイバ  
ン・ヤップ・パラオ  
アンガウルの島々  
に無線電信局があ  
る



ある。

住民 種族は、ポリネシア族が最も多く、内地人は、未だ五千餘あるのみである。

政治 もとドイツ領であつたが、世界戦争の結果、我が國の委任統治に屬した。コロル島は、西カロリナ群島中のパラオ諸島にある、我が南洋廳は、此の島にあつて、本域の全部を管理してゐる。



## 第二編 總括

### 第一章 地文誌

山脈は山地の根きしもの山系は略し並走せる二個以上の山脈の總稱

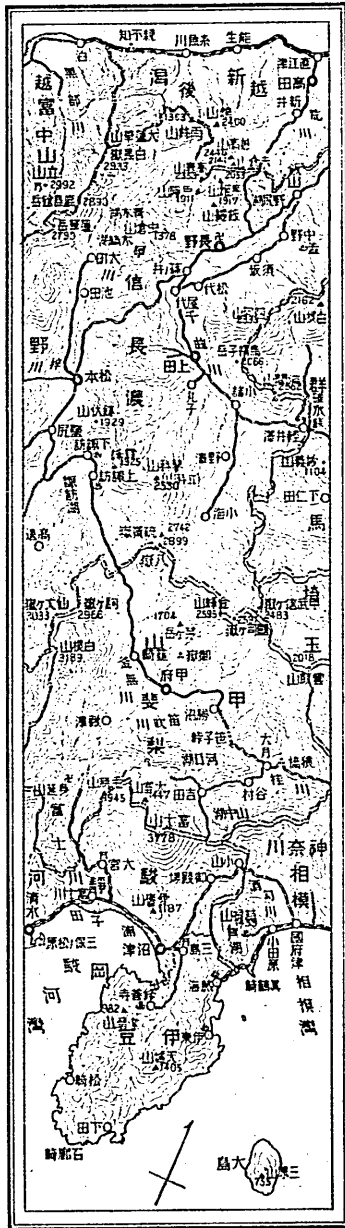
地形 我が國は、數多の山脈と、火山脈とが連つて、山地が多い。従つて大なる河川、湖沼、平野がない。海岸は、出入島嶼が多くて、文化發展の一因をなして居る。

山脈 列島部には、東北山系、西南山系の諸山脈が連互して、兩山系の連接せる本州中部地方は、地積が最も廣く、土地も亦高峻である。半島部には、南部に大白山脈が縦走し、北部には、數條の山脈が斜走して居る。

東北山系 東樺太山脈 西樺太山脈 北見山脈 天鹽山脈 夕張山脈 日高山脈 奥羽山脈  
山系 北上山脈 阿武隈山脈(筑波山) 出羽山脈(羽黑山) 越後山脈 關東山脈(大山)

(赤石山脈 赤石山 白峯山) 木曾山脈 飛騨山脈(鎗岳立山) 伊吹山脈(伊吹山) 鈴鹿山脈

富士火山脈



圖解 田子浦より望んだ富士山

\*列島の一部には水の堆積作用によつて成つた處がある

### 西南山系

笠置山脈 金剛山脈 紀伊山脈(山上岳・大室原山・吉野山・那智山・高野山) 四國山脈(銀山・銀頭山・石鎚山) 九州南部山脈(祖母山・市房山) 中國山脈(達坂山・六甲山・比叡山) 九州北部山脈 婁東山脈 臺灣山脈(新高山・次高山)

火山 我が國は、世界有數の火山國である。従つて白扇倒に懸る富士を始め、秀麗なる山嶽が多い。今其の著名なる火山と火山とを擧げよう。

千島火山脈 千島列島旭岳

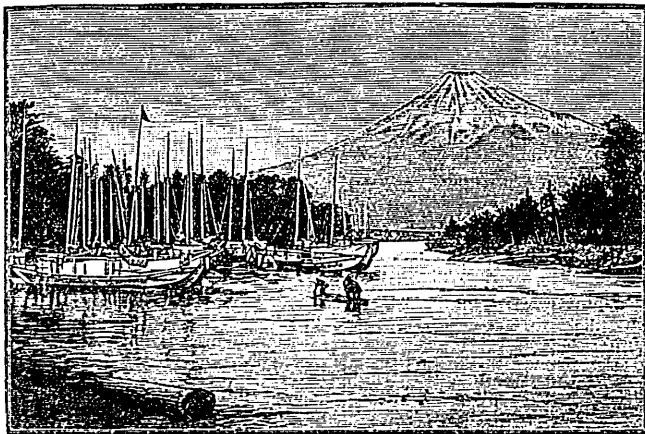
鳥海火山脈 岩木山・鳥海山・月山

那須火山脈 マツカリ岳・八甲田山・岩手山・磐梯山

那須山・男體山・赤城山・榛名山・淺間山

富士火山脈 妙高山・八岳・富士山・箱根山・天城山

伊豆七島・小笠原諸島



＊道後温泉・箱根湯本温泉

圖解 草津温泉  
より望んだ浅間  
山(前頁参照)



乘鞍火山脈御岳・乗鞍・岳立山（一部）  
 白山火山脈白山・大・山・船上山・三瓶山  
 阿蘇火山脈九重山・山布岳・阿蘇山温泉岳  
 霧島火山脈霧島山・櫻島・隔間岳  
 温泉 温泉は、概ね火山地方にあつて、單純泉・鑛泉の二種に分れ、鑛泉に、硫黄泉（箱根・湯根）・鹽類泉（有馬・泉）・酸性泉（草津・泉）・炭酸泉（寶塚・平野）などがある。又熱海・鬼首には、一定時を隔てゝ、水蒸氣・熱湯を噴騰する間歇温泉（ナツ）がある。



河湖 河湖は、概ね交通運輸灌漑  
水力利用の便があつて、都市の成  
立發達に適し、河港湖港を有するものもある。我が國の河

著大の湖沼Ⅱ琵琶湖・霞浦・猿澗湖・濱名湖・猪苗代湖

朝鮮西部の平野は  
數個に分る

× 海溝の最深部は千葉縣布良の南東約八十浬東經百四十一度十六分、北緯三十四度十七分である

川は、概ね短小で急流なる故、運輸交通灌漑の便は少ないが、大に水力を利用することが出来る。内地の石狩、北上、利根、信濃、木曾、淀、朝鮮の洛東、大同、鴨綠などは、稍、交通の便が多い。湖沼に淡水湖、鹹湖がある。我が國の湖沼は、概ね廣大ならざれど、其の數多く、且つ大抵は淡水湖である。

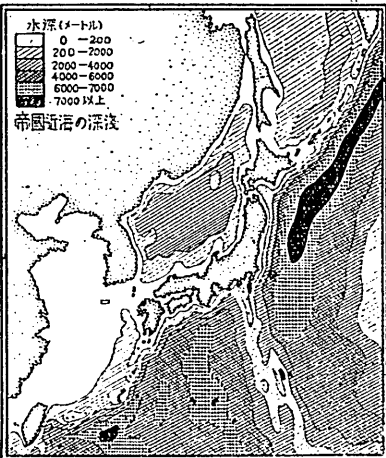
平野　平野の位置が良好で、地味の肥沃なる處は、人類の活躍に適して、農業が榮え、次で商工も賑つて、地方文化の中心となるものである。我が國の平野は、其の數は多いが、大なるものが少なく、石狩關東越後濃尾大阪筑紫の諸平野と、臺灣朝鮮の西部にあるものとが、稍大なるのみである。

**近海** 【深淺】 近海は、太平洋方面が深く、房州沖には九千九百五十米以上に達する所さへある。又千島列島の南方にも、世界屈指の深處タスカロラ海床がある。黄海・東支那

圖解 帝國近海の深淺

海は最も淺くて、日本海附近も、三千六百米を超えない。若し我が近海の海底が、二百米隆起したならば、我が列島の大部は陸續きとなり、且つ亞細亞大陸に接續して、オホーツク海・日本海等は、鹹湖に變ずるであらう。

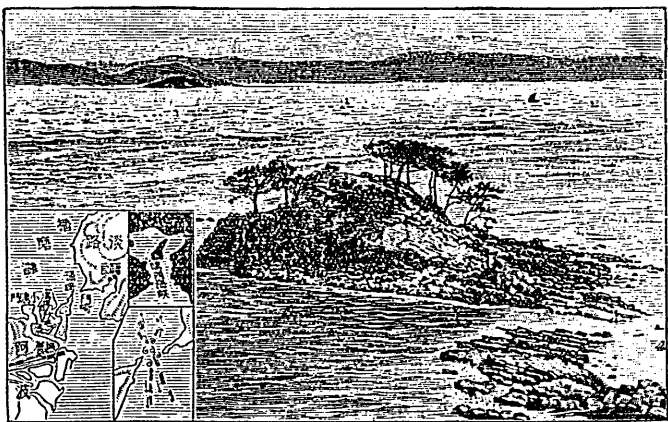
【海流】 海流には、暖流・寒流の二種があつて、氣溫・雨量・漁業・交通に影響する。我が近海には、暖流に日本海流・對馬海流、寒流に千島海流・樺太海流・リマン海流がある。日本海流・黑潮は、太平洋暖流の顯著なもので、比律賓群島の近海より北進して、關東以南の我が國土の太平洋岸を洗ひ、以て雨量を増し、鰻鰻等の魚族を伴ひ、其の末は、北米の西岸に赴いて居る。



圖解 鳴門海峡 (次頁参照)

對馬海流は、之と琉球の近海で分れ、本州の日本海岸を洗つて、氣溫・雨量を増し、津輕・宗谷・間宮三海峡に赴いて居る。千島海流(親潮)は、勘察加半島の近海より、北海道・奥羽地方の太平洋岸を洗つて、氣溫・雨量を減少する。オホーツク海の北部に起る寒流は、樺太島の爲に分れて、一は、樺太の東方から、宗谷海峡に至る樺太海流となり、一は、樺太の西方を経て、大陸の東岸を洗ひ、對馬海峡に達するリマン海流となる。

潮汐 潮汐の干満は、地形によつ



鳴門海峡附近の地図を描きなさい

歐洲にては北緯五十度内外は暖流の影響により温和なるも我が國の北端は寒流の影響によつて比較的寒い如何なる地理的條件が氣温に影響を與へるか  
\*臺灣の南部の小島は二十八度に達することもある  
東京に中央氣象臺、神戸に海洋氣象臺、全國百餘ヶ所に測候所、館野、立山、伊吹山、寶満山等に高層氣象觀測所がある

て異なり、仁川附近は、其の差が十米、有明海岸は五米半に達する。海峡に於ては、潮汐干満の際、内外兩側の水準面が異つて、潮流を起す處がある。鳴門海峡では、潮流の速度が、一時間二十軒で、大渦を捲いて居る。

氣候 【氣温】 我が國は、南は熱帶に入り、北は寒帶に近づき加ふるに地勢海流等の影響によつて各地の氣温が區々であるが、概して中和を得てゐる。即ち年平均溫度二十五度、八月平均溫度二十八度に達する地は稀で、寒冷なる樺太でも、平均溫度は零度以上で、極寒なる一月の平均溫度さへ、零下二十三度に下らない。斯く氣温の酷熱酷寒ならざるは、吾等日本人の幸福である。

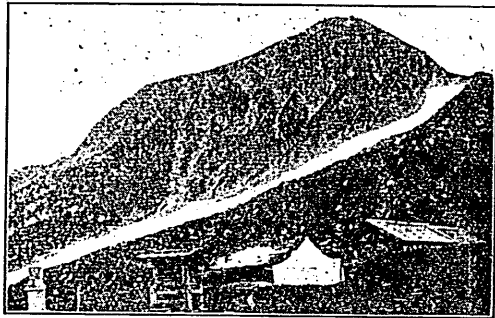
【風】 我が國は、夏季に太平洋より、冬季に亞細亞大陸より、季節風が吹いて来る。この季節風交代の時期即ち春と秋と

△立春からの計算である  
季節風・旋風の人生に及ぼす影響

圖座 立山の氣象觀測所

雨量とは何を云ふか

\*本州の大部、四國・九州・南部朝鮮に著しい  
梅雨時の狀態を述べなさい

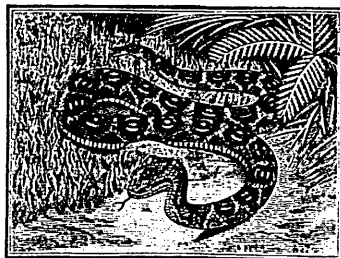


には屢、旋風の襲來することがあつて、二百十日前後は、特に農家の警戒する時である。

【雨量】 我が國は、溫帶中の多雨地の一つで、臺灣の東北部、九州・四國・紀伊の南部、本州中部・奥羽二地方の日本海方面の如きは、年雨量三千軒餘に達し、少雨地（北西朝鮮）にても、一千軒に及ぶ處がある。夏季の季節風の頃は、一般に豊富

で、太平洋方面は、殊に著しく、冬季の季節風の頃は、一般に雨量が少ない。但し本州・北海道の日本海地方は、冬季に雨量が多く、殊に北陸地方は、深雪で名高い。我が國の雨の著しきは、花時の春雨、初夏の梅雨、盛夏の驟雨、初秋の豪雨である。

上圖解 鯢魚  
中圖解 飯匙倩  
下圖解 黃牛と  
水牛



× 林投樹

生物 【動物】 我が國の動物は樺太の馴鹿、千島の臘虎、北海道本島の熊、本州の鯢魚、本州・四國・九州の猿猪、小笠原の海龜、琉球の飯匙倩、臺灣の黃牛・水牛、朝鮮の虎豹を特有とする。

【植物】 日本の植物は其の種類が豊富で、就中琉球以南に阿

圖 較比布分馬

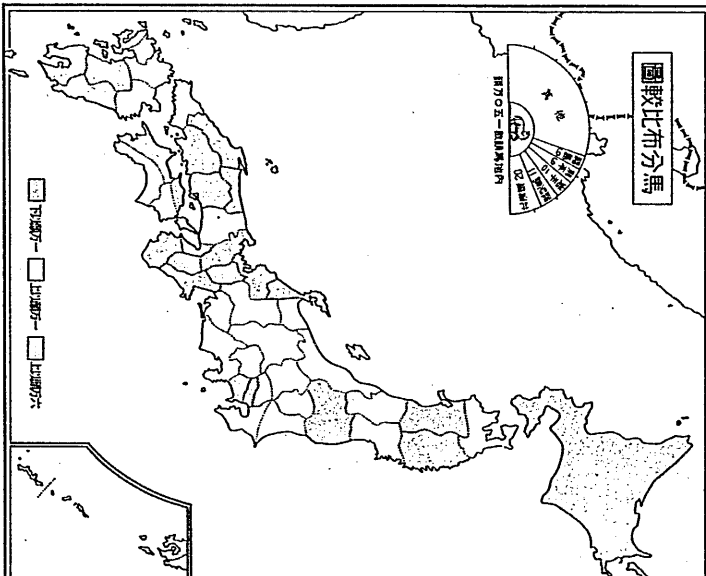
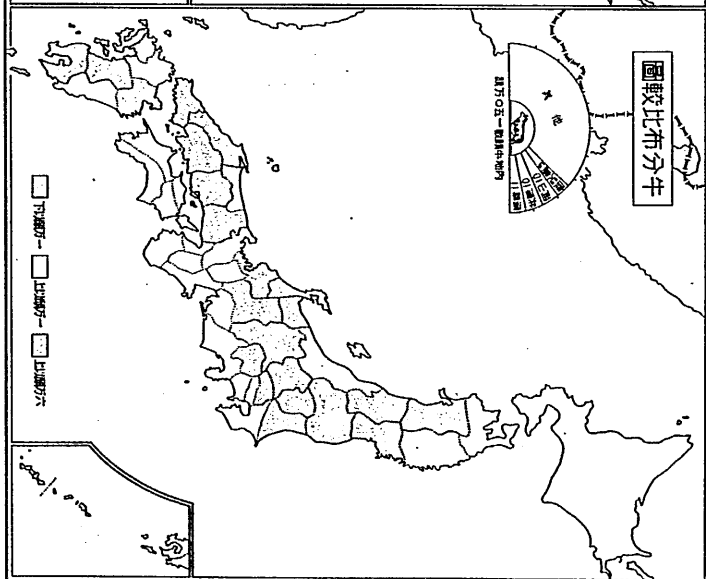


圖 較比布分牛



\*天然林は樺太にあるのみ

圖解 樺松の植林

我が國の主要農産物を擧げなさい  
何故我が國の牧畜業は不振なるか

福岡・愛媛地方には樺の栽培が盛ん



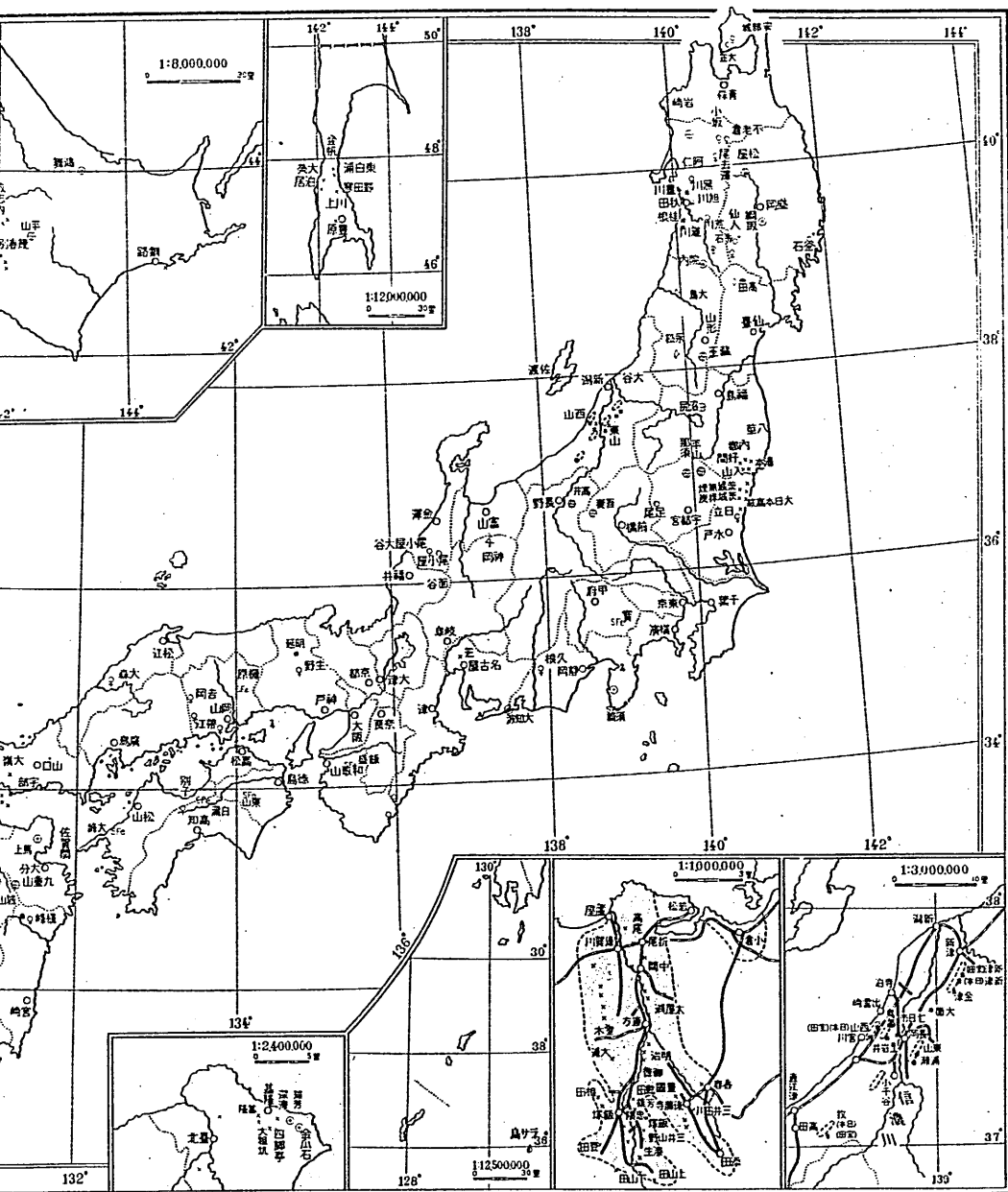
且・榕樹・甘蔗・桫欏<sup>（桫欏）</sup>・臺灣の高地、九州・四國・本州に松・杉・檜・朝鮮に朝鮮松、北海道以北には、白楊・椴松・蝦夷松・落葉松の森林が多い。

## 第二章 人文誌

産業 【農業】 我が國は、古來農を主業として、今も、國民の大半は、之に従事して居る。従つて米・麥・粟・甘藷・豆類・菜種・茶・葉煙草の如き主要農産は、内地の年産額のみにて、二十六億圓を超える。但し綿米・大豆・砂糖等の輸入が多い。

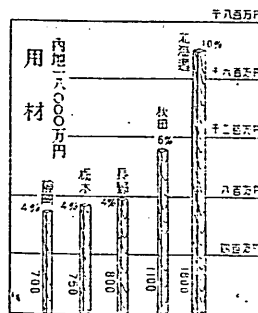
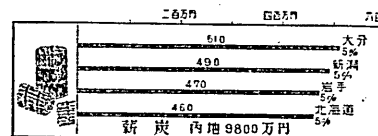
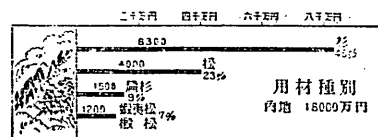
【牧畜業】 牧畜業の發達は、少雨の曠野が必要である。従つてそれを缺く我が國では振はないが、獸肉・牛乳・牛乳製品・羊毛





吸流に生活する  
物を挙げなさい

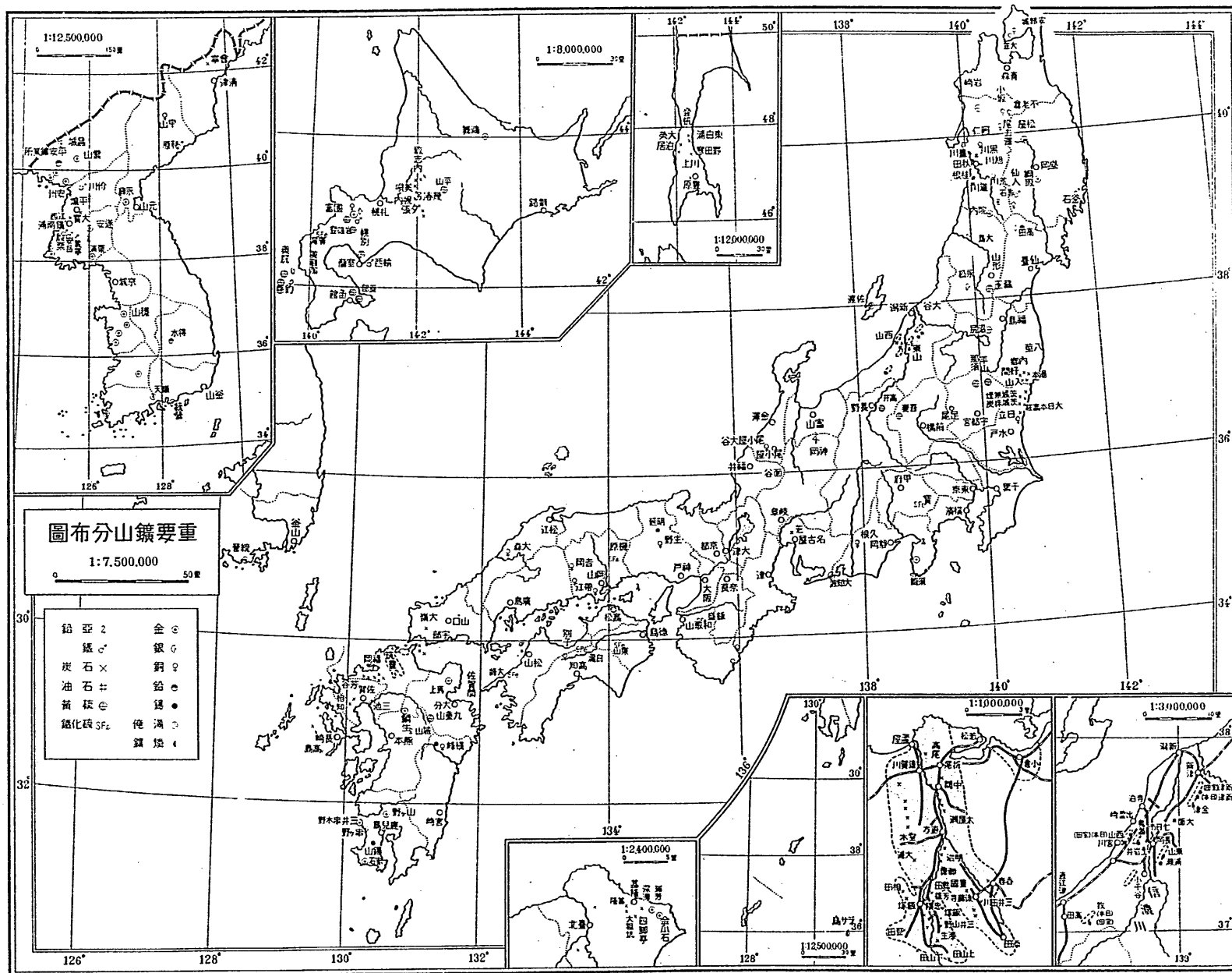
近時は北米合衆國  
カナダより木材を  
輸入する  
森林と人生との関  
係はどうか



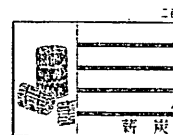
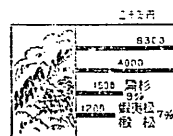
軍馬の需要が年と共に増加するから、  
斯業の發達につきては大に努力せね  
ばならぬ。

【林業】 森林は、木材・工藝品原料・薪炭・薬  
品・果實・樹皮・茸類・ゴム・薬草などを供す  
る。我が國は、内地に用材・薪炭・其の他  
の林産多き上に、臺灣に樟・檜・鴨・綠・江上  
流地方に松・樅・樺・太に榎・松・蝦夷松・落葉  
松・白楊の美林がある。

【水産業】 我が國は、四面、殆ど海を繞ら  
し、近海を洗ふ寒暖二流は、魚族を誘致  
する。北日本の近海は、世界三大漁場  
の一に當れる上に、西に大需要地の支



暖流に生活する生  
 物を挙げなさい



【水産業】 我が國は四面海を繞らし、近海を洗ふ寒暖二流は、魚族を誘致する。北日本の近海は、世界三大漁場の一に當れる上に、西に大需要地の支

遠洋漁業とは如何なることか

我が漁獲物は、鯉、鯉、鰒、鰒を主とし水産製造物は鯉、鯉、鰒を主とする

養殖物には海苔、昆布、鰒などが多く、水産漁獲物と製造物との區別

×大正十一年には十一億斤を超えたが十二年には八億斤であつた

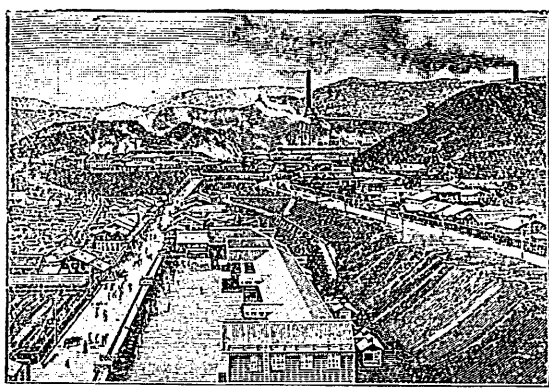
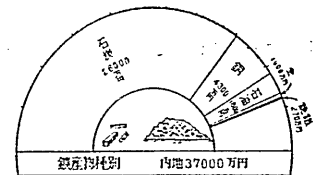
圖解 小坂鐵山

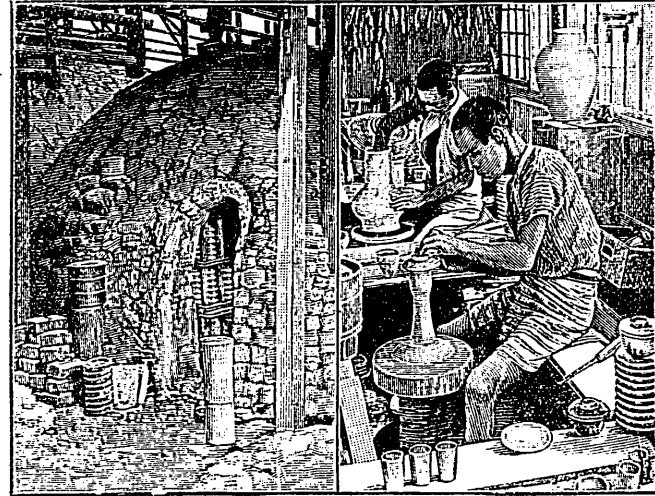
我が國の鐵產物の主なる種類と産地とを擧げなさい

那を控へ、北に漁業區域を擴張し、且つ漁撈・養殖の法も進歩したので、今や内地のみにても、漁獲物・水産製造物・養殖物を合算すれば、年額約四億五千萬圓に上るに到つた。北海道・長崎・千葉・静岡・鹿児島・樺太・朝鮮等は、全國中で漁業の盛な地方である。製鹽は、瀬戸内海地方・朝鮮・臺灣等に著しい。

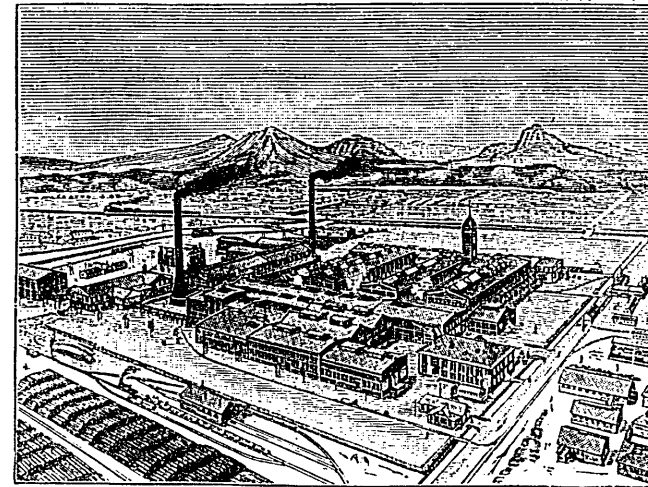
【鑛業】 我が國は、世界有數の鑛業國で、内地のみでも、鑛産年額三億七千餘萬圓以上に達する。

【工業】 我が國民は、由

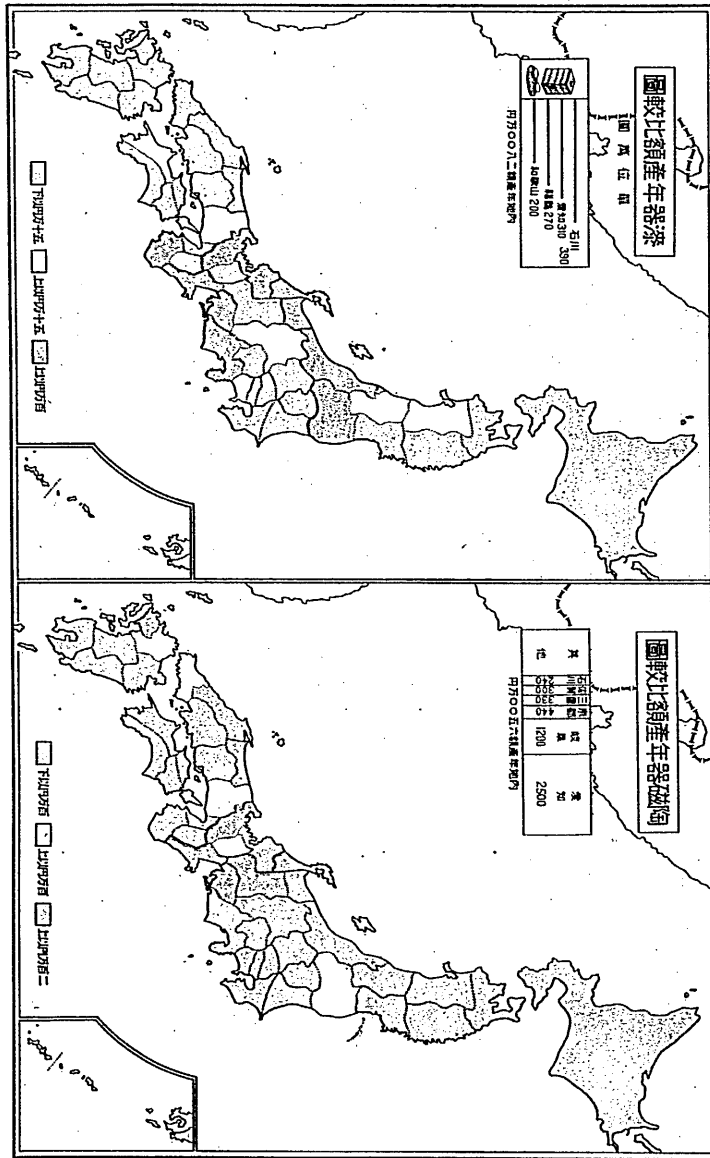




場造製器磁陶



場工牧小皆社會紙製子王

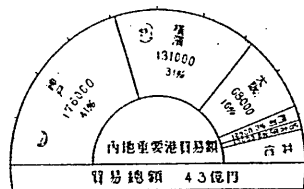
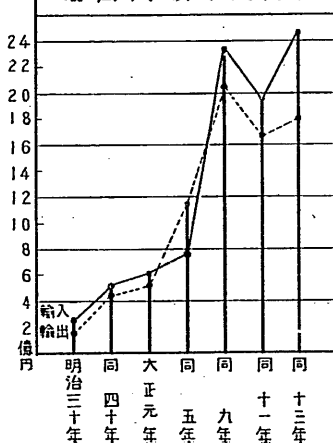


我が國の主要なる工業地帯を記しなさい  
我が國工業に要する原料中最も我が國に缺乏するものは何々なるか

臺灣の七個は支那形給に限り出入を許されたるもの

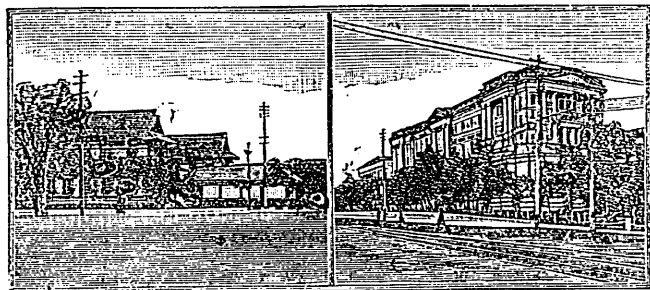
我が國貿易の長所及び短所

輸出入額年度比較



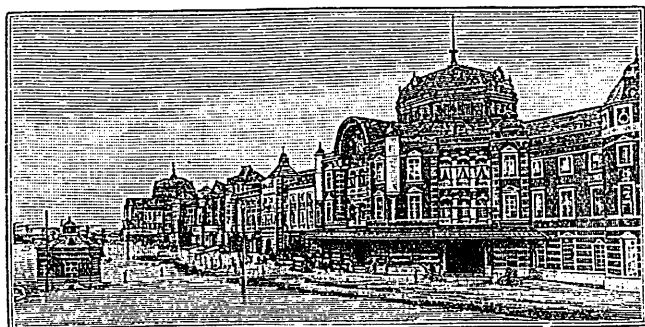
來審美的思想に富み、技藝に長じて、精緻品を産出するに適する。殊に今や手工的工業は、漸く機械的工業に進んで、製絲、綿絲、紡績などが大發達をなし、輸出せらるゝ工業品が、年々多くなつた。

【商業】 樺太に二個、内地に四十一個、臺灣に十一個、朝鮮に十四个の貿易場を有し、世界の重要都市に貿易の發展を圖るべき領事を派遣して、貿易額が激増し、内地のみにても、四十三億圓を算するに至つた。重要なる貿易港は神戸、

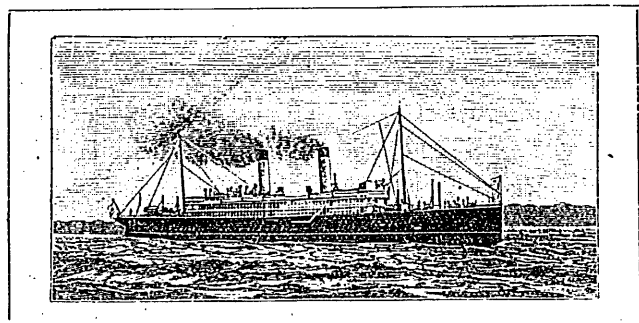


日本銀行

日本銀行



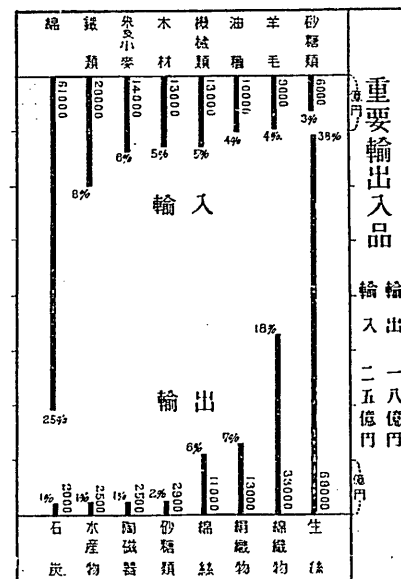
東京駅



丸

國は米・支・印・英・輸出品は生絲・綿織物・絹織物・綿絲・輸入品は綿類・米・麥類・木材・機械類・肥料等である。  
交通 【鐵道】 鐵道の國有制度・私有制度・國有私有並行制度は、各得失がある。軌幅の廣狹も亦然りである。我が國の

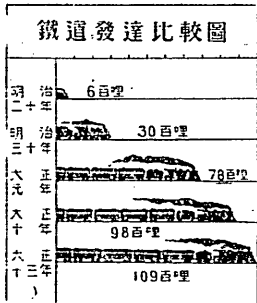
| 輸入   | 重要輸出入國 | 輸出    |
|------|--------|-------|
|      | 億円     | 億円    |
| 北米   | 67000  | 6000  |
| 英領印度 | 39000  | 8000  |
| 英吉利  | 31000  | 9300  |
| 支那   | 29000  | 14000 |
| 獨逸   | 14000  | 35000 |
| 亞太利  | 12000  | 74000 |
|      | 5% 41% |       |



鐵道の種類は所有者の勢力・軌幅によりて區別する文明國の標準軌道の幅は四呎八吋

※近海郵船・大連汽船・南洋郵船・北日本汽船  
我が國海運の現狀を述べなさい

※所在地：東京・岩槻・船橋・銚子・安房・京町・富岡・新潟・金沢・大阪・舞鶴・神戸・下津井・角島・佐世保・大瀬崎・鹿



鐵道は概ね國有で、朝鮮（一小部は狭軌）・滿洲にあるもの、外は、狭軌（大抵三呎六吋）である。鐵道の延長は、内地のみにて一萬哩に達し、殊に關東・近畿の二地方と、北部九州とに、能く發達して居る。

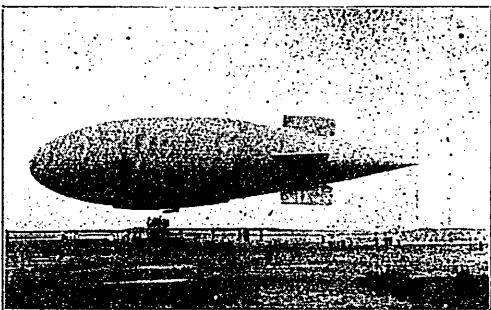
【船舶】 汽船は、約三千四百隻、三百八十餘萬噸に達し、日本郵船・大阪商船・國際汽船・東洋汽船・日清汽船等の汽船會社があつて、歐洲・孟買・カルカッタ・南洋・濠洲・ビスマル・サウンド・桑港・南米・西岸・南米・東岸・紐育・ニール・オールリス等の大航路がある。帆船は、稍大型のものが約一萬四千隻（西貢）ある。

【郵便・電信・電話】 郵便・電信の制度は、頗る發達し、海底電線も、内外各地を聯絡し、又無線電信局を、沿岸の要地及び大洋航行の主なる汽船に設置して、互に通信をしてゐる。電話は、各

兒島・南大東島・ラサ・島・那覇・基隆・鳳山・觀・建・落石・稚内・石狩・大泊・京城・木浦・大連・ヤル・イト・ボナベント・ル・ック・サイパン・ヤップ・パラオ・アンガウル等

國解 海軍最新式エヌエヌ型飛行船

遠からず航空路も設定せられやう  
我が航空軍の總機は五百にして世界第五位  
我が國の航空につきて知れるところを述べなさい



都市に行はれ、長距離のものも、漸次擴張するに至つた。近時港灣に於て無線電話利用せられ、又大都會に於て、無線電話放送が行はれる。

【航空】 我が國の航空事業は、列強に比して、頗る遜色あるも、近時、漸く其の發達を見る。陸軍にては、戦闘偵察爆撃等のため、飛行八聯隊及び氣球隊を編成し、數ヶ所に飛行學校を設けた。海軍にては、横須賀（連）霞ヶ浦（連）佐世保・大村・四箇所に航空隊を置き、又航空母艦をも備へた。尙ほ航空輸送も開始せられ、遙に歐羅巴へも飛行するものがあるに至つた。  
住民 【人口】 我が國の總人口は七千八百萬、一方料の平均

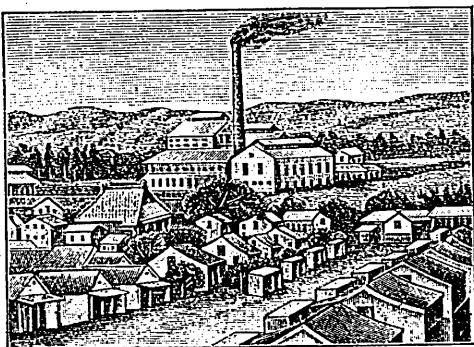


自然は如何に人口の疎密に影響を及ぼすか

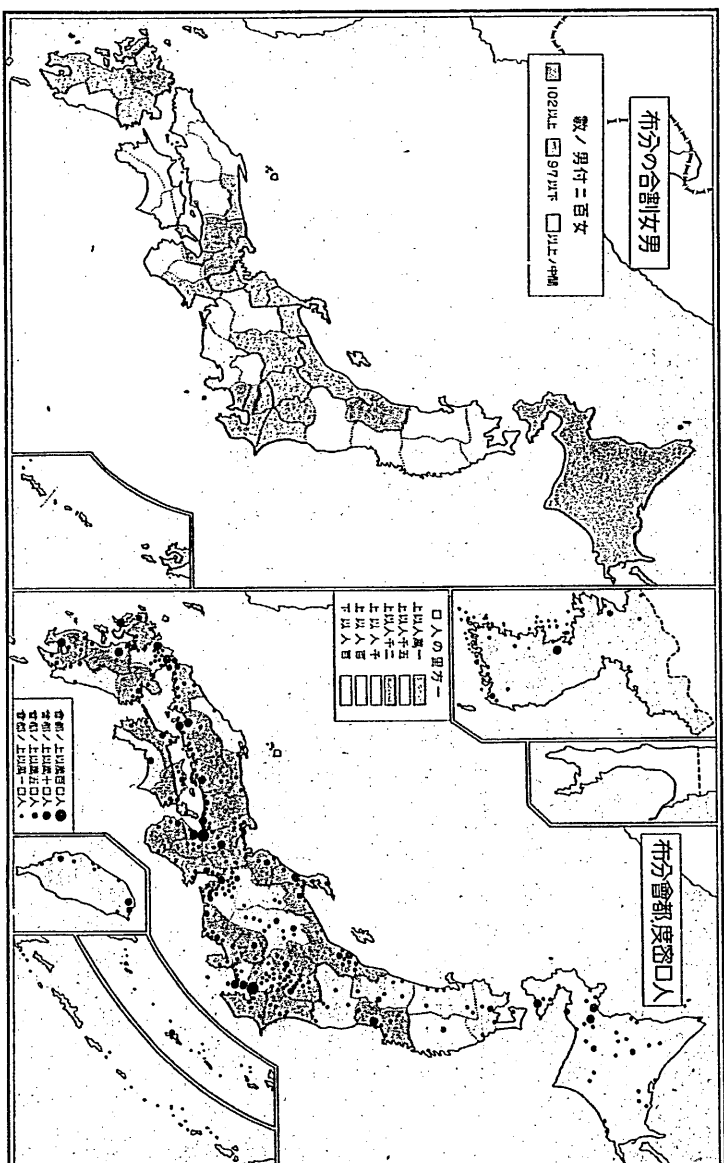
上圖解 國勢調  
査に當る内閣統  
計局の機械製表  
下圖解 ハワイ  
に於ける移住日  
本人の村落

【種族】

我が國民は、日本(大和)族が約八



密度は、一百三十人に近い。東京・大阪・

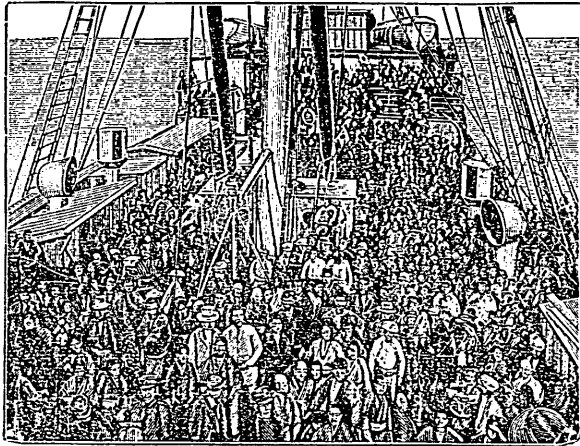
[illegible]

我が國民の種族を  
擧げなさい

圖解 若狭九甲  
板上のフラジル  
行き日本移民

圖解 日本の各  
種族(右より大  
和族、朝鮮族、漢  
族、高砂族、アイ  
ヌ族、ギリアイ  
ヌ族、オロッコ  
族)南洋諸島の  
ポリネシア族を  
略する

宗教とは如何、我  
が國の宗教につ  
き  
て述べなさい



割を占めて、他の種族を  
同化しつゝある。朝鮮  
に朝鮮族、臺灣に漢族、高  
砂族多く、北海道樺太に  
少數のアイヌ族住み、尚  
ほ少數のギリアイヌ・オ  
ロッコの二族が、樺太にゐ  
る。高砂族は馬來人種、  
アイヌ族は歐羅巴人種  
に屬し、其の他は、亞細亞  
人種に屬する。

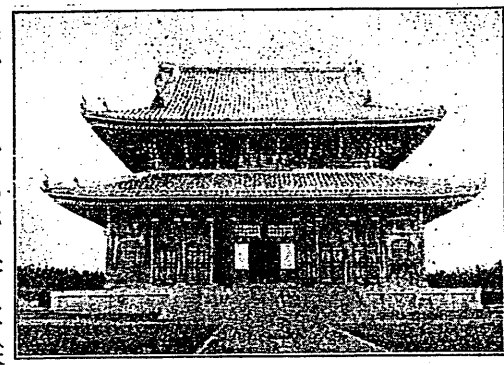
宗教 我が國には、神道・佛教・基督教が行れてゐる。  
神道は多神教の一で、神道黒住教・修成派大社教等



圖解 曹洞宗大本山總持寺(横濱附近鶴見)  
國府 北海道大學と其の附屬の牧畜場

神社の區別につきて知るところを述べなさい

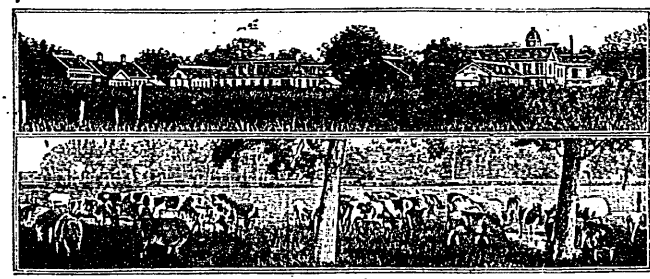
\*無格社もある



の十餘派がある。佛敎も亦天台眞言淨土臨濟曹洞黃檗眞日蓮等の十餘宗五十餘派に分れて、寺院數は約十一萬ある。

神社 神社は、我が皇祖・皇宗を始め、忠臣・賢士等の靈を祭祀し、大神宮を始め、官幣社(社大社中)・別格官幣社・國幣社(社大社中)・府縣社・郷社・村社等に分れて、其の數が約十一萬ある。

教育 我が國は、教育がよく普及發達して、



官公立重要學校

大學 東京京都福岡仙臺札幌以上帝大 新潟岡山千葉金澤長崎以上醫大 東京商大旅順工大公立大學 大阪名古屋京都熊本以上醫大 京城にも官立大學がある

高等學校 東京(二) 仙臺 京都 金澤 熊本 岡山 鹿兒島 名古屋 新潟 松本 山口 松山 水戸 山形 佐賀 弘前 前松江 大坂 浦和 福岡 静岡 岡崎 姫路 廣島 臺灣 富山 公立

高等師範 東京 廣島

女子高等師範 東京 奈良

高等商業 小樽 福島 名古屋 山口 長崎 大分 和歌山 彦根 神戸 横濱 高松 高岡 大坂 臺北 京城

高等工業 仙臺 米澤 桐生 廣瀨 金澤 名古屋 神戸 廣島 熊本 東京 徳島 濱松 大坂 長岡 福井 中府 福岡 京城

高等工藝 東京 京都 高等農林 盛岡 鹿兒島 宇都宮 岐阜 富山 崎島 取農 三重 津 臺北 水原

高等蠶業 京都 上田 霧 東京 礦山專門 秋田

各種專門 東京 外語 美術 音樂 水産 講習所 大阪 外語 富山 藥專 宇治 山田 神宮 皇學館 戸畑 明治 東京 神戸 以上商船 京城 醫專 臺北 醫專 以上官立 福岡 女子 京都 給進 大坂 女子 松戸 園藝 以上公立

今や支那等よりの留學生をも見るに至つた。小學校數は、二萬五千校にあまり、學齡兒童の不就學者は、實に百分二に満たない。中學校の生徒數は廿二萬、高等女學校のそれは十九萬ある。高等教育には、文部省管轄の諸學校が急増し、公立私立に

私立の學校は省略した又臺灣・朝鮮に於ける學校中略したるものもある

學校の所在は其の土地に如何なる影響を與ふるか地理的に考察しなさい

大都市の益、擴大する所以  
附録の表によりて人口十萬以上の都邑を挙げなさい

國土の境界は何によるか我が外國となす境界線を述べなさい

係るものもある。又各府縣に、師範學校がある。陸海軍の主なる學校に、陸軍大學校、陸軍士官學校(東京)、海軍大學校(東京)、海軍兵學校(江田)、海軍機關學校(鶴舞)がある。都邑 我が住民の多數は農村に在つて、都市に住するものが割合に多くない。併し交通機關の進歩と、商工業の發達とにつれ、大都市が益、擴大されて、小都邑村落が、漸く衰頽する傾向がある。

政治 【國土】 國土とは、山脈、河湖、海岸又は經緯線などで限られた一定の地域である。我が國は、海面を境界として居たが、今や樺太では、條約に基き、北緯五十度線上に、林空作業を施し、又標石を置いて露領と境し、朝鮮では、鴨綠江、白頭山、豆滿江を以て、支那、ロシアと境して居る。

【國體】 我が國は、萬世一系の天皇を戴き、皇室の尊嚴、臣民の

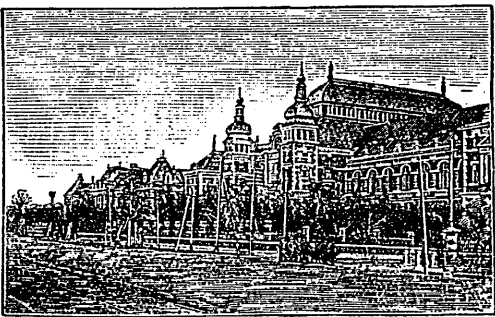
仰慕は、他國に比類なく、義に於ては君臣情に於ては父子とも謂ふべき圓滿なる君主國體である。

\*現時衆議院議員の定員は四百六十四名主なる政黨は憲政會・政友本黨・政友會  
普通選舉實施の時は定員四百六十六名となる

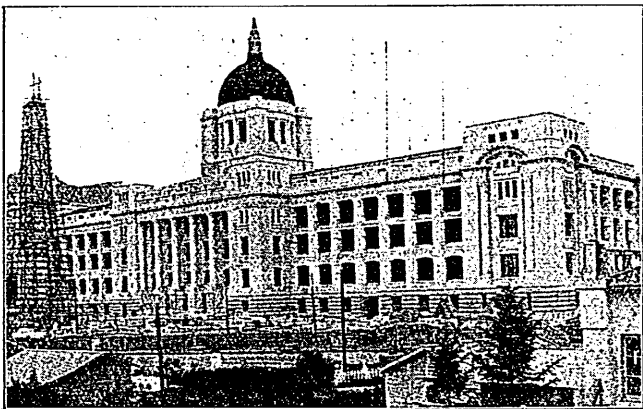
閣議 大審院・東京控訴院等

衆議院議員は如何にして選出するか

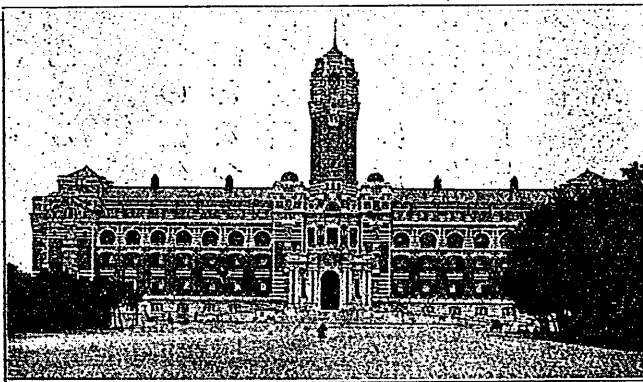
【政體】 明治二十二年紀元節の當日に、憲法が發布せられ、其の翌年、帝國議會の招集があつて、東洋最先の立憲政體となつた。立法機關は、則ち帝國議會で、貴族院・衆議院より成り、主に法律案、豫算案を議定する。司法機關は、則ち裁判所で、主に民事、刑事事にかゝる訴訟を審判する。朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳に屬する裁判所の外に、一大審院(東京)、七控訴院(東京、仙台、盛岡、長崎、廣島、大坂、神戶)と、數多の地方裁判所、區裁判所とがある。行政機關は、政府で、中央の



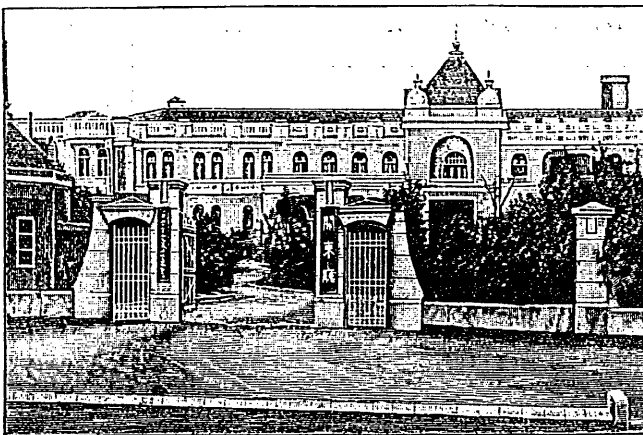
朝鮮總督府



臺灣總督府



關東廳



\*内務外務陸軍・海軍司法大藏文部・逓信・農林・商工・鐵道

各地方廳の所在地を記しなさい

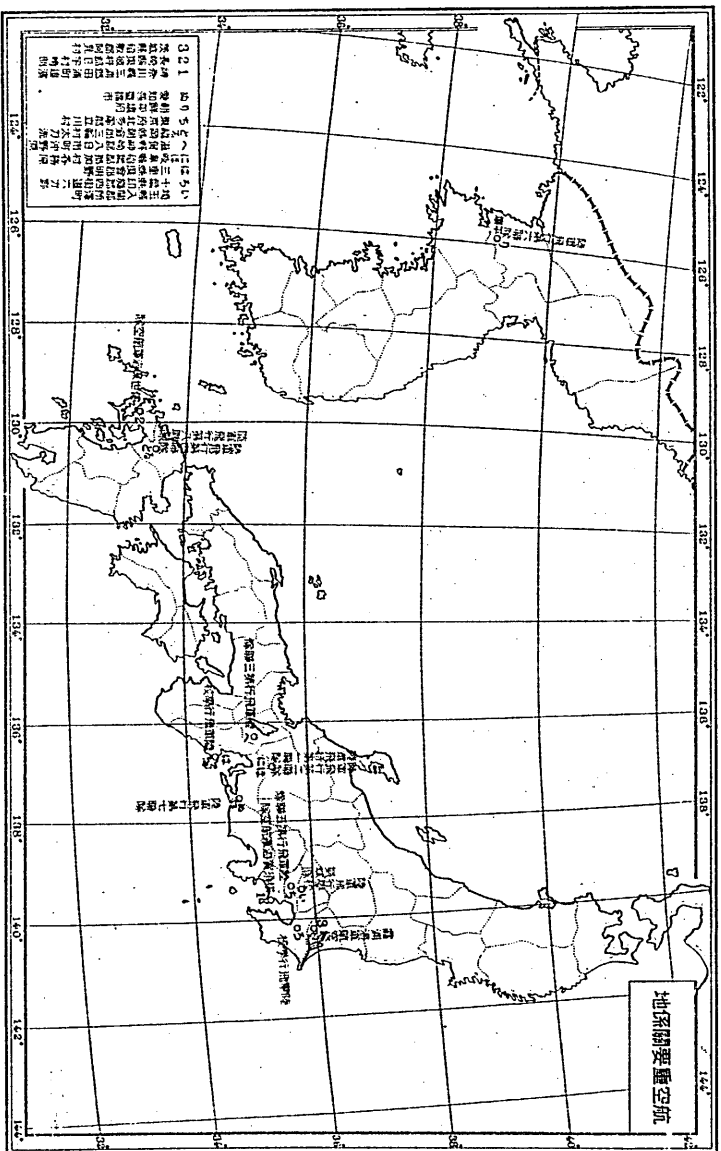
十一省が、全國の行政を分掌し、内閣が之を統一する。十一省の大臣と、内閣總理大臣とは、共に國務大臣として内閣を組織し、内閣總理大臣が、其の首班を占めてゐる。地方には、三府・四十三縣に知事、北海道・樺太・關東・南洋の四廳に長官、朝鮮・臺灣に總督を置く。府縣の下なる市に市長があり、町村に町村長がある。右の府縣・市・町村は、自治機關を有する地方團體である。朝鮮總督府には、十三道に長官、長官の下に府尹・郡守などが置かれてある。

【外交】我が國は、三十餘個の國と條約を結び、通商航海をなして居る。先きには、東洋の禍根であつた朝鮮を併合し、老大不振の感ある支那に勢力を扶植し、英米と並びて世界の三大強國と稱せられ、太平洋の問題につきて、米英佛と協定する所があつた。

【軍備】明治維新後、國民皆兵の古制に復して、全國の壯丁は、何れも陸軍又は海軍の兵役に服することとなつた。國民は忠君愛國の情が燃え、勇氣があつて、海に馴れて居る。是れ我が國が、武名を世界に轟し、殊に極東の覇者たる所以である。陸軍は、内地を十四師管に分ち、師管區の要地（東京、仙臺、廣島、熊本、旭川、弘前、金澤、姫路、善通寺、久留米、宇都宮、京都、神戶、南、京城）に師團司令部を設け、別に東京に、近衛師團を置いて、宮闕を守らしめ、臺灣、滿洲に守備隊を置き、また要地には要塞を置いてある。又各地に飛行聯隊も設置された。海軍は太平洋會議により、主力艦三十一萬五千噸のみを有することゝなつた、全國の海岸、海面を三個の海軍區に分ち、各海軍區の軍港（横須賀、吳、佐世保、大湊、馬公、基隆、海公）に鎮守府があつて、之を分管し、尙ほ要地に、海軍の要港（神戸、鎮海、海公）を置いて居る。

【財政】我が國の歳入・歳出は、今や十六億圓を計上し、又國債

我が國の主要なる  
要塞地  
主力艦・軍港・鎮守  
府・要港を説明し  
なさい



勤儉と国力伸張と  
の關係はどうか

額も、五十億圓に達し、其の利子のみにても、優に日清戦争前  
の歳出に超過する。是れ吾等が、華を去り、實に就き、日夜學  
業に勵精し、産業に努力せねばならぬ所以である。



帝國新地理終

大正十四年十二月十二日發行  
大正十五年一月廿五日訂正發行  
大正十五年一月廿五日訂正發行

帝國新地理奧附  
定價 金八拾八錢  
臨時定價 金壹圓五拾錢

著者

東京市牛込區揚場町壹番地

地理教授同志會

著作權所有

發行者

東京市牛込區揚場町壹番地

外松荒三

印刷者

東京市京橋區弓町廿五番地

高橋郁

發行所

東京市牛込區揚場町壹番地

帝國書院

振替口座六七〇一四番

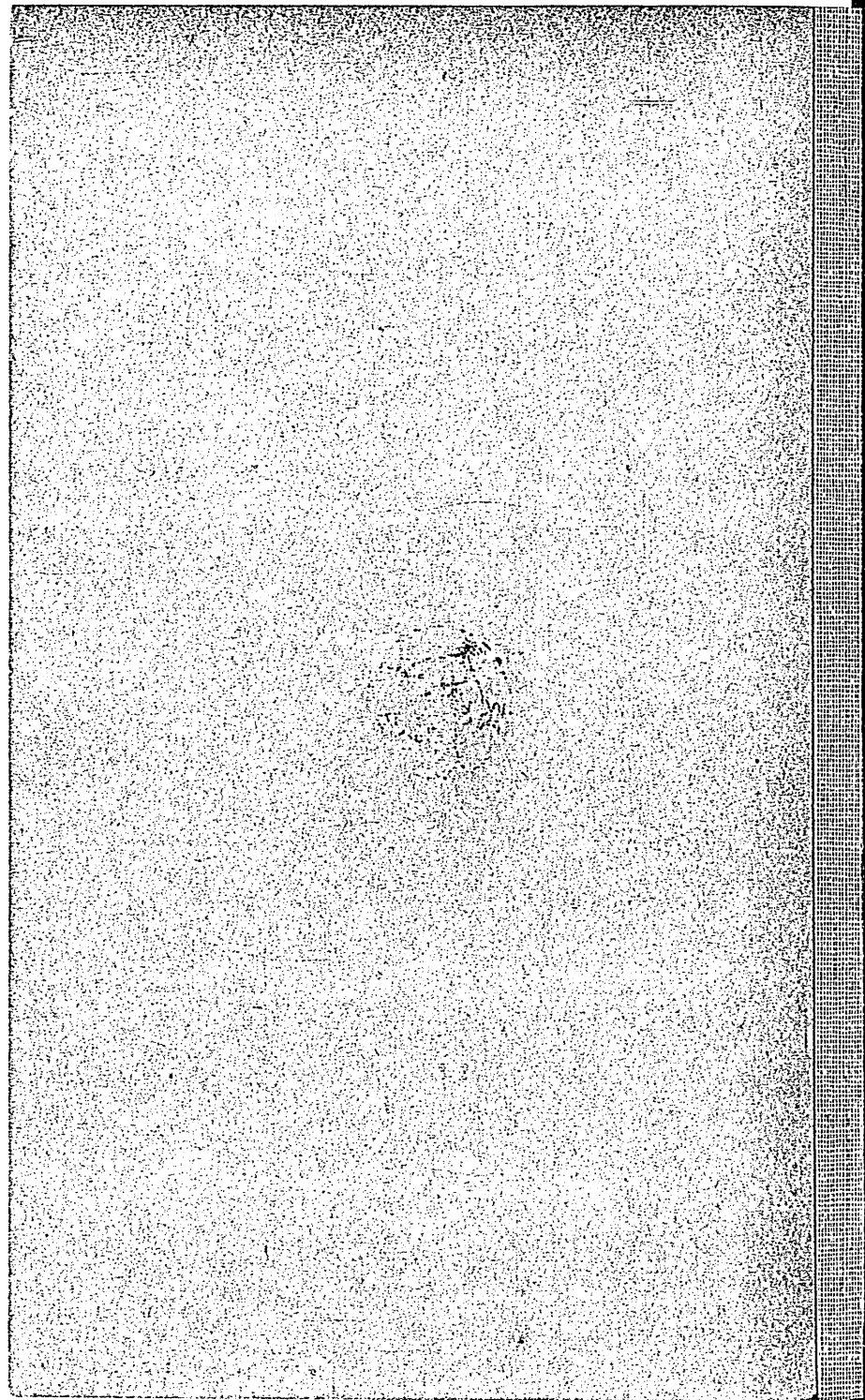
關西販賣所

大阪市東區南本町四丁目

三宅莊藏書店

振替口座大阪六九番

不許複製



641

卷之四